

福 井 遺 跡

四国横断自動車道（南国～伊野）建設
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999. 3

(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

福 井 遺 跡

四国横断自動車道（南国～伊野）建設
工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター



福井遺跡遠景



福井遺跡完掘状況



福井遺跡完掘状況



住居跡 (ST2) 完掘状況



埋納土坑 (SK1) 検出状況



出土遺物（玦状耳飾・150）



出土遺物（須恵器）

序

これまで数々の四国横断自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査が行われてきました。そして数々の貴重な発見があり、高知県の古き歴史を解き明かすうえでも大きな成果を得ています。今回、高知市の福井遺跡の調査においても同様に多くの成果を得ることができました。福井遺跡の調査では縄文時代から中世にかけての当時の生活を忍ばせる多数の資料が出土し、弥生時代の住居跡など、その時代の集落跡を主とする遺跡の存在が確認されました。これにより、地域の歴史をより明らかに振り返ることができることと思います。

現在高速道路に姿を変えた当遺跡ですが、今は道路網における自動車交通による他地域との交流が、そして発掘された時代にも他地域との交流があったと思われる調査成果が得られていました。発掘調査による成果は、現在そして未来を考えるうえで、過去を振り返ってみるその時の材料とするため、高知県の諸地域の歴史を解明していくうえでかけがえのない文化遺産として、伝えられなければいけません。本報告書により埋蔵文化財を含む歴史を知ることに対する理解と関心が一層深められれば幸いです。

最後になりましたが、今回の発掘調査を実施するにあたり、御配慮、御協力いただきました関係各位に対しまして、ここに厚く御礼申し上げます。

1999年3月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所長 古 谷 碩 志

例 言

1. 本書は、高知県文化財団埋蔵文化財センターが平成5年度・6年度に実施した四国横断自動車道建設に伴う福井遺跡発掘調査の報告書である。福井遺跡は高知県高知市福井字大谷屋敷1525他に所在する。
2. 発掘調査は、以下の通り実施した。
試掘調査は平成6年1月24日～平成6年3月31日まで、本調査は平成6年4月13日～平成7年3月24日まで実施した。
3. 調査面積
試掘調査250㎡
本調査5,000㎡
4. 調査体制
試掘調査
江戸 秀 輝（高知県文化財団埋蔵文化財センター 主任調査員）
本調査
江戸 秀 輝
坂本 憲 昭（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員）
総務担当
大原 裕 幸（高知県文化財団埋蔵文化財センター 主幹）
吉岡 利 一（ 同 主幹）
本書の編集は江戸が行った。執筆は江戸・坂本が行った。また報告書作成にあたって執筆等を含め出原恵三氏（高知県文化財埋蔵文化財センター調査第3班長）に協力を得た。
5. 発掘現場作業員は下記の方々である。記して感謝の意を表したい。（敬称略）
井上郁雄 今村重臣 岩佐理恵 大賀幸子 大崎久彰 小原勝雄 加志崎悦子 刈谷絹恵
川村悦子 河村洋子 国沢英子 國澤絵美 国沢数代 国沢節子 國澤美紀 高橋 初
竹下美浦 多田晃三 中村純子 林 亨也 福田 修 藤林昭博 松竹和子 松本明美
三瀬薫子 森岡亜衣子 森田徳美 山本 櫛
（重機操作）国沢孝水 国沢清二 藤崎昌弘 藤原利幸
6. 物整理・報告書作成に関する作業員は下記の方々である。記して感謝の意を表したい。（敬称略）
岩本須美子 大賀幸子 大原喜子 尾崎富喜 小原勝雄 國澤美紀 小松経子 松木富子
宮本幸子 矢野 雅 山本裕美子 山本由里
7. 出土遺物は高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

本文目次

第 I 章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境	1
第 II 章 調査に至る経過と調査の方法	4
1. 調査に至る経過	4
2. 調査の方法	5
第 III 章 調査成果	6
1. 調査区の概要	6
2. 検出遺構と出土遺物	18
(1) I 区	18
(2) II 区	18
(3) III 区	23
(4) IV 区	32
3. 出土遺物観察表	33
4. 出土遺物実測図	52
第 IV 章 考 察	70

挿 図 目 次

図1	遺跡位置図	1
図2	福井遺跡周辺の遺跡分布図	2
図3	福井遺跡位置図	7
図4	福井遺跡調査区地形図	9~10
図5	福井遺跡遺構平面図（全体図）	11~12
図6	I区・各TR土層断面図（1）	13
図7	I区・各TR土層断面図（2）	14
図8	II区土層断面図	15
図9	III区土層断面図	16
図10	IV区土層断面図	17
図11	I区（I-6区第一検出面）遺構平面図	19
図12	I区遺構平面図	20
図13	I-3区ST1平面図・断面図	21
図14	II-1・II-2・II-3区遺構平面図	24
図15	II-4・II-5・II-6区遺構平面図	25
図16	II-5区ST2平面図・断面図	26
図17	II-3区SK1、II-5区SK2平面図・断面図	28
図18	II-2・II-3区ST3平面図・断面図	29
図19	II-1区ST4平面図・断面図	31
図20	出土遺物実測図I-1、I-2区	53
図21	出土遺物実測図I-4区	54
図22	出土遺物実測図I-4区	55
図23	出土遺物実測図I-4区	56
図24	出土遺物実測図I-4区	57
図25	出土遺物実測図I-4区	58
図26	出土遺物実測図I-5、I-6区	59
図27	出土遺物実測図II-5区ST2	27
図28	出土遺物実測図II-2、II-3区ST3	30
図29	出土遺物実測図II-3区SK1	30
図30	出土遺物実測図II-1区	60
図31	出土遺物実測図II-2、II-3、II-4区	61
図32	出土遺物実測図II-5、II-6区	62
図33	出土遺物実測図III区	63

図34	出土遺物実測図Ⅲ区	64
図35	出土遺物実測図Ⅲ区	65
図36	出土遺物実測図Ⅳ-1、Ⅳ-2、Ⅳ-3	66
図37	出土遺物実測図Ⅳ-3区	67
図38	出土遺物実測図Ⅳ-3区	68
図39	出土遺物実測図Ⅳ-3区	69
図40	出土遺物実測図Ⅳ-3区	70

写真図版目次

PL. 1	福井遺跡遠景	
PL. 2	福井遺跡完掘状況	
PL. 3	住居跡完掘状況・埋納土坑検出状況	
PL. 4	出土遺物	
PL. 5	完掘状況遠景・全景	75
PL. 6	I区完掘状況・I-3区ST1完掘状況	76
PL. 7	II区完掘状況・II-5区ST2完掘状況	77
PL. 8	I区溝状遺構・II-3区SK1	78
PL. 9	II区検出状況	79
PL. 10	III区検出状況・IV区検出状況	80
PL. 11	I区遺物出土状況	81
PL. 12	II区遺物出土状況	82
PL. 13	III区遺物出土状況	83
PL. 14	IV区遺物出土状況	84
PL. 15	出土遺物(1)	85
PL. 16	出土遺物(2)	86
PL. 17	出土遺物(3)	87
PL. 18	出土遺物(4)	88
PL. 19	出土遺物(5)	89
PL. 20	出土遺物(6)	90
PL. 21	出土遺物(7)	91
PL. 22	出土遺物(8)	92
PL. 23	出土遺物(9)	93
PL. 24	出土遺物(10)	94
PL. 25	出土遺物(11)	95

第 I 章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

福井遺跡は高知市福井字大谷屋敷1525番地に所在する。遺跡の所在している高知市は、高知県中央部に位置し、東は南国市、西は吾川郡（伊野町、春野町）、北は土佐郡（鏡村、土佐山村）と接し、南は土佐湾に面しており、面積は数度の町村合併の結果143.23 k m²である。現在、高知県の県庁所在地となっており、人口は約31万人で高知県全体の約35%を占め、文字どおり高知県の政治、経済、行政の中心となっている。

高知市の地形は、大きく3つに分けられ、北側から北部山地、中央低地、南部山地、南部低地に分かれる。さらに、浦戸湾を境に東西の地域に分かれる。現在の高知市中心部は、浦戸湾の西側の中央低地に開けているが、中央低地の開発の歴史は比較的新しく、慶長6年（1601）の山内氏による高知城築城に始まる。それまでも、長宗我部氏が築城、城下町建設を計画したが、低湿地であったため、大規模な治水事業を行う必要があり、計画半ばで断念している。このように、現在の高知市の大部分、特に浦戸湾周辺は、古代は湿地帯であったと考えられる。このため、古代、土佐国の中心である国府は、長岡台地上の南国市比江付近に置かれていたと考えられている。

この様な、高知市中心部の低湿地を形成し、高知市の地理的特徴付けをなしたものとして、高知市最大の河川である鏡川が挙げられる。鏡川は、北部山地の工石山（1176.4m）に源を発し鏡村を経て南下し高知市北西部の岩ヶ淵・朝倉近辺で大きく流れを東に変え高知市中心部を東に流れ浦戸湾に注いでいる。鏡川は、中流域では、河岸段丘の発達も見られ、また、大きく蛇行する朝倉近辺では、扇状地を形成し安定した地盤を作り出している。朝倉近辺をすぎると、河床勾配が非常に穏

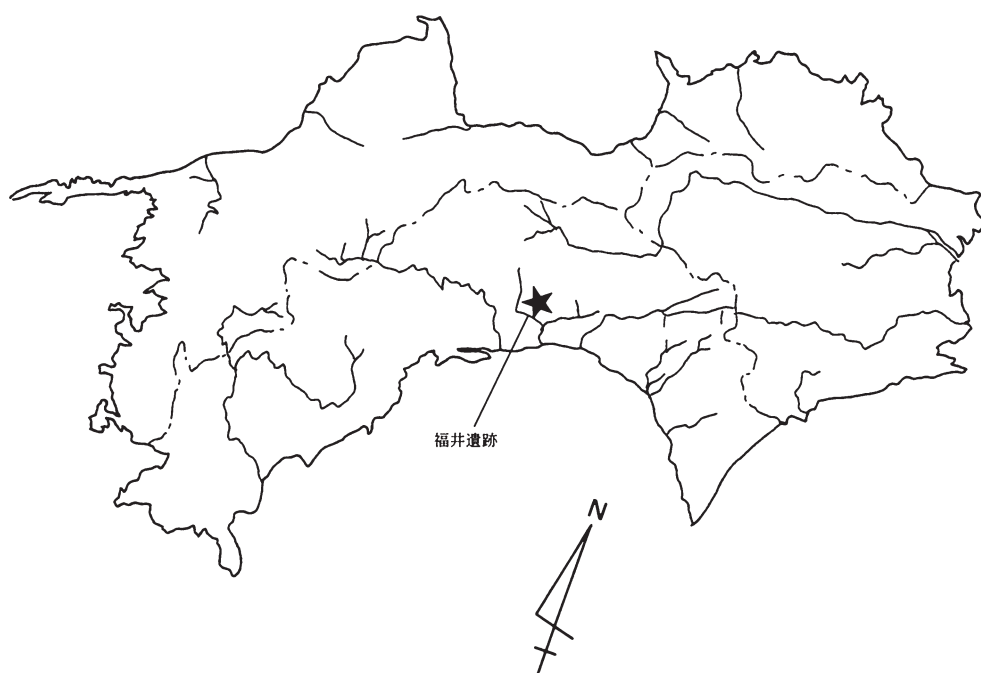


図1 遺跡位置図

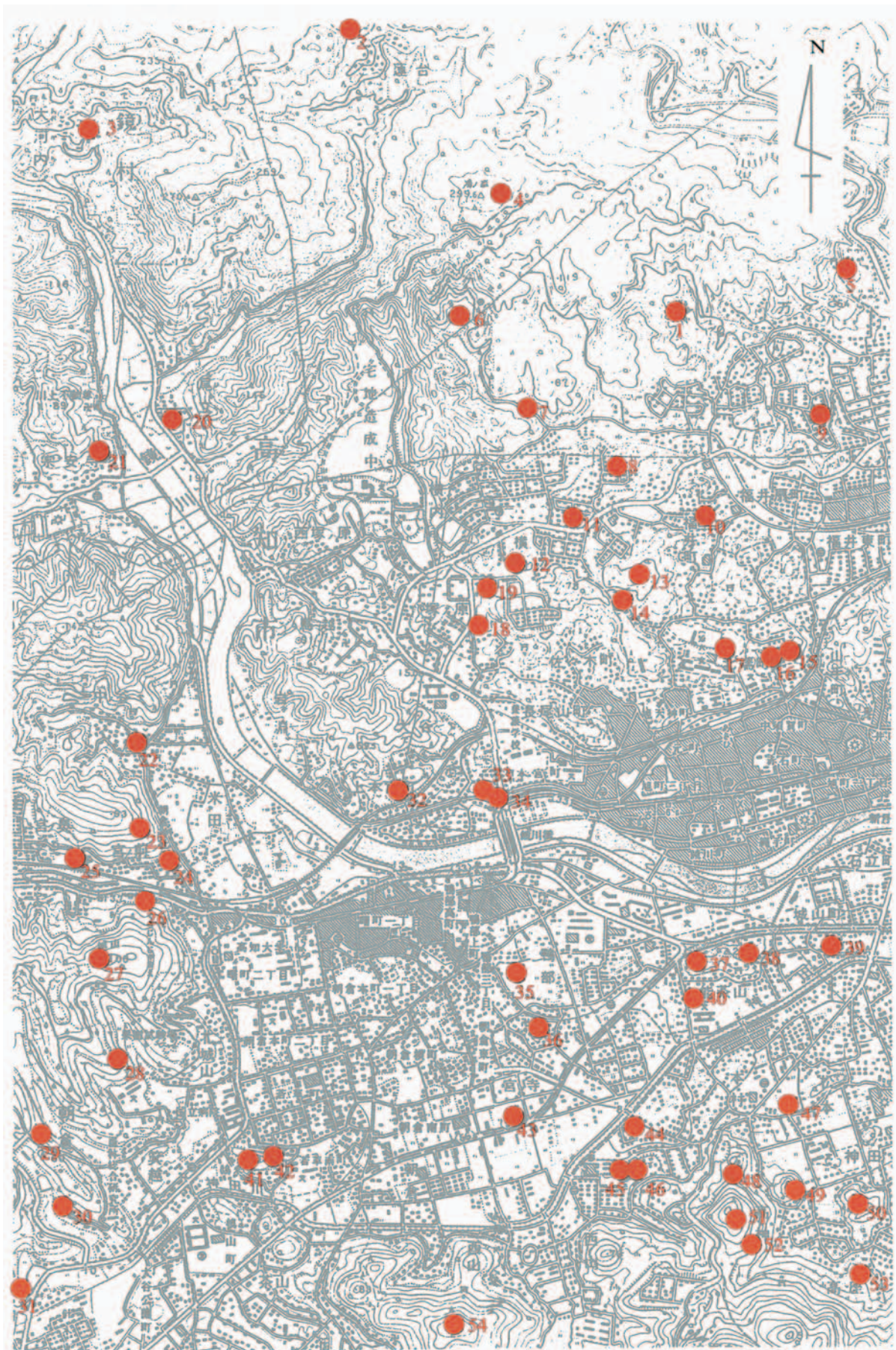


図2 福井遺跡周辺の遺跡分布図

やかになるため、堆積作用が大きく、安定した地盤は作り得ず、現在の中心部であるデルタを形成している。このように、鏡川の特徴は、全長わずか32kmと短く、上流部は勾配が急であるにもかかわらず、平野部では一転河床勾配がほとんど無い様な状態になることが挙げられ、このため、近世まで幾度となく氾濫を繰り返し、その流路を変える暴れ川であった。このような特徴のためか、鏡川沿いの遺跡の分布は、中流域から下流域にかけて分布する遺跡は非常に少なく、高知県の他の大河である四万十川や仁淀川、物部川と対照をなしており、この事が高知市における近世以前の遺跡の少なさの原因になっていると考えられる。

高知市の遺跡の分布は、非常にはっきりした傾向を持ち、特に浦戸湾の西側で顕著である。それは先に述べた様に鏡川の影響によって中央低地では古代の遺跡がほとんど見られず、近世以前の遺跡の分布は、中央低地を取り囲む北部山地、南部山地やその縁辺部や鏡川中・上流域の河岸段丘や扇状地にほぼ限られている。福井遺跡は、高知市北部の福井に位置しており、この周辺は北部山地の縁辺から派生した丘陵が続き、安定した地盤が確保されている。このため、高知市の中では遺跡分布の高い地域となっており、縄文時代の遺跡である正連寺遺跡、宇津野遺跡が確認されているほか、弥生時代のカロート口遺跡が確認されており、この北部山地とその縁辺部である丘陵部が高知市で最も早い時期から人が住み始めた地域であり、古代においても高知市の中ではもっとも中心的な地域であったことが、塚の原古墳群や国造の比定地である尾立、古代寺院の秦泉寺廃寺跡などがこの地域にみられることからわかる。

遺 跡 名		遺 跡 名		遺 跡 名	
1	福 井 遺 跡	19	塚ノ原2号古墳	37	神田旧城跡
2	蓮台寺跡	20	尾立遺跡	38	能茶山窯跡
3	吉松筑守光勝(大垣内城主)の墓	21	旧宗安寺跡	39	石立城跡
4	鴻ノ森城跡	22	朝倉願成寺遺跡	40	鴨部遺跡
5	万々城跡	23	赤鬼山遺跡	41	鶴来巢山古墳
6	舟ヶ谷遺跡	24	朝倉神社	42	鶴来巢城跡
7	中の谷遺跡	25	朝倉古墳	43	柳田遺跡
8	福井古墳	26	野中婉屋敷跡	44	鷺泊橋付近遺跡
9	喜武保宇城跡	27	朝倉城跡	45	舟岡山古墳
10	鹿持雅澄邸跡	28	朝倉城山遺跡	46	舟岡山遺跡
11	福井別城跡	29	朝倉城山第2遺跡	47	神田ムク入道遺跡
12	横内遺跡	30	行宮森古墳	48	シルタニ遺跡
13	かろーと口遺跡	31	勘平山古墳	49	高神遺跡
14	高知学園裏遺跡	32	杓田城跡	50	神田遺跡
15	福井元尾城跡	33	上本宮町遺跡	51	神田南城跡
16	福井中城跡	34	杓田遺跡	52	ゲシカ端遺跡
17	福井西城跡	35	加治屋敷遺跡	53	高座古墳
18	塚ノ原1号古墳	36	鴨部城跡	54	恵美城跡

福井遺跡周辺の遺跡

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査の方法

1. 調査に至る経過

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設工事に伴い、事前に高知県教育委員会事務局文化振興課（現、文化財保護室）と日本道路公団高松建設局（現、四国支社）高知工事事務所との間で、工事範囲内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議・調整が行われ、南国市・高知市の建設工事予定地内について試掘調査を実施することとなった。

高知市福井遺跡については、平成5年4月1日付で、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターと日本道路公団高松建設局との間で、「平成5年度四国横断自動車道（南国～伊野）埋蔵文化財発掘調査委託契約」が締結された。平成5年度は、南国市では栄工田遺跡本調査・長畝2、3号墳（当時名称）試掘調査・長畝遺跡本調査・奥谷南遺跡試掘調査が、高知市では尾立遺跡試掘調査・尾立遺跡本調査そして福井遺跡試掘調査が計画、実施された。

平成6年1月24日から福井遺跡試掘調査準備が現地で始まり、引き続き福井遺跡試掘調査機械掘削が開始された。平成6年3月31日試掘調査を完了し、協議・調整の結果、工事との関係から、次年度早々から本調査を実施することになった。

平成6年4月1日付で「平成6年度四国横断自動車道（南国～伊野）埋蔵文化財発掘調査委託契約」を締結。平成6年4月13日福井遺跡本調査が開始された。平成6年度の契約では奥谷南遺跡・長畝2、3号墳・福井遺跡について調査を実施した。福井遺跡の調査は平成7年3月24日まで実施し一連の調査を終了した。

調査の方法

福井遺跡埋蔵文化財発掘調査の方法だが、まず試掘調査については、福井遺跡の調査前の状況は谷が2箇所とその谷に挟まれる形で尾根の先端にあたる緩斜面となっており、谷部分は棚田となっており尾根の先端は段段畑となっていた。そこでその調査対象地に現地の地形に応じた試掘調査区を21箇所設定した。調査実施の結果試掘調査の総面積は約250㎡となった。調査の方法は、パワーショベル及び人力により表土を除去した後、人力により遺物包含層及び遺構等の検出作業を実施した。土層・遺構・遺物出土状況等の測量を行い写真撮影を行うことにより記録をとった。測量においては調査区近くに設置されている工事用の基準点・水準点・測量用基準杭を利用、調査区内に展開し、公共座標と、高さについては標高値を用いて実施した。図面は基本的に1/20縮尺で作成した。試掘調査区の位置は公共座標によって測量、図化を行った。これらの試掘調査の成果を基礎資料とし本調査の範囲を設定し、本調査を実施した。

本調査については、調査範囲をまず大きく4箇所の調査区に区分した。さらに現状に応じて小さく区分した。調査区の詳細については第Ⅲ章調査成果 1. 調査区の概要で説明する。調査区設定後にそれぞれ、除草・伐採したうえで表土等をパワーショベルにより掘削した後、遺物包含層を人力により掘り下げ、遺構・遺物の検出作業を進めた。検出遺構の完掘、出土遺物の取り上げを行い

調査を進めた。検出遺構・遺物出土状況・土層等は写真撮影を行い、測量により平面図・断面図を作成することにより、写真・図面により記録を残した。

測量については、既存する基準点・水準点を利用し公共座標を基に、それぞれの調査区内に新たに基準点を設置し公共座標を基本に実施した。

基本的には以上であるが、各調査区により調査の方法が諸条件により若干異なっているため詳細については第Ⅲ章調査成果において述べることとする。

また、試掘の際に諸条件から調査区の設定を行えなかったⅠ区南側の田については、本調査の段階でトレンチを設定し、確認と同時に並行して本調査を実施した。

第Ⅲ章 調 査 成 果

1. 調査区の概要

福井遺跡は高知市福井字大谷屋敷1525他に所在する。この遺跡は高知市北部の山地より南方に伸びる丘陵の先端部及び丘陵に挟まれた谷部の、標高約30m～40mの部分に位置している。東西を急な斜面に挟まれ北から南に向かって緩やかな斜面を形成している。緩斜面の両側は谷状になり調査前には棚田の形で水田が営まれていた。調査対象区の中で南側に位置する部分は緩斜面から水田に変わっており多量の湧水が見られた。調査区は、調査対象区中央部の斜面の途中から（水路が設定されていたがその水路を境に）南側と、南端の水田部をⅠ区と設定した。この水路より北側の斜面上部をⅡ区と設定した。中央部の緩斜面と西側の急斜面に挟まれた谷部分をⅢ区と設定した。そして中央部の緩斜面と調査対象区の西端の急斜面に挟まれた谷部分をⅣ区と設定した。中央部の緩斜面は段段畑となり耕作が行われていたようでこのことが遺構・遺物の残存状態に影響を与えていた。

各調査区はさらに以下のように設定した。Ⅰ区はⅠ－1～3区とⅠ－4区・Ⅰ－5区・Ⅰ－6区とした。Ⅰ－4区はⅠ－3区とⅠ－6区の南側で当初TR4として調査を進めていた部分である。Ⅰ－5区についてはⅠ－1区やⅣ－3区の南側で当初TR1とTR5として調査を進めていた。TRとして調査を行っていた部分はちょうど緩斜面が落ち込み湿田となっていた部分である。Ⅱ区は北端（上側）よりⅡ－1～6区と設定した。Ⅲ区は北側（上側）より順にⅢ－1～7区を設定した。Ⅳ区は北側（上側）よりⅣ－1～3区と設定し本調査を実施した。

基本層序は、Ⅰ－1～3区・Ⅰ－6区・Ⅱ区では耕作のための掘削等により遺物包含層も残っている部分と全く残っていない部分とに分かれ、遺構面そのものが掘削されている部分も多かった。表土（耕作土）・旧耕作土等の下層は即地山が見られる場所が多く、掘り込みのある程度深い遺構はその姿を確認できるという状態であった。Ⅰ－4区・Ⅰ－5区・Ⅲ区・Ⅳ区は地山の上層に遺物包含層を持ちその上には何度か盛り土がされ現在の水田の状態になっているという状態であった。この調査区の中では遺構として捉えることのできる水田跡は検出されなかった。各調査区の土層はそれぞれ場所によって異なっており詳細はそれぞれの土層断面図を参照いただきたい。

検出された遺構は、住居跡及び住居跡と思われるものが4棟・ピットが約400個・土坑が約10基、中でも弥生時代の埋納土坑が1基、中世の土坑が1基・溝状遺構が約10条等である。

遺物は、縄文時代ではケツ状耳飾り・石斧・石鏃、弥生時代は土器・石包丁・石鏃、中でも土器については弥生時代中期後半から後期前半にかけてと後期後半の時期の物である。そして古代（8世紀前半）の須恵器、中世の土師器等が出土した。

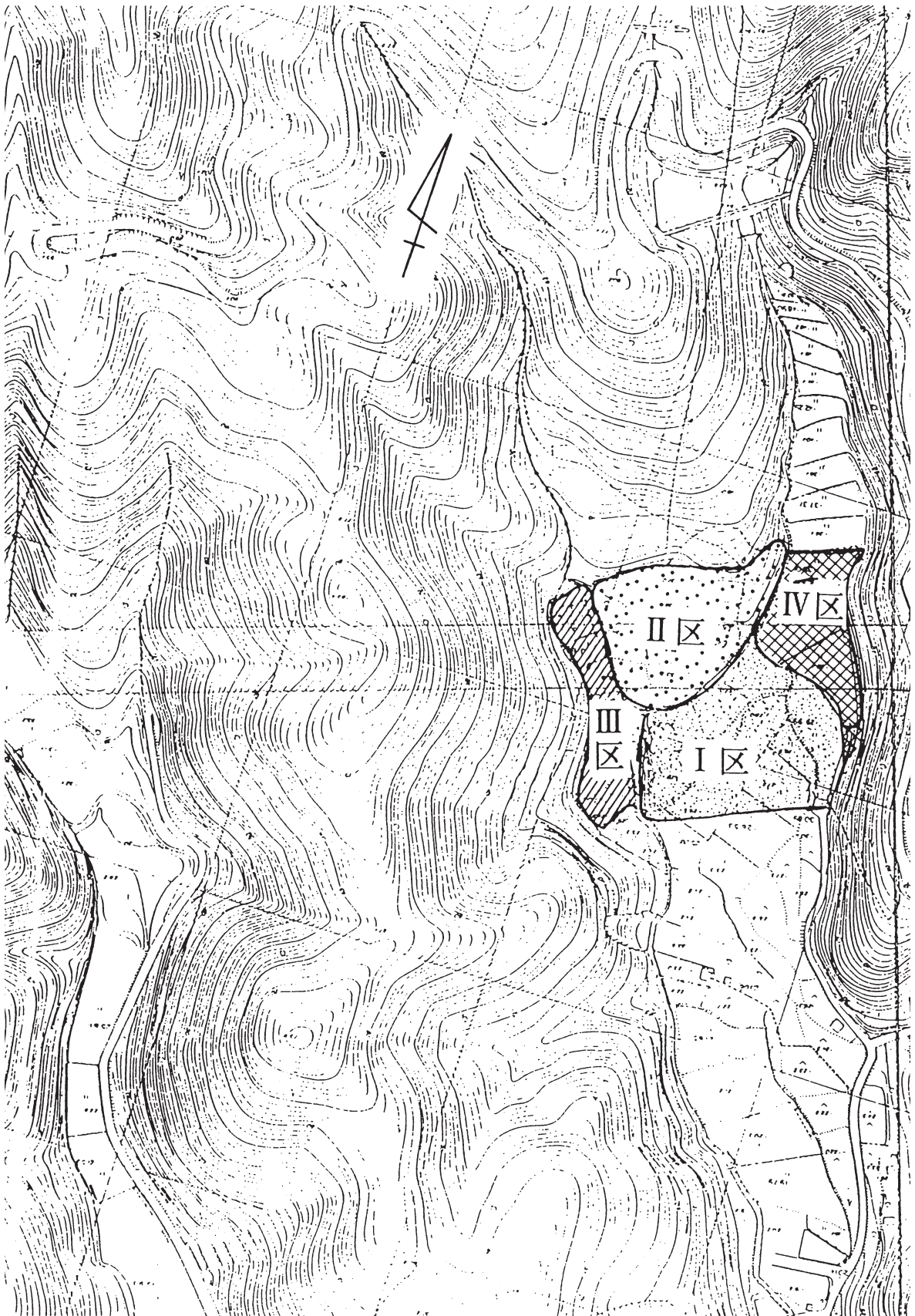


図3 福井遺跡位置図



図4 福井遺跡調査区地形図

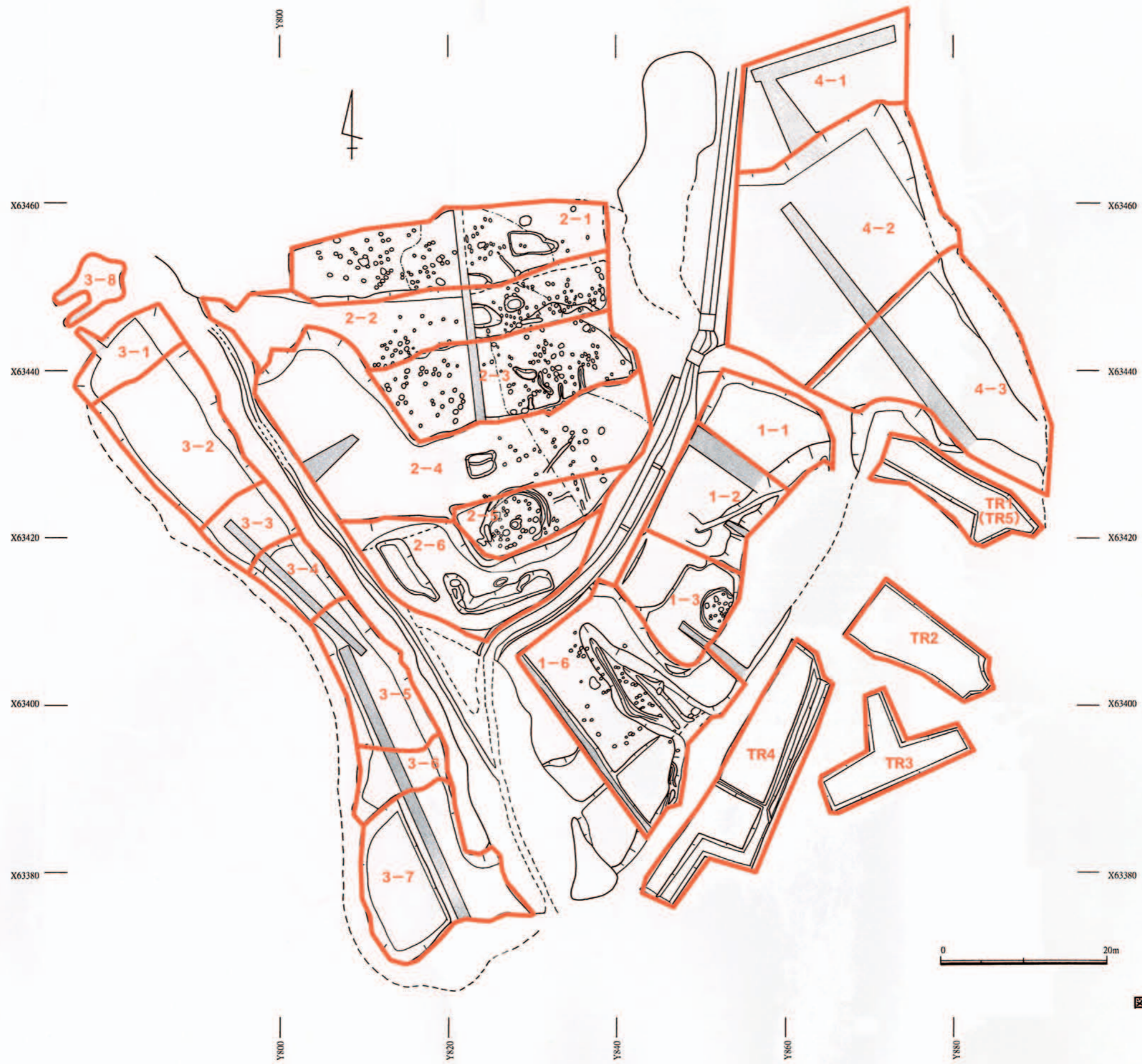


图5 福井遺跡遺構平面图(全体图)

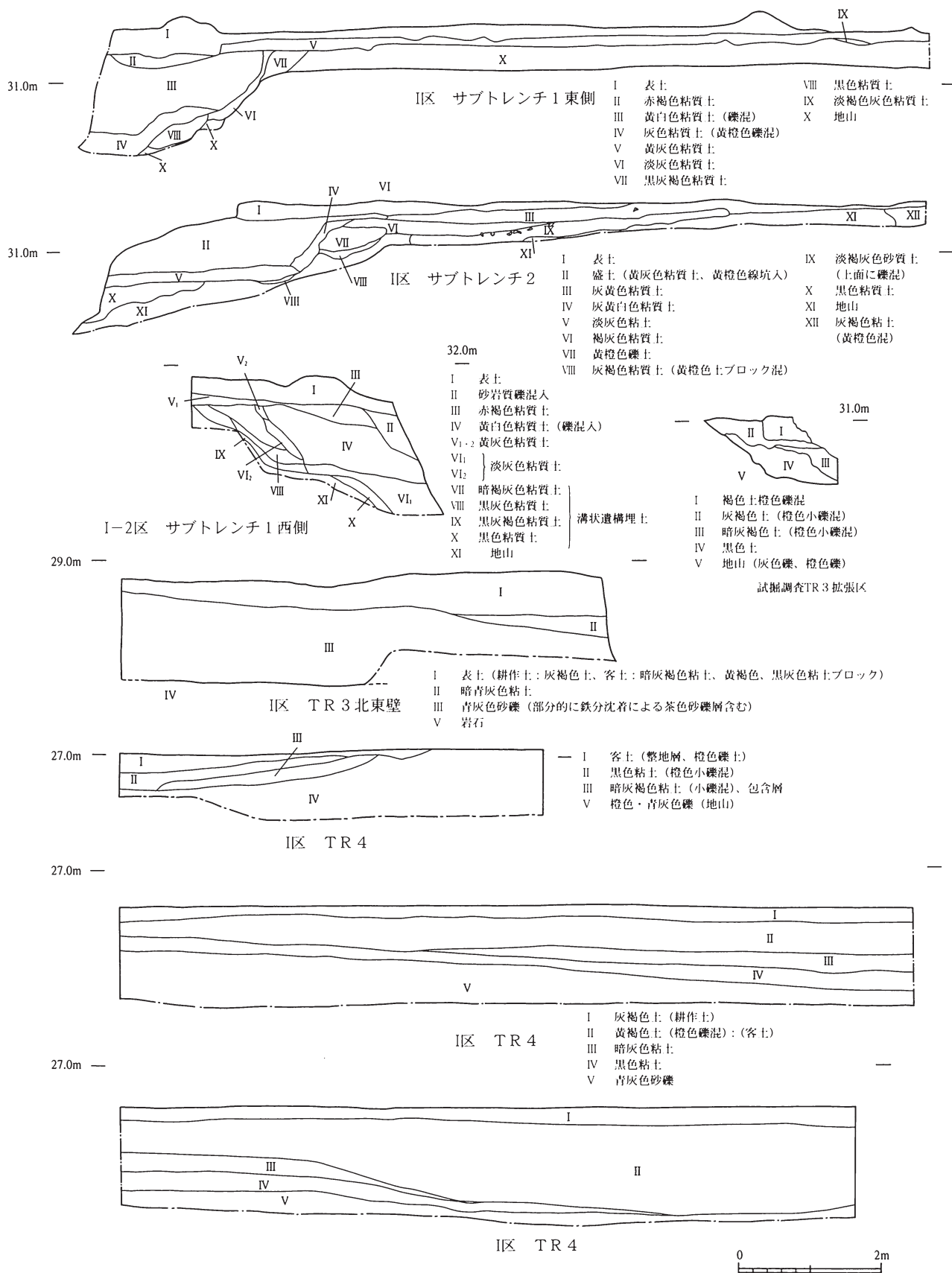


図6 I区・各TR土層断面図(1)

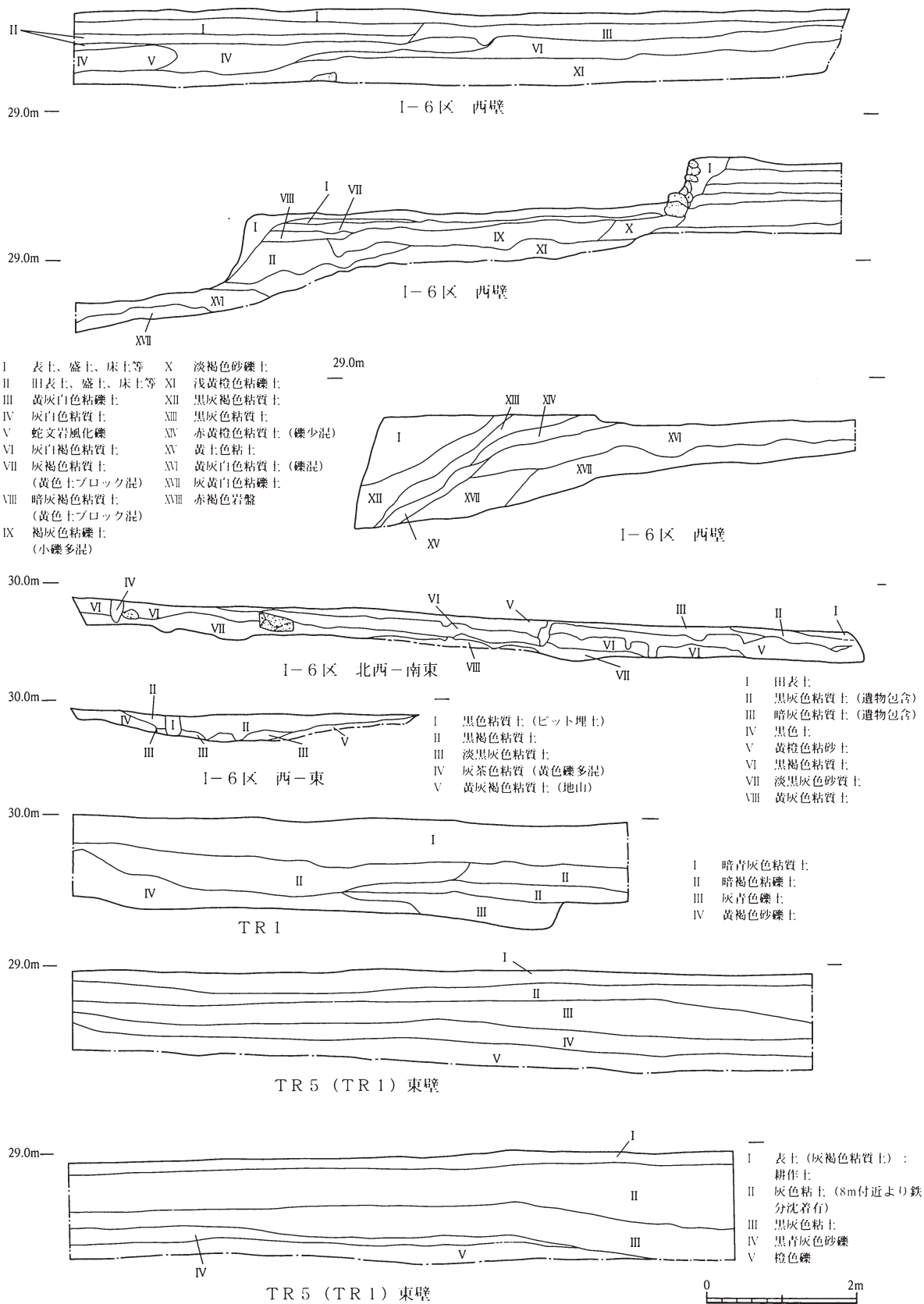


図7 I区・各TR土層断面図(2)

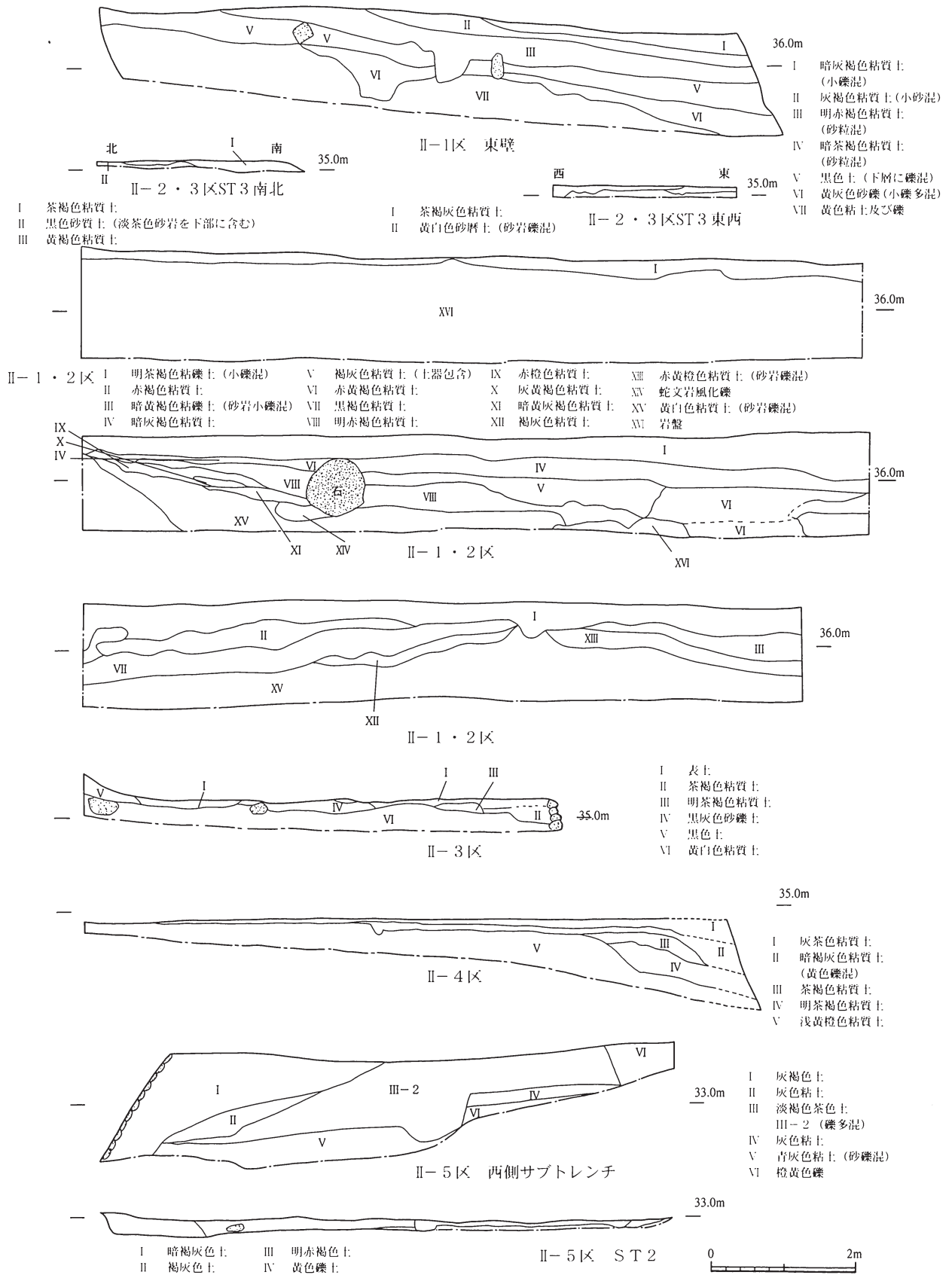


図8 II区土層断面図

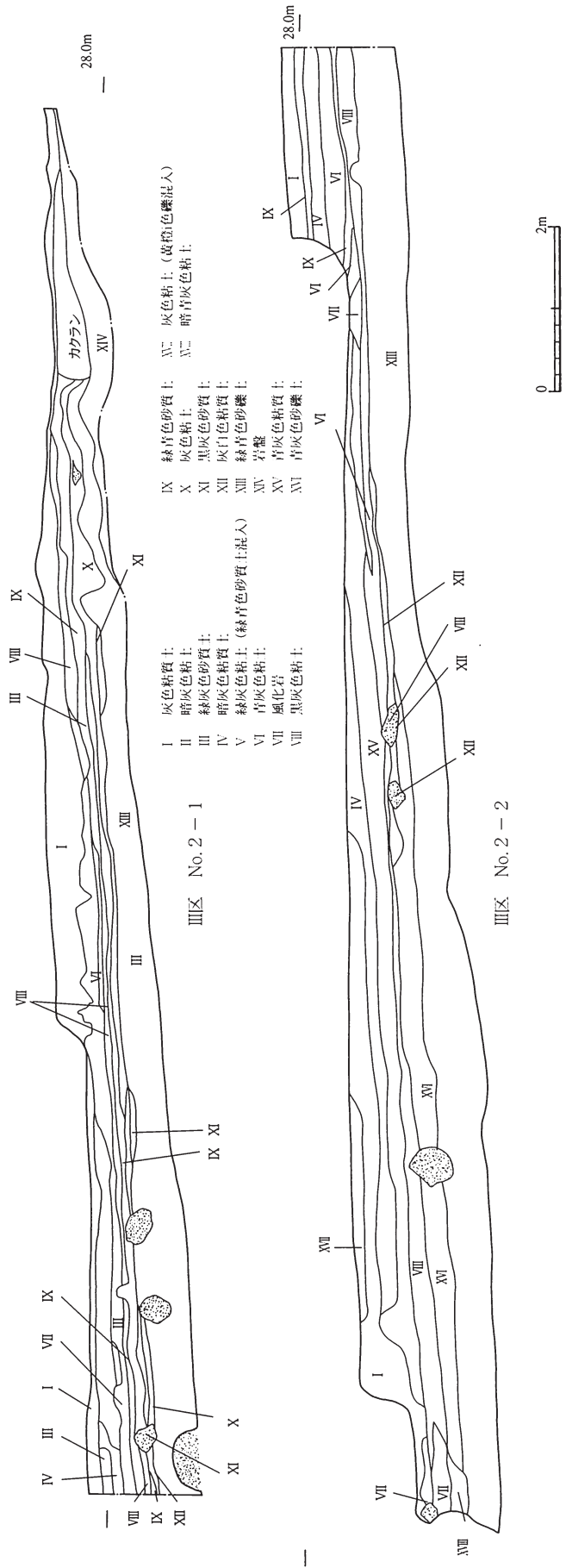
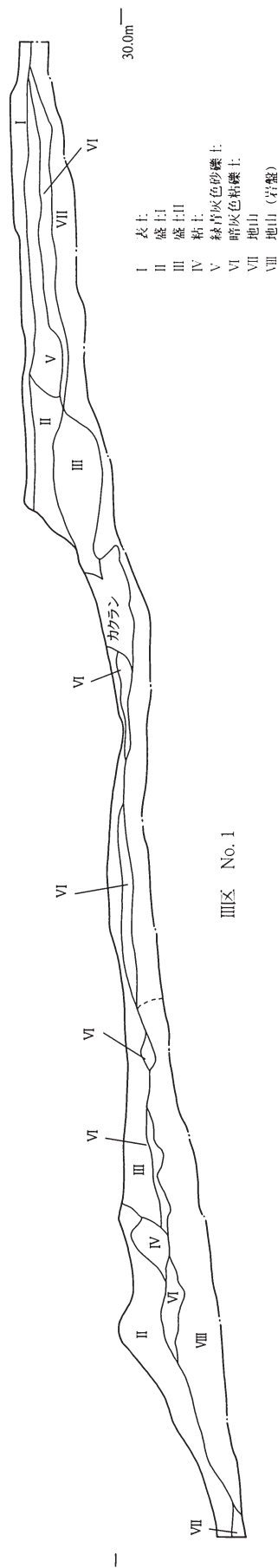


図9 III区土層断面図

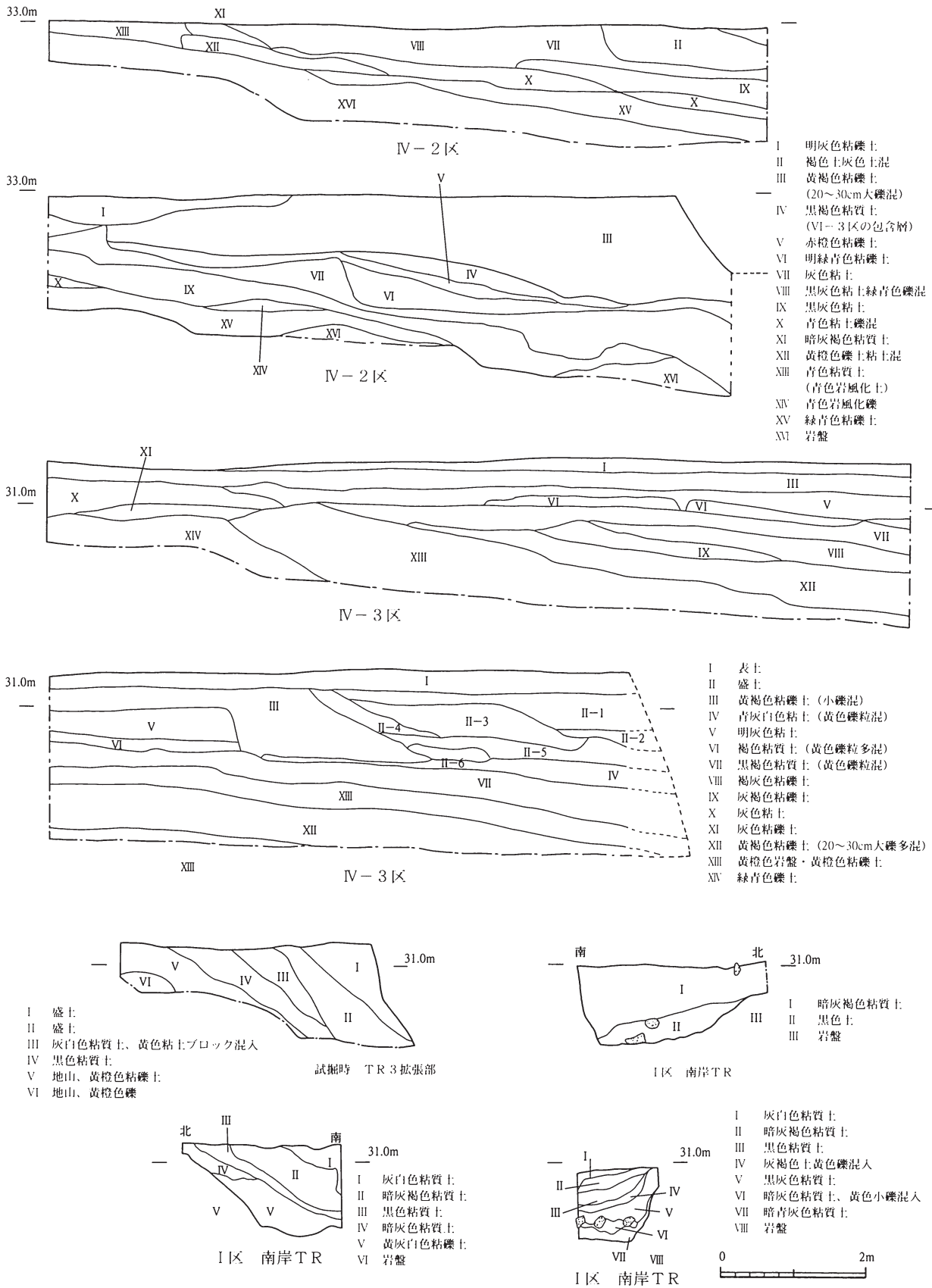


図10 IV区土層断面図

2. 検出遺構と出土遺物

(1) I 区

まず I 区の調査についてだが、I 区からは、住居跡1棟、ピット約100個、他に土坑、溝状遺構等を検出している。住居跡（I-3区より）は残存状況があまり良くなく、埋土が後世の開墾によって削平されほとんど残っていないため、埋土中の遺物からの時代の確定は困難だが、住居跡が検出された場所の下段（I-4区）は、旧地形が谷状の流路近くと考えられ、谷に落ち込む斜面のテラス状の部分より弥生時代中期後半から後期前半にかけての土器が多く出土しており、住居跡もこれに伴う時期と考えることができる。その他検出されたピットの多くが、住居跡の西側（I-6区）の一段下がった場所で検出されている。この部分は、中央部に流路があったと考えられ、この流路に沿うようにピットが検出されている。しかしほとんど土器は検出されておらず時期は明らかでない。

ST1 (図13)

ST1は調査区I-3区の南方に位置する。円形プランではあるが南方1/3ほどは削平されて消失したと思われる。直径5.8m、推定面積23㎡を測る。残存状況は良くなく、残りが良い部分で深さ10cmを測る程度である。埋土は、後世の開墾のため掘削によりほとんど残っていない。壁下には幅20cm～30cm、深さ10cmの壁溝が周回する。中央ピットはもともとほぼ床面中心部に位置する。66cm×48cm、深さ14cmを測る。開墾の削平の中この住居跡が残存したのは、この遺構は溝・ピット等すべてが地山である岩盤掘り込みで造られているからであると思う。主な柱穴の法量はP2が径24cm深さ23cm・P3が32×20cm深さ17cm・P4が径28cm深さ34cm・P5が径32cm深さ42cm・P6が径28cm深さ37cm・P7が径24cm深さ23cm・P8が径36cm深さ33cm・P9が40×24cm深さ26cm・P10が40×32cm深さ29cm・P11が40×28cm深さ23cm・P12が径28cm深さ15cm・P13が20×28cm深さ14cm・P14が径32cm深さ29cmを測る。主柱穴はP14・P5・P8が考えられるが残る主柱穴は削平のため確認できない。主柱間距離はP14-P5が1.8m、P5-P8が2.0mである。遺物は後世の削平等により遺構埋土中からの出土は確認できていない。

(2) II 区

II区は水路を挟んでI区の上段に位置し、丘陵の先端にあたる。全体に開墾による削平が著しく遺物包含層はほとんど残存していない状態で、わずかに段畑の下段側の端部の盛り土がされている部分に残るのみであった。遺構は住居跡が2棟と住居跡と思われるものが1棟、弥生時代の埋納土坑が1基、中世の土坑が1基、ピット約300個、他に土坑・溝状遺構が確認された。II-1区で検出された住居跡と思われるものST4と、II-2・3区で検出された住居跡ST3は削平のためほとんど壁高がなくわずかに一部が残るのみであった（ST3）。このことからII区のピットの中で住居跡に伴うものもあると推定でき、II区ではまだ住居跡が数棟存在したと推定できる。II-5区で検出された住居跡ST2は拡張されており、拡張後の住居跡の直径は約8～9mと非常に大型の住居跡である。この住居跡からは各種の遺物が出土している。またこの住居跡が埋まってしまっ



図11 I区 (I-6区第一検出面) 遺構平面図

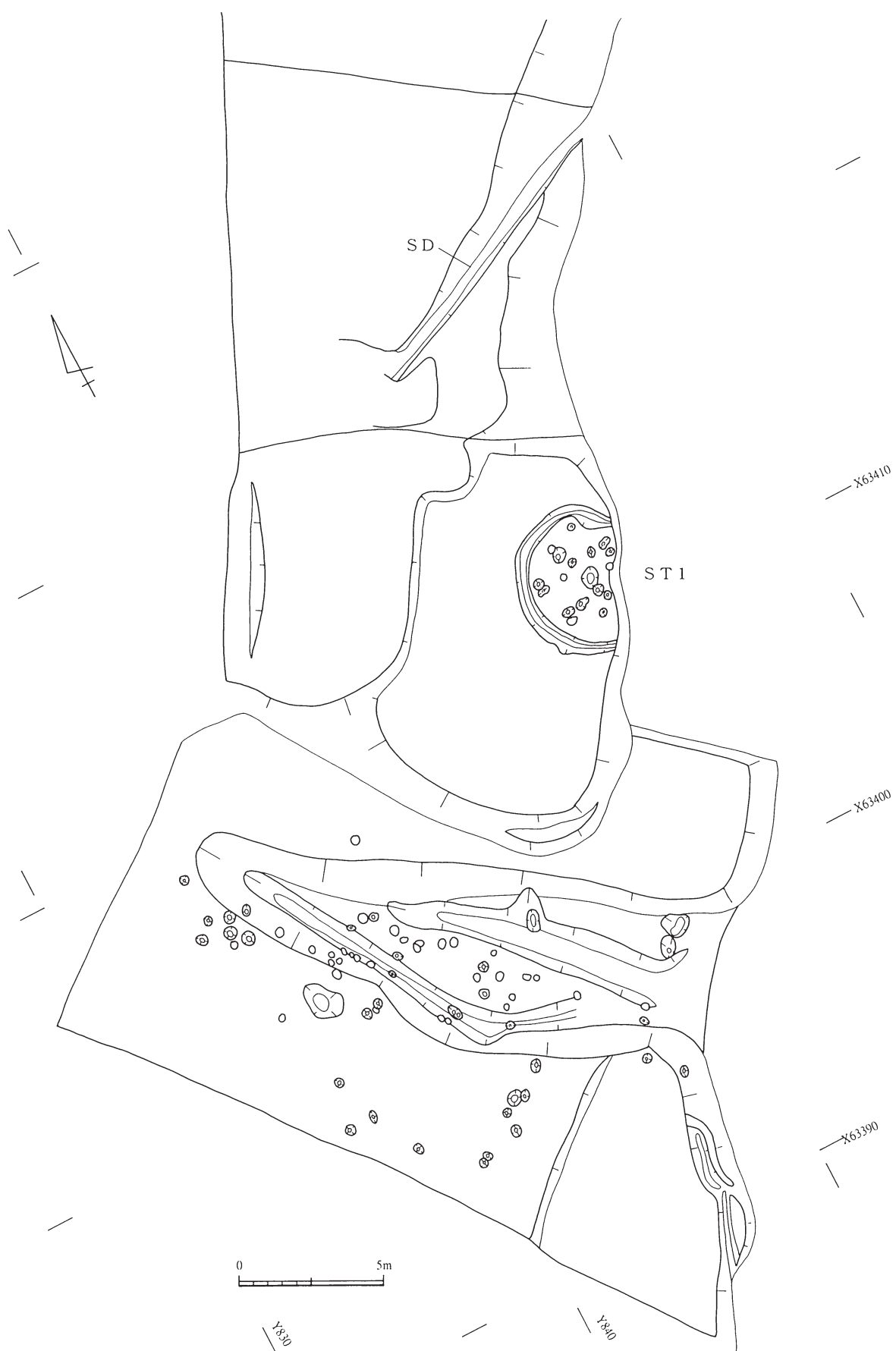


图12 I区遗构平面图



图13 I-3区ST1平面图·断面图

た後、中世に、中央ピットのそばになる部分に土坑SK2が掘られており、中から土師器の杯が土坑底部に並べられる形で出土していた。Ⅱ-6区ではピットの時期は明らかでないが、岩盤掘り込みのピットがあり青磁の破片等が出土しており中世の可能性が考えられる。残るⅡ-1～5区のピットは多くが弥生時代のものと考えられる。

① 弥生時代の遺構

ST2 (図16・27)

ST2は調査Ⅱ区の南東(Ⅱ-5区)にあり、南東部を削平されている。長軸8.8m、短軸8.0m前後を測る楕円形のプランを有し、今次調査で検出した竪穴住居址の中で最も大型のものである。立ち上がりは、北部壁で40cmを測るが、南側は削平により壁を認めることはできない。茶褐色粘質土単純一層である。床面には幅20cm～40cm、深さ10cm前後の壁溝が巡るが、壁の立ち上がりはもとの壁溝から20～60cm外側にある。拡張が認められる。床面中央には、1.3m×1.0m、深さ40cm前後の隅丸方形の中央ピットがある。床面には径30cm前後の小ピットが30個余りあるが、柱穴の位置関係は不明である。

遺物は埋土中より甕(118～125)、鉢(115)、ミニチュア(117)、紡錘車(116)が出土している。後期前半に属するものである。

ST3 (図18・28)

ST3は調査Ⅱ区の中央部からやや北側(Ⅱ-2・3区)にあり、削平により残存状況は良くなかったが、検出時にかろうじてプランの確認をすることはできた。直径5.8mを測る円形住居で、面積は26.4㎡前後と推定される竪穴住居である。遺構南側の一部は確認することができない。深さはほとんどなく部分的に若干見られるだけである。中央ピット(P1)は、ほぼ床面の中心部に位置していると思われ、72cm×52cm、深さ12cmを測る楕円形である。埋土は暗褐灰色粘質土である。主な柱穴の法量はP2が60cm×48cm深さ15cm・P3が径44cm深さ11cm・P4が径24cm深さ12cm・P5が径28cm深さ25cm・P6が径24cm深さ16cm・P7が28cm×24cm深さ29cm・P8が径16cm深さ12cm・P9が径24cm深さ18cm・P10が径36cm深さ33cm・P11が径32cm深さ25cm・P12が径28cm深さ30cm・P13が36cm×28cm深さ15cm・P14が径24cm深さ25cm・P15が径28cm深さ19cmを測る。主柱穴は推定可能であるが、削平や後世の土坑などにより存在しない部分があるため柱間距離等を求めることはできない。

遺物は埋土中より甕(126・128)、小型甕(127)、石鏃(129)、叩石(130)が出土している。

ST4 (図19)

ST4は調査Ⅱ区の北端(Ⅱ-1区)にあり、削平により残存状態は良くなく、遺構上面も削られておりピットの埋土等から判断し住居跡の可能性があると捉えている。遺構埋土は茶褐色粘質土である。中央ピット(P1)は、床面中央部よりやや東側に位置し、不整形なプランで、1.12m×1.00m、深さ9cmを測る。直径6.4mを測る円形住居で、面積は32.2㎡前後と推定される竪穴住

居である。主な柱穴の法量は、P 2 が径40cm深さ25cm・P 3 が100cm×52cm深さ27cm・P 4 が36cm×36cm深さ8cm・P 5 が40cm×32cm深さ38cm・P 6 が径48cm深さ52cm・P 7 が44cm×40cm深さ37cm・P 8 が44cm×32cm深さ24cm・P 9 が径40cm深さ46cm・P 10が92cm×48cm深さ50cm・P 11が径40cm深さ26cm・P 12が52cm×48cm深さ13cm・P 13が径32cm深さ62cm・P 14が径40cm深さ54cm・P 15が径28cm深さ28cm・P 16が径44cm深さ49cmを測る。主柱穴はP 2・P 5・P 7・P 9・P 11・P 16が考えられる。柱間距離はP 2－P 5が2.6m、P 5－P 7が1.9m、P 7－P 9が2.2m、P 9－P 11が1.7m、P 11－P 16が2.8mである。

遺物は、遺構上面が削平されており当然住居跡の遺構埋土も同様に遺構出土の物は確認できない。S T 4が検出された周辺から出土した遺物を見てみると、弥生時代後期前半の甕や、石鏃等の石器がある。

S K 1 (図17・29)

S K 1は調査区Ⅱ区のほぼ中央部(Ⅱ－3区)に位置する。楕円形のプランを呈し長軸50cm、短軸40cm、深さ34cmを測る。床面は、北西側がテラス状になっており深さは26cmを測る。埋土は淡灰褐色粘質土単純一層である。

遺物は、このテラス状の部分に置かれた形で弥生時代後期の甕(131)に、甕の口縁の径とほぼ同じ大きさの口縁の径である鉢(132)でふたをし、さらに、その鉢より大きい別の鉢(133)でふたをした形で出土した。埋納土坑であった。

② 中世の遺構

S K 2 (図17・27)

S K 2は調査区Ⅱ区南側(Ⅱ－5区)S T 2の中央ピットの西側50cmに位置する。楕円形のプランを呈し長軸90cm、短軸80cm、深さ35cm(S T 2床面より)、S K 2検出面からの深さ(S K 2そのものの深さ)は59cmを測る。埋土は暗灰褐色粘質土単純一層である。S T 2が埋まった後掘り込まれたものであり、本来はより深かったと考えられるがこれもまた後世の削平で削られてしまったと考えられる。

遺物は、土坑の床面に、完形に近い形で土師器の杯(112・113・114)が出土した。床面のみで並べられたように重ならずに出土しており何らかの意味を持つものと考えられる。

(3) Ⅲ 区 (図33～35)

Ⅲ区は、福井遺跡調査区の中の西側に位置する細長い調査区である。谷状の地形をなしており、南端と北端の比高差は谷状地形床面で12.5m(標高38.5m～標高26m)、調査区南端最高部と北端と比較すると16m(標高42m～標高26m)である。埋土は、Ⅲ区土層断面図(図9)を参照していただければよいが、Ⅲ区の上部(北側)はⅠ：表土、Ⅱ：盛り土1、Ⅲ：盛り土2、Ⅳ：粘土、Ⅴ：緑青灰色砂礫土、Ⅵ：暗灰色粘礫土である。Ⅲ区の中央部から下部(南側)は、基本的に上層よりⅠ：灰色粘質土、Ⅱ：暗灰色粘土、Ⅲ：緑灰色砂質土、Ⅳ：暗灰色粘質土、Ⅴ：緑灰色粘土



图14 II-1·II-2·II-3区遗址平面图

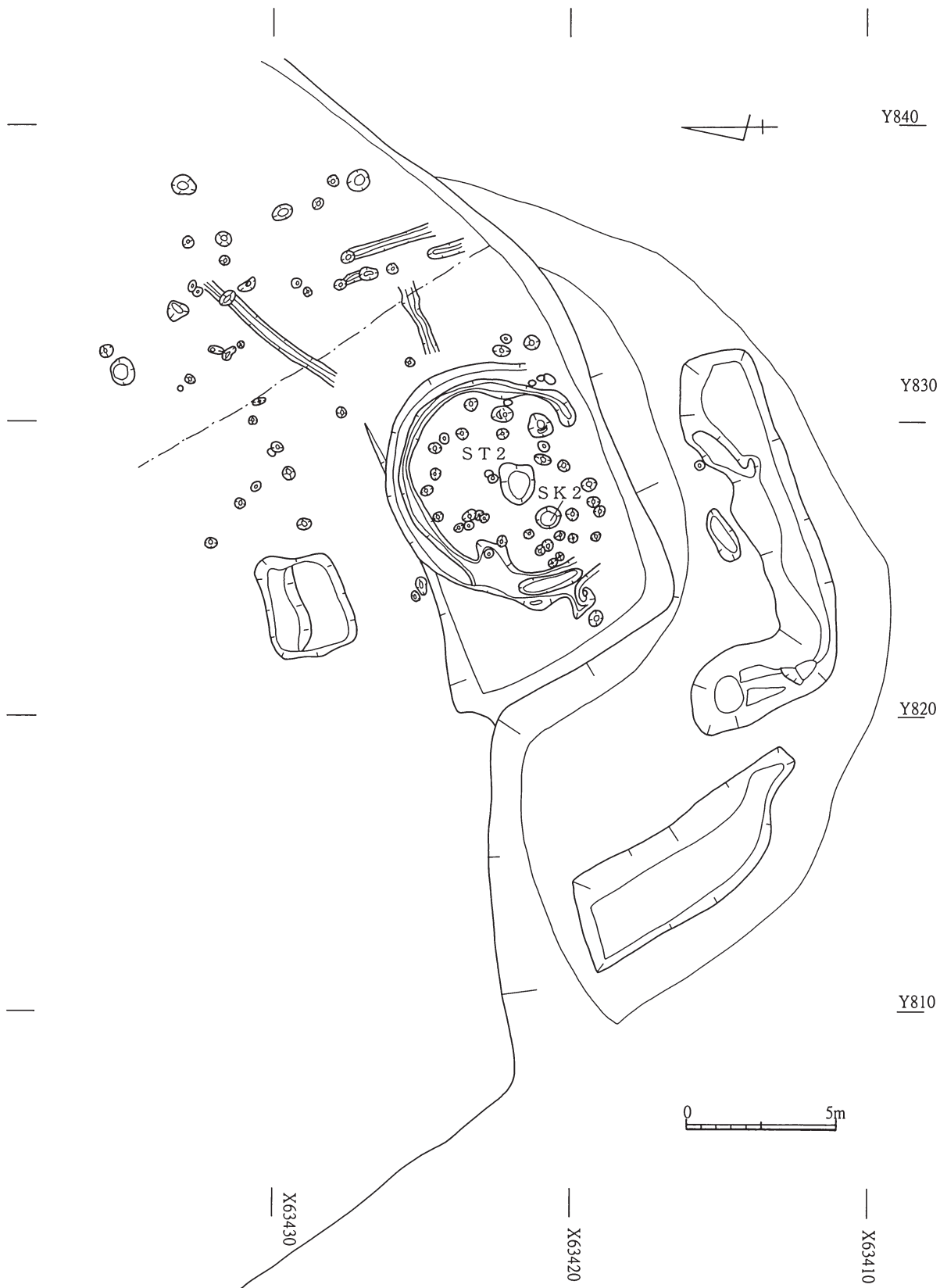


図15 II-4・II-5・II-6区遺構平面図

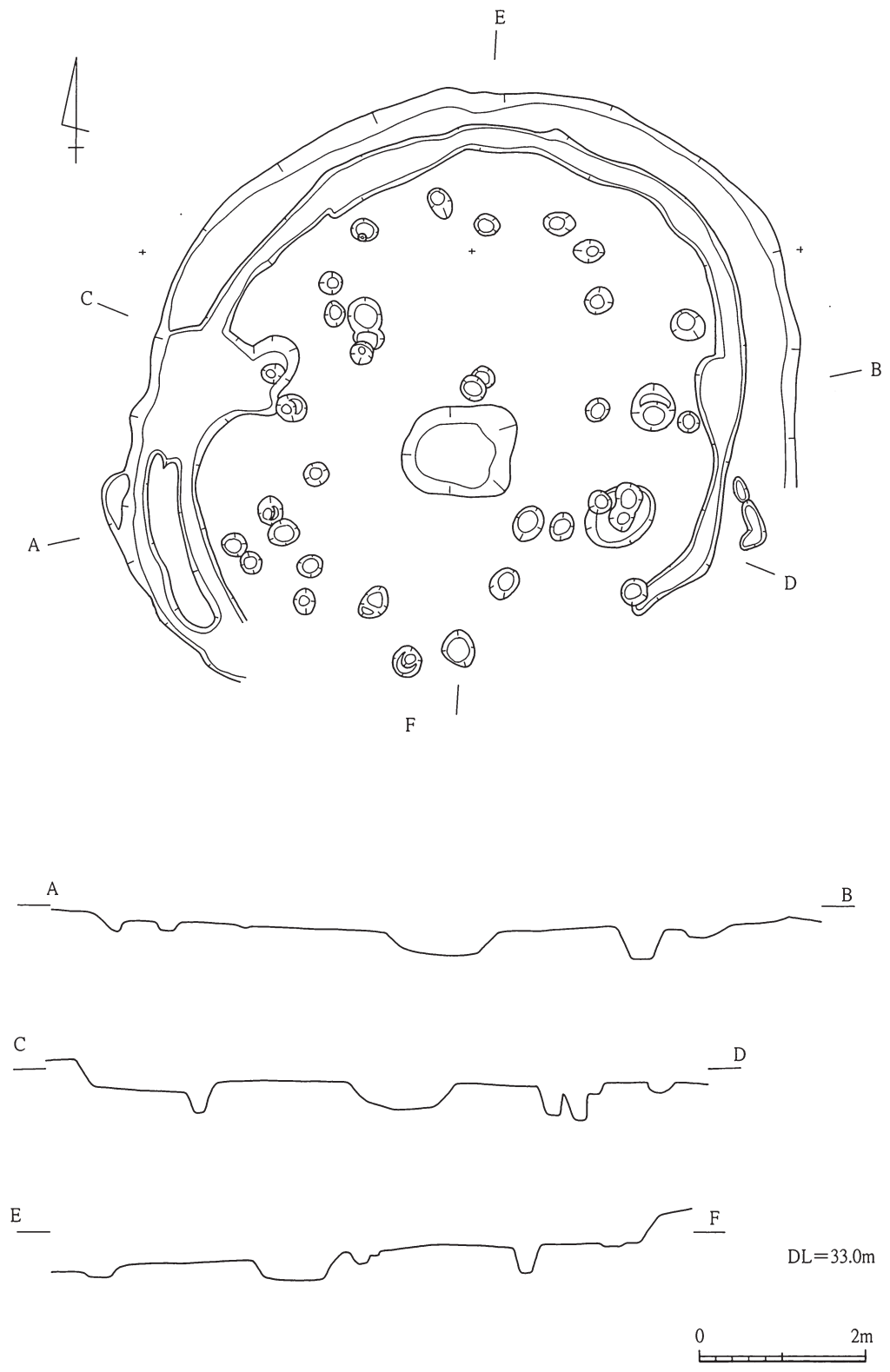


图16 II-5区ST2平面图·断面图

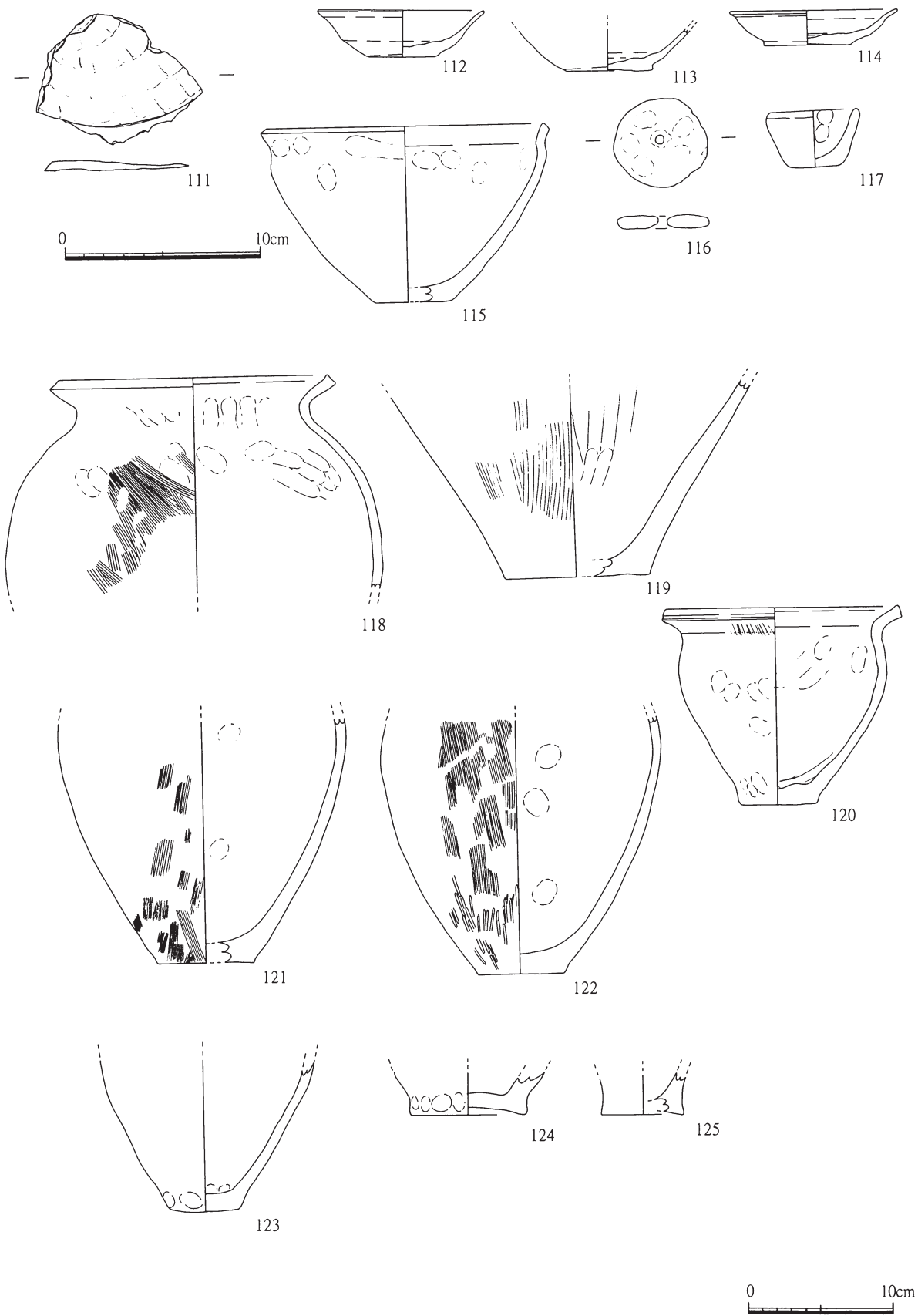


图27 II-5区ST2出土遺物実測図

(緑青色砂質土混入)、VI：青灰色粘土、VII：風化岩、VIII：黒灰色粘土、IX：緑青色砂質土、X：灰色粘土、XI：黒灰色砂質土、XII：灰白色粘質土、XIII：緑青色砂礫土、主に以上のように構成されている。

この谷状の落ち込みからは少量の土師器と古代の須恵器が比較的まとまって出土している。須恵器は、杯身 (186~217)、蓋 (218~230)、皿 (231)、壺 (232~237)、甕 (238~242)、鉄鉢 (243

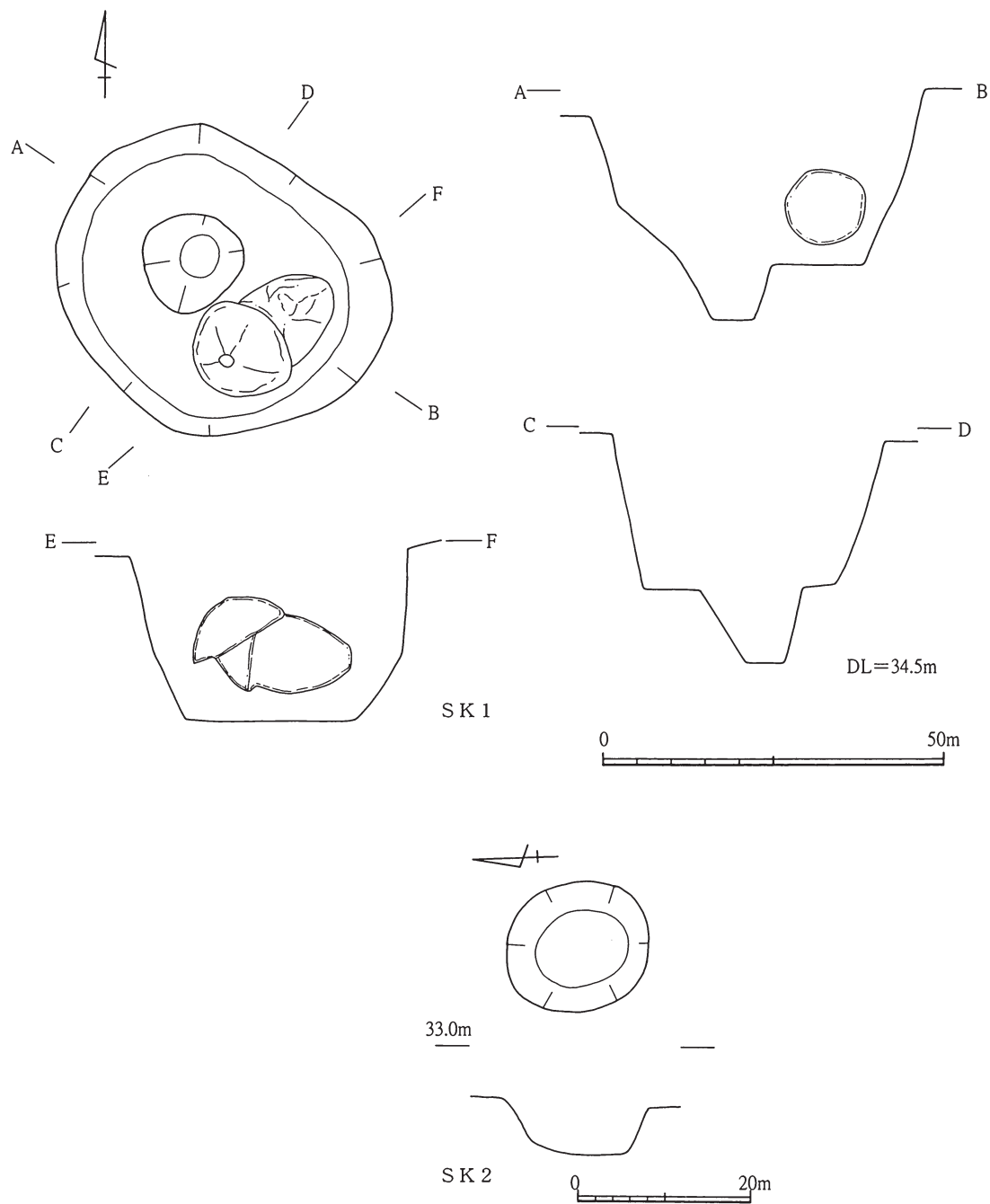


図17 II-3区SK 1、II-5区SK 2平面図・断面図

～245) 土師器は移動式のカマド (249) などが出土している。須恵器の中には、窯壁が付着しているものが目立つことから、付近には窯址が存在するものと考えられる。

須恵器は、杯、蓋等の供膳形態が多くを占めている。供膳形態について、図示し得なかったものも含めて、口縁部の点数を見ると、蓋が14点、杯身が53点、皿が1点である。

杯身は、高台を持たないA類と高台を持つB類が、相半ばしている。また、両者とも器高の低いもの(器高指数20台)と高いもの(器高指数30～40)とが認められる。精選された胎土を用い、体部内外面は丁寧な横ナデ調整、外底はヘラ削り後丁寧なナデ調整を施すなど極めて丁寧な作りである。B類の高台は、総じて外方に踏ん張るしっかりとした作りのもので、畳付けは凹状をなしている。手法上の特徴としては、高台張付位置に二条の沈線が認められる(188・217)ことや爪状の圧痕が環状に巡る外底(207・209)が見られる例を挙げることができる。また、189・190・217は底部との接合部で剥離しており、成形法を知ることのできる好例である。

蓋は擬宝珠摘みを持つものと持たないものとの二種から成っている。精選された胎土を用い丁寧な作りである。天井部外面はヘラ削り後丁寧なナデ調整を施し、端部は強い横ナデによりしっかりした面をなしている。230は短頸壺の蓋である。皿(231)は1点であるが、口縁を摘み上げ口唇部は面をなしている。外底にはヘラ削りが見られる。

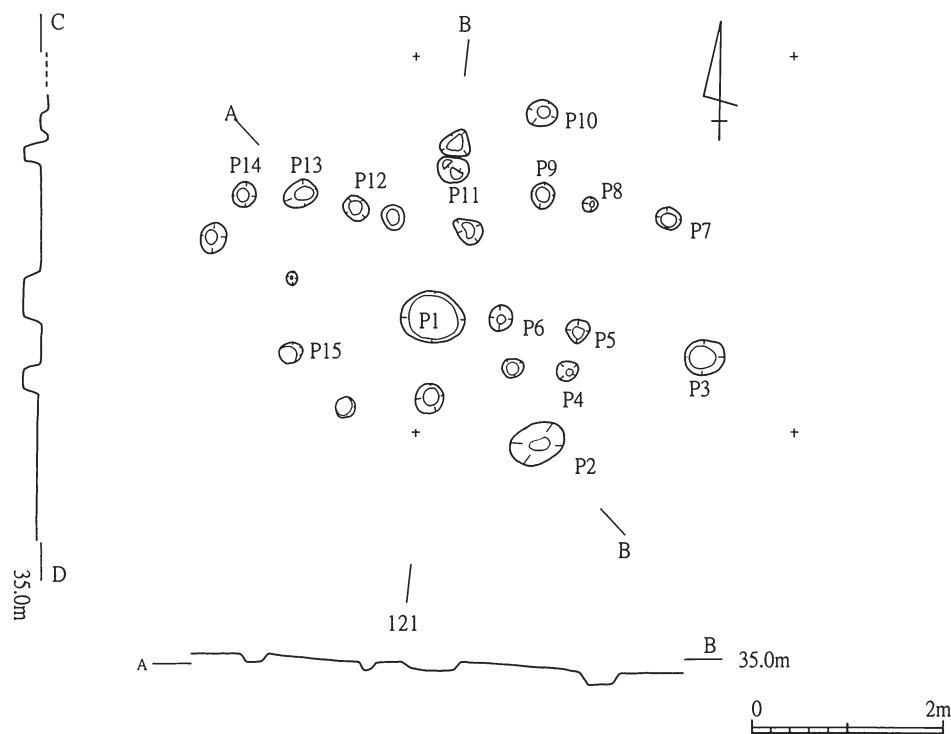


図18 II-2、II-3区ST平面図・断面図

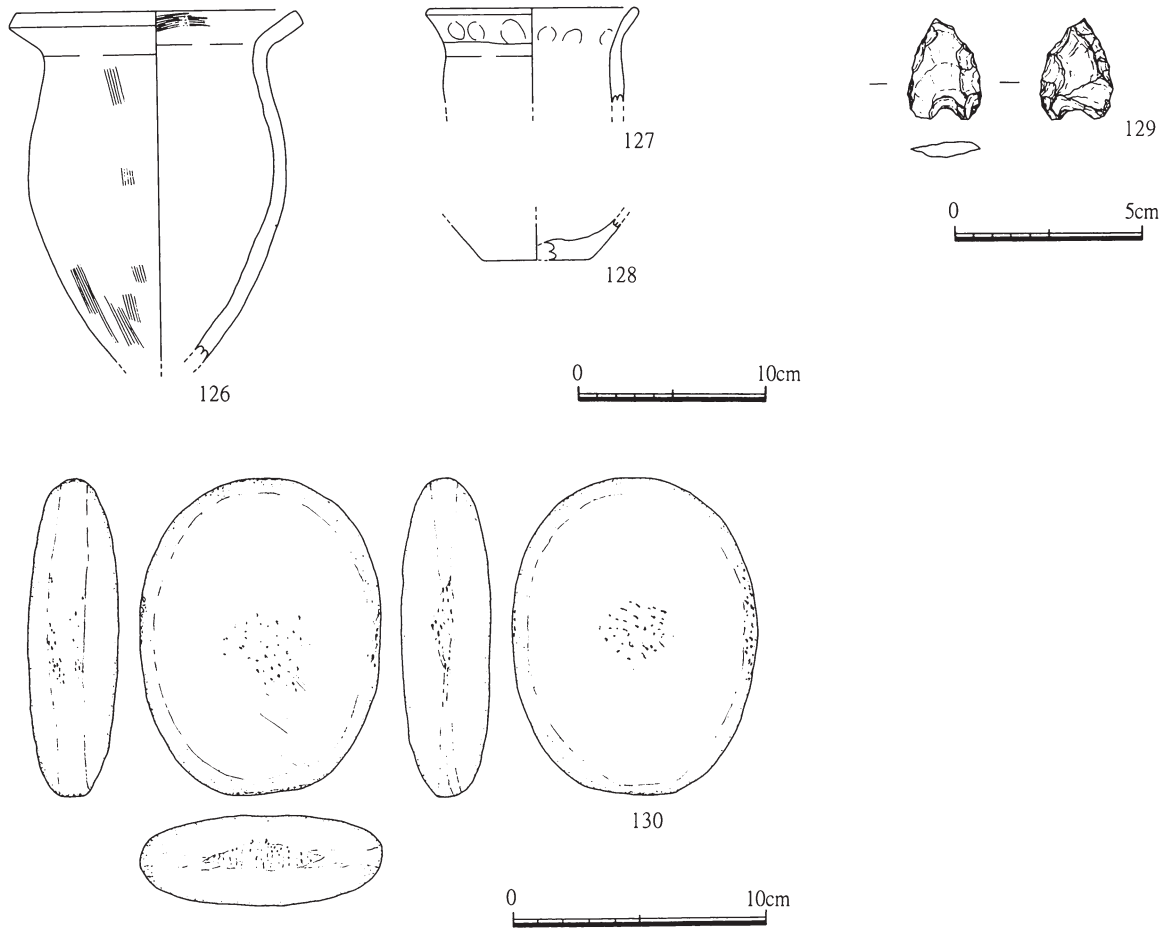


图28 II-2、II-3区、ST3出土遗物实测图

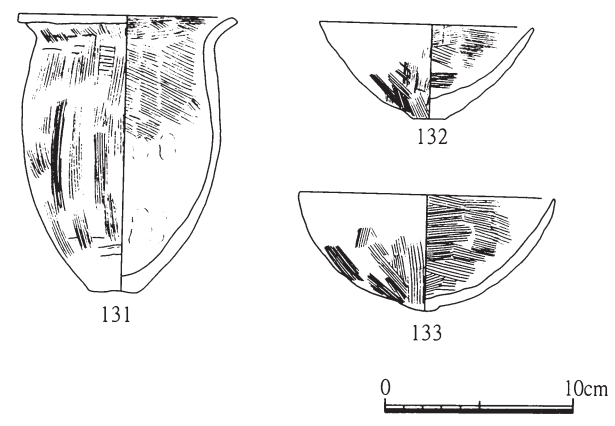


图29 II-3区SK1出土遗物实测图

壺は長頸壺の頸部（234・233）、上胴部（232・237）、底部（235・236）が見られる。底部は八字状にしっかり踏ん張った高台を有している。甕は大型（240～242）と小型（238・239）があり、前者の口縁部は上下に拡張し、口唇には凹線が走る。後者の口縁は、外方に強く摘み出している。鉄鉢も大型（245）と小型（243・244）の二者がある。

これらの須恵器は、包含層出土のものであるが期的にはまとまりのあるものとして捉えることができる。供膳形態の一群は、高知平野と周辺部で出土しているものの中では、8世紀第2四半期に位置付けした南国市白猪田遺跡SD1に先行する時期に比定することができよう。SD1出土のものに比べて、本一群は作りが丁寧であること、組成上の特徴としては、皿が極端に少ないことや鉄鉢が存在することを挙げることができる。現状においては南四国の律令的土器様式の中では最も

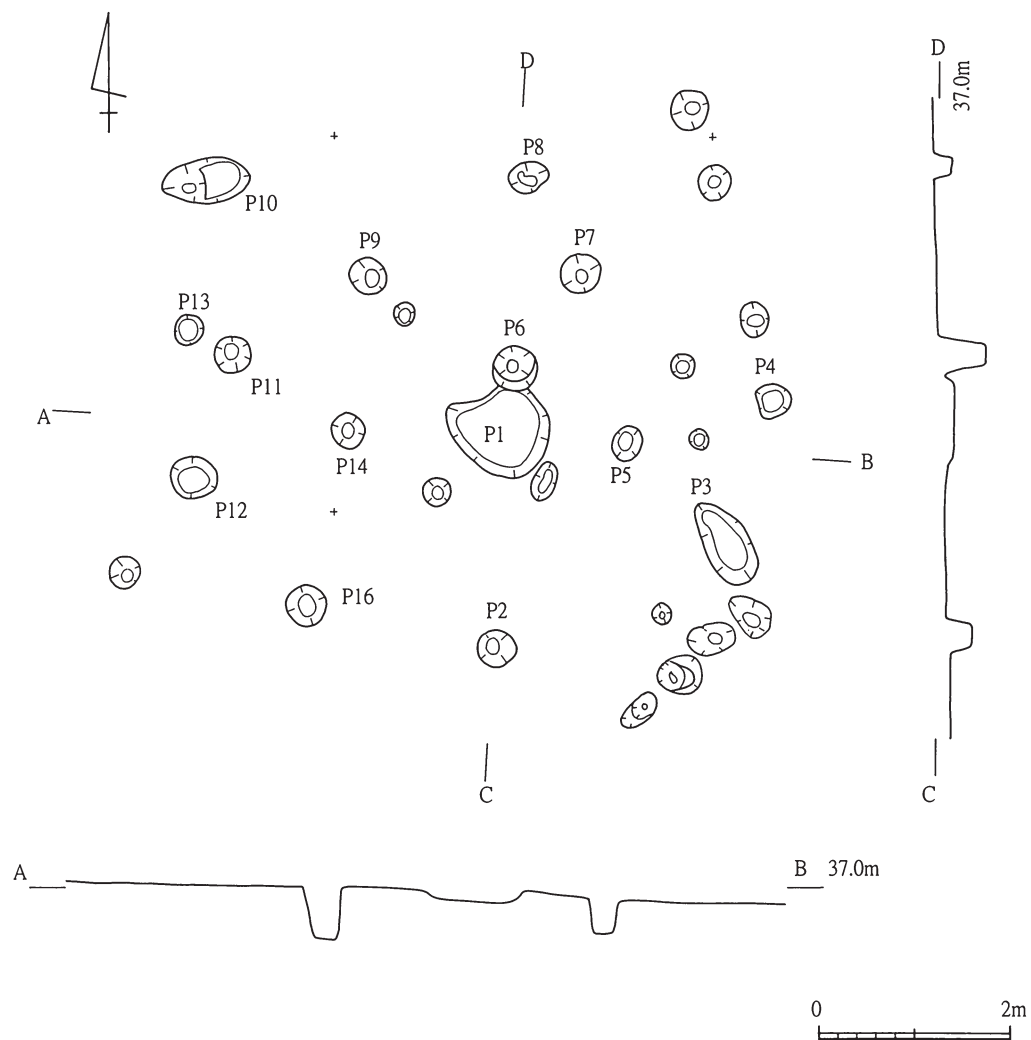


図19 II-1区ST4平面図・断面図

古相を示す一群として位置付けることができよう。

なお窯があった可能性の考えられる部分には幾つかのトレンチで確認してみたが調査対象地内では検出されなかった。また水田遺構が近い場所に存在する可能性も否定できない。

(4) IV 区

IV区は、現況はⅢ区と同じく谷状の棚田であった。特に東側の斜面は急で遺構の存在はないものと考えられた。しかし、調査の結果、谷はIV区の中央よりやや西よりを流れ東側斜面下にわずかにテラス状に平坦な部分が存在し完形に近い弥生時代後期の甕・壺等が比較的まとまって出土しており、検出数はわずかであったが、ある程度の遺構が存在した可能性が高いものと考えられる。流路に近い部分には黒褐色粘質土の遺物包含層が残存しており多くの土器を含んでいたがいずれも細片で摩耗しており上部よりの流れ込みと考えられる。

3. 遺跡出土遺物観察表

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1	I-1	石器	全長 4.9	全幅 4.3	全厚 0.9	重量(g) 25.1		
2	I-2	弥生土器 高杯	23.0	(4.4)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。外面は縦ハケ+ナデ。口唇部は面取り。	
3	I-2	弥生土器 壺	18.0	(2.6)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒砂、長石の細粒砂を含む。口縁部は肥厚し、外面に指圧痕が顕著。口唇部は強い横ナデ。	
4	I-2	弥生土器 高杯		(10.0)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。脚下部に7mmの円孔。内面に絞り目、外面は縦ハケ。	
5	I-2	弥生土器 高杯		(6.4)			内外面共ににぶい橙色。胎土は長石、赤色風化礫の粗粒砂を少し含む。裾部に径5mmの円孔4つ。内外面共にナデ調整。	
6	I-2	弥生土器 壺	18.4	(5.9)			内面はにぶい橙色、外面は橙色。胎土はチャートの粗粒を含む。口縁外面に幅2cmの粘土帯を貼付け指頭で圧痕。頸部外面はハケ、内面はハケ+横ナデ。	
7	I-2	弥生土器 壺	23.2	(7.6)			内外面共に橙色。胎土はチャート、頁岩、風化礫の粗粒砂を多く含む。肩部に列点文。	
8	I-2	弥生土器 壺	11.4	(7.9)			内外面共に橙色。胎土はチャート、長石の細・粗粒砂を含む。口縁端を下方に拡張。口唇面取り。頸部に沈線（櫛描直線か）。	
9	I-2	弥生土器 壺	13.0	(4.5)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。口縁を上下に拡張。口唇面取り。内外面共にナデ。	
10	I-2	弥生土器 壺	13.6	(3.4)			内面はにぶい黄橙色。外面は橙色。胎土は長石、風化礫の粗粒砂を含む。外面は縦ハケ。	
11	I-2	弥生土器 壺		(3.9)		6.4	内面は褐灰色。外面は橙色。胎土はチャートの粗・細粒砂を多く含む。外面は縦ハケ。内面はヘラ削り。	
12	I-2	弥生土器 甕	16.2	(11.7)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇に沈線化した2条の凹線。口縁外面に幅1.2cmの粘土帯貼付。頸部外面に5条のヘラ描き沈線。上胴部に棒状浮文と列点文を施す。内外面共に器表の荒れがひどい。外面は煤けている。	
13	I-2	弥生土器 甕	18.0	11.3			内面は黒褐色。外面は橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。内外面共に器表の荒れが激しい。	
14	I-2	弥生土器 甕	10.6	(8.2)			内面は褐色。外面は明赤褐色。胎土はチャート、長石他の細・粗粒砂を含む。口縁内外面は横ナデ。口唇は面取り、横ナデ。胴部内面は左下→右上のヘラ削り。外面はナデ。外面は煤けている。	
15	I-2	弥生土器 甕	10.0	(7.6)			内外面共に明赤褐色。胎土はチャート、風化礫の小礫・粗粒砂を含む。口唇は面取り。内外面共に器表の荒れが激しい。外面が煤けている。	
16	I-2	弥生土器 甕	13.6	(4.7)			内内外面共に橙色。胎土は石英、長石粒を多く含むが、チャートはない。口縁端を上方に拡張、口唇に1条の凹線。内外面共に器表の荒れが激しい。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
17	I - 2	弥生土器 甕	11.2	(8.1)			内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい褐色。胎土はチャート、頁岩他の粗・細粒砂を含む。口唇は面取り。頸部直下まで内面へラ削り。外面は煤けている。	
18	I - 2	弥生土器 甕		(14.6)	12.7	9.4	内面は褐灰色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。内外面共に器表の荒れが激しい。わずかに上底する。	
19	I - 2	弥生土器 甕		(10.5)		6.0	内面は橙色。外面は明褐色。胎土はチャートを含まず、風化礫が多い。外面はナデ。内面はへラ削り。	
20	I - 4	弥生土器 高杯	31.0	(9.0)			内外面共ににぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。外面は縦ハケ。	
21	I - 4	弥生土器 高杯		(4.7)			内面は褐色。外面は橙色。胎土は頁岩の風化礫を多く含む。器表の荒れが激しい。	
22	I - 4	弥生土器 壺		(8.8)		17.4	内外面共ににぶい橙色。胎土は石英、長石、チャート他の粗粒砂を多く含む。端部には明瞭な面取りが見られる。径1cmの円孔を2段に配する。	
23	I - 4	弥生土器 壺		(15.3)			内面は灰色。外面はにぶい橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。内面はナデ調整。外面は器表の荒れがひどい。	
24	I - 4	弥生土器 壺	7.8	(8.4)			内外面共に明赤褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。外面は縦ハケ。	
25	I - 4	弥生土器 壺	19.4	(18.0)			内面は灰黄色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒を多く含む。口唇は強い横ナデ。肩部に列点文。外面はハケ+ナデ。内面はナデ。	
26	I - 4	弥生土器 壺	14.0	(16.0)			内外面共ににぶい橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口縁を上下に拡張。口唇に2条の沈線化した凹線文。胴部外面は縦ハケ。内面はナデ。	
27	I - 4	弥生土器 壺		(17.7)		7.1	内外面共に褐灰色。胎土はチャート、頁岩、風化礫の粗粒砂を含む。内外面共にナデ。	
28	I - 4	弥生土器 壺	17.6	(6.0)			内外面共ににぶい黄褐色。胎土はチャート、他の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面に強い横ナデ。口唇も強い横ナデ。肩部に列点文。	
29	I - 4	弥生土器 壺	17.0	(5.0)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口縁部を上下に拡張し、口唇を強く横ナデ。頸部外面は縦ハケ+横ナデ。	
30	I - 4	弥生土器 壺	16.4	(8.0)			内面はにぶい橙色。外面は橙色。胎土は風化礫の小礫を多く含む。口唇は面取り、横ナデ。内外面共にナデ。	
31	I - 4	弥生土器 壺	10.8	(6.5)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇に刻目。内外面共に器表の剥離が見られる。	
32	I - 4	弥生土器 壺	7.8	(7.0)			内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒を含む。内外面共にナデ調整。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
33	I - 4	弥生土器 壺		(20.5)		5.0	内面は灰色。外面は灰白色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。外面器表の荒れが激しい。内面はナデ調整。下胴部～底部に大きな黒斑がある。	
34	I - 4	弥生土器 壺		(11.9)		5.5	内面は橙色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。内外器表の荒れが激しい。	
35	I - 4	弥生土器 壺		(6.7)		3.2	内面はにぶい黄橙色。外面はにぶい黄色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。外面は縦ハケ+ヘラ磨き。外面の一部に黒斑がある。	
36	I - 4	弥生土器 壺		(6.7)		7.1	内面は灰黄色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒、風化礫の粗粒を含む。器表の荒れが激しい。	
37	I - 4	弥生土器 壺		(8.2)		5.0	内面はにぶい橙色。外面は橙色。胎土はチャートの小礫、粗粒砂を含む。内外面共にナデ調整。	
38	I - 4	弥生土器 壺		(14.0)		8.0	内面は橙色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。外面はハケ。内面には指頭圧痕が見られる。	
39	I - 4	弥生土器 壺		(13.0)		8.0	内面は灰色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒を含む。内外面共に器表の荒れが激しい。底部から下胴部にかけて大きな黒斑がある。	
40	I - 4	弥生土器 甕	17.0	(23.8)			内面はにぶい橙色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口縁内外面共横ナデ。胴部外面は縦ハケ。内面はナデ。口唇は丸くおさめている。外面が煤けている。	
41	I - 4	弥生土器 甕	18.2	27.6		6.2	内面はにぶい黄橙色。外面は橙色。胎土は頁岩、チャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇を上下に拡張し横方向の強いナデを施している。口縁部内外面共に横ナデ。胴部外面は縦ハケ、内面は上胴部まで下→上のヘラ削り。外面が煤けている。	
42	I - 4	弥生土器 甕	12.4	21.7		6.0	内面は明赤褐色。外面は明褐色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。内外面共にナデ。外面に被熱赤変が見られる。	
43	I - 4	弥生土器 甕	16.6	(21.5)	19.0		内面はにぶい橙色。外面はにぶい赤褐色。胎土は風化礫を多く含む。口縁をわずかに上方に摘み上げて強い横ナデ。口唇は凹状をなす。上胴部に列点文。胴部外面は縦ハケ。上胴部内面は横ハケ、中位以下指ナデ。	
44	I - 4	弥生土器 甕	14.6	(20.8)	19.3		内面は褐灰色。外面は橙色。胎土は風化礫、石英の粗粒砂、長石の細粒砂を含む。胴部外面はハケ+ナデ。口縁外面は縦ハケ、内面は横ハケ+横ナデ。口唇は強い横ナデ。	
45	I - 4	弥生土器 甕	14.2	(20.0)			胎土はチャート、赤色風化礫、他の粗粒砂を含む。口縁端部を上方に摘み上げ、強い横ナデ。胴部外面は縦ハケ、内面は下→上のヘラ削りをほとんどナデ消す。外面は煤ける。	
46	I - 4	弥生土器 甕	26.0	(19.2)			内外面共ににぶい黄橙色。胎土はチャートの砂粒を多く含む。口唇は強い横ナデ。胴部外面はハケ+ナデ。上胴部内面は、ハケ+ナデ、中位以下に指頭圧痕が見られる。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
47	I - 4	弥生土器 甕	14.0	(10.6)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫を多く含む。口唇は面取り。内外面共器表の荒れが激しい。	
48	I - 4	弥生土器 甕	14.6	(6.4)			内面はにぶい黄橙色。外面はにぶい橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口唇は面取り。胴部外面は縦ハケ。	
49	I - 4	弥生土器 甕	13.6	(6.3)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。内外面共器表の荒れが激しい。口唇は面取り。断面に粘土紐の単位、接合痕が認められ、2.5cm幅である。	
50	I - 4	弥生土器 甕	15.0	(17.0)			内面は明赤褐色。外面は橙色。胎土はチャート、石英、風化礫の粗粒を含む。口縁を上には拡張、外面に擬凹線を施す。内面頸部は直下する。外面はハケ調整。	
51	I - 4	弥生土器 甕	17.0	(12.8)			内面はにぶい黄橙色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。口縁部内外面、口唇部は横ナデ。胴部外面はハケ+ナデ、内面は指ナデ。	
52	I - 4	弥生土器 甕	17.2	(15.0)			内外面共に灰黄褐色。胎土はチャート、頁岩の粗粒砂を多く含む。口縁外面に粘土帯貼付。胴部外面は縦ハケ、内面はナデ。口縁内外面は横ハケ。	
53	I - 4	弥生土器 甕	16.8	(10.5)			内面は灰白色。外面は灰黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗細粒砂を含む。口唇下端を摘み出し横方向に強いナデ。口縁外面に指頭圧痕が顕著に見られる。内外面共に器表の荒れが激しい。	
54	I - 4	弥生土器 甕	16.0	(11.0)			内外面共に橙色。胎土はチャートを含まず、風化礫の粗粒砂を含む。口唇は強い横ナデ。	
55	I - 4	弥生土器 甕	14.4	(3.4)			内外面共ににぶい黄橙色。胎土はチャート、風化礫を含む。口縁は端を上方に拡張、横ナデ。口唇は横ナデ。	
56	I - 4	弥生土器 甕	13.8	(3.7)			内面は黄灰色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。口唇は横ナデ、面取り。	
57	I - 4	弥生土器 甕	18.1	(9.5)			胎土はチャートの粗粒を多く含む。外面は縦ハケ、内面は横ハケ。外面が煤けている。	
58	I - 4	弥生土器 甕	15.0	(10.8)			内面はにぶい黄橙色。外面はにぶい橙色。胎土は長石、チャート他の粗粒を含む。口縁は下方に肥厚させ口唇は面取り。口縁外面に叩き痕が残る。胴部外面は縦ハケ、内面は棒状工具による作業痕がある。	
59	I - 4	弥生土器 甕	14.9	(11.0)			内面はにぶい橙色。外面は橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。口縁内外は横ナデ。胴部内外面はナデ。肩部に列点文。外面は煤けている。	
60	I - 4	弥生土器 甕	17.0	(13.1)			胎土は頁岩他の粗粒砂を含む。口縁内外面は横ナデ。口唇は丸くおさめる。胴部外面は縦ハケ。外面は煤けている。	
61	I - 4	弥生土器 甕	15.4	(10.0)			内外面共ににぶい黄橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口唇は強い横ナデ。内外面共に器表の荒れが激しい。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
62	I - 4	弥生土器 甕	22.2	(5.9)			内面は明黄褐色。外面はにぶい黄褐色。胎土は長石、チャートの細、粗粒砂を含む。口唇は面取り。外面は縦ハケ+ナデ。口縁内面は横ハケ+ナデ。胴部内面はナデ。	
63	I - 4	弥生土器 甕	22.6	(7.6)			内面は橙色。外面は黄褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口縁内外は横ナデ。口唇は面取り。胴部外面は縦ハケ。	
64	I - 4	弥生土器 甕	16.0	(7.4)			内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を含む。外面はハケ+ナデ。口縁内面は横ハケ。口唇は丸くおさめる。	
65	I - 4	弥生土器 甕	15.0	(6.2)			内面はにぶい橙色。外面は橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。口縁端部を上下に拡張。外面はハケ+ナデ、内面はナデ。	
66	I - 4	弥生土器 甕	18.0	(6.3)			内面は橙色。外面はにぶい橙色。胎土は風化礫の粗粒、長石細粒を含む。口唇は面取り。外面が煤ける。	
67	I - 4	弥生土器 甕	13.8	(5.5)			内面はにぶい黄褐色。外面は灰黄褐色。胎土は長石の細粒砂、チャートの粗粒砂を含む。口縁内外面共に横ナデ。胴部外面は縦ハケ、内面は指ナデ。	
68	I - 4	弥生土器 甕	15.0	(2.7)			内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口唇は横ナデで面取り。	
69	I - 4	弥生土器 甕	14.6	(3.6)			内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒を含む。口縁部は下方に拡張し、横ナデ。口唇は横ナデ。	
70	I - 4	弥生土器 甕	16.0	(2.7)			内面は黄灰色。外面はにぶい黄褐色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。口縁端部を上方に拡張。口唇は横ナデ。	
71	I - 4	弥生土器 甕		(14.5)		5.0	内外面共ににぶい橙色。胎土はチャート、風化礫の小礫、粗粒砂を多く含む。外面はハケ。内面はナデ。外面が煤ける。	
72	I - 4	弥生土器 甕		(14.3)		5.8	内面は黒褐色。外面は橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒を多く含む。外面は叩き+ナデ。内面は指ナデ。外面に被熱赤変が見られ、内面は煤ける。	
73	I - 4	弥生土器 甕		(9.9)		6.7	内外面共に明赤褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒を含む。内外面共に調整不明。外面は煤ける。	
74	I - 4	弥生土器 甕		(9.4)		7.2	内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい赤褐色。胎土はチャートの粗粒を多く含む。外面に被熱赤変、器表の剥離が見られる。	
75	I - 4	弥生土器 甕		(3.3)		5.3	内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。	
76	I - 4	弥生土器 甕		(7.5)		5.8	内外面共に灰色。胎土はチャート、風化礫の小礫、粗粒砂を多く含む。器表の荒れが激しい。	
77	I - 4	弥生土器 甕		(5.9)		5.4	内面はにぶい褐色。外面はにぶい赤褐色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。外面が被熱赤変している。	
78	I - 4	弥生土器 甕		(3.0)		5.8	内面は褐灰色。外面はにぶい褐色。胎土はチャート、頁岩の粗粒砂を含む。外面が煤ける。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
79	I-4	弥生土器 甕		(5.4)		3.8	内面はにぶい橙色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒を少量、長石細粒砂を含む。底部縁をつまみ出し、わずかに上底状を呈す。	
80	I-4	叩石	全長 9.2	全幅 8.0	全厚 3.2	重量(g) 340.0		
81	I-4	石器	全長 10.9	全幅 4.8	全厚 1.2	重量(g) 83.7		
82	I-4	石器	全長 11.6	全幅 5.3	全厚 1.1	重量(g) 109.6		
83	I-4	石器	全長 5.1	全幅 6.5	全厚 0.7	重量(g) 20.7		
84	I-4	石包丁	全長 7.6	全幅 3.6	全厚 0.7	重量(g) 27.7		
85	I-4	石包丁	全長 8.9	全幅 3.5	全厚 1.0	重量(g) 43.5		
86	I-4	石包丁	全長 10.1	全幅 5.0	全厚 0.6	重量(g) 61.3		
87	I-4	砥石	全長 5.9	全幅 3.1	全厚 1.4	重量(g) 42.4		
88	I-5	石鏃	全長 3.9	全幅 2.3	全厚 0.5	重量(g) 5.8	サヌカイト	
89	I-5	石包丁	全長 8.3	全幅 4.3	全厚 1.0	重量(g) 48	頁岩	
90	I-5	弥生土器 鉢	20.6	(10.2)			内面は灰黄褐色。外面は赤褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁下端をつまみ出して強く横ナデ。	
91	I-5	弥生土器 高杯		(2.7)		10.4	内外面共に灰黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。外面は叩き。内面はナデ。	
92	I-5	弥生土器 甕	13.6	(2.7)			内面は橙色。外面は明赤褐色。胎土は石英の粗粒砂、長石の細粒砂を含む。口縁は上下に拡張。口唇は強く横ナデ。搬入品の可能性。	
93	I-5	弥生土器 甕	17.1	(6.7)			内面は橙色。外面は明赤褐色。胎土はチャートを含まず、風化礫の粗粒砂を含む。口唇を上下に拡張させ2条の弱い凹線がある。	
94	I-5	弥生土器 壺	13.4	(6.1)			内面はにぶい黄橙色。外面は明赤褐色。胎土はチャートの細粗粒砂を含む。口縁は上方に拡張し、強い横ナデ。頸部外面に列点文。内外面共に横ナデ。頸部内面に指頭圧痕。	
95	I-5	弥生土器 壺	14.1	(4.6)			内外面共に灰黄色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。口縁端部を上方につまみ出し、強い横ナデ。強い熱により部分的に海綿状を呈す。内外面共に横ナデ。	
96	I-5	弥生土器 壺	13.6	(3.7)			内面は明褐色。外面は橙色。胎土は頁岩、他の風化礫の小礫を多く含む。口唇は面取り。	
97	I-5	弥生土器 壺		(5.6)		4.1	内外面共に明赤褐色。胎土はチャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。内外面共調整不明。	
98	I-5	弥生土器 甕		(6.2)		5.0	内外面共に黄桃色。胎土はチャート、頁岩の粗粒砂を含む。内外面共ナデ調整か。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
99	I - 5	弥生土器 甕		(6.5)		4.0	内外面共ににぶい橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。外面はハケ。	
100	I - 5	弥生土器 甕		(4.5)		5.2	内面は褐灰色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒を含む。外面は縦ハケ。内面はヘラ削り+ナデ。外面が煤けている。外底にハケがある。	
101	I - 6	弥生土器 甕	18.0	(6.0)			内面は黄灰色。外面は浅黄橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。内外面共にナデ調整か。口唇は面取り。	
102	I - 6	弥生土器 高杯		(3.1)		17.0	内外面共に橙色。胎土はチャート、他の粗粒砂を含む。内外面共にハケ+ナデ。端部は横ナデ。	
103	I - 6	弥生土器 壺	14.7	(3.3)			内外面共に橙色。胎土は長石、石英の細粗粒砂を含む。口縁部、口唇は強い横ナデ。外面は縦ハケ。内面は横ハケ。搬入品。	
104	I - 5	弥生土器 甕		(4.1)		7.6	内面はにぶい褐色。外面は明赤褐色。胎土はチャートを含まず、石英の粗粒を含む。外面はナデ調整。	
105	I - 6	弥生土器 壺	20.6	(6.8)			内面は黒色。外面は橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口縁外面に粘土帯(2.5cm)を貼付。口唇は横ナデ、面取り。肩部に列点文。口縁外面に指頭圧痕。内外面共横ナデ。	
106	I - 6	弥生土器 壺	12.7	(7.0)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒を多く含む。内外面共丁寧な横ナデ。口唇は面取り。	
107	I - 6	弥生土器 壺		(9.5)		6.8	内面はにぶい黄橙色。外面は明赤褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。外面は器表の荒れが激しい。内面は指ナデ。	
108	I - 6	弥生土器 甕	17.9	(8.2)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒砂を少量と長石の細粒を含む。内外面共横ナデ。口唇は面取り。外面が煤ける。	
109	I - 6	弥生土器 甕	16.4	(5.3)			内面は明褐色。外面は明赤褐色。胎土は風化礫を多く含む。口縁を上にはげし、強く横ナデ。内外面共ナデ調整。外面が煤ける。	
110	I	煙管	全長 (6.4)	全幅 1.0	全厚			
111	II - 5 ST 2	石包丁	全長 8.5	全幅 6.7	全厚 0.4	重量(g) 31.5		
112	II - 5 SK 2	土師器杯	11.3	3.2		4.1	内外面共ににぶい黄橙色。精選された胎土。内外面共横ナデ。底部糸切り。	
113	II - 5 SK 2	土師器杯		(2.9)		6.0	内外面共ににぶい黄橙色。精選された胎土。内外面共横ナデ。底部糸切り。	
114	II - 5 SK 2	土師器杯	11.3	2.4		6.0	内外面共ににぶい黄橙色。精選された胎土。内外面共横ナデ。底部糸切り。	
115	II - 5 ST 2	弥生土器 鉢	19.0	12.1		5.6	内外面共に浅黄橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒を多く含む。内外面共に器表の荒れが激しい。	
116	II - 5 ST 2	紡錘車	全長 6.3	全幅 6.1	全厚 0.9	重量(g) 36.2	内外面共に浅黄橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。端面は丸い。孔径は0.6cm。	
117	II - 5 ST 2	弥生土器 ミニチュア鉢	6.0	(3.9)		3.4	内面はにぶい黄橙色。外面は橙色。胎土は長石の細粒砂、チャートの粗粒砂を含む。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
118	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕	18.5	(14.8)			内面は橙色。外面は黄橙色。胎土はチャート、石英、長石の細粒砂を含む。口縁端部を上方につまみ上げ、強い横ナデ。口唇は凹状をなす。胴部外面は右下がりハケ。内面はナデ。	
119	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 壺		(13.3)		10.0	内外面共に橙色。胎土はチャート、長石の粗、細粒砂を多く含む。外面は縦ハケ。内面は指ナデ。	
120	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕	15.9	13.6		5.4	内外面共に明黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口唇に弱い沈線が1条ある。口縁端部をわずかに上方に拡張。外面はハケ調整+ナデ。内面は下→上のヘラ削り+ナデ。	
121	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕		(16.7)		6.6	内面はにぶい黄橙色。外面は浅黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。外面は縦ハケで煤けている。内面はナデ。	
122	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕		(17.5)		6.0	内面は黄灰色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。外面は縦ハケ、底部付近は縦ヘラ磨き。内面は指ナデ。外面が煤けている。	
123	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕		(10.6)		4.8	内面は橙色。外面は明赤褐色。胎土はチャート、石英他の粗粒砂を含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
124	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕		(2.9)		7.7	内面はにぶい黄橙色。外面は灰黄褐色。胎土は長石、チャートの粗粒砂を含む。上げ底風。底部外縁に指頭圧痕が顕著である。	
125	Ⅱ-5 ST2	弥生土器 甕		(2.9)		5.5	内面は褐灰色。外面はにぶい橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。上げ底である。	
126	Ⅱ-2・3 ST3	弥生土器 甕	14.8	(18.5)	13.6		内面は浅黄褐色。外面はにぶい黄褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口縁は内外面共横ナデ。口唇は面取り。胴部外面は縦ハケ+ナデ。外面が煤けている。	
127	Ⅱ-2・3 ST3	弥生土器 小形甕	11.0	(5.2)			内面は明赤褐色。外面は明褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁外面に粘土帯を貼付。	
128	Ⅱ-2・3 ST3	弥生土器 甕		(2.1)		5.4	内面はオリーブ黒色。外面は浅黄色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。調整は不明。	
129	Ⅱ-2・3 ST3	石鏃	全長 2.7	全幅 1.8	全厚 0.4	重量(g) 1.8	サヌカイト	
130	Ⅱ-2・3 ST3	叩石	全長 12.5	全幅 9.5	全厚 3.5	重量(g) 620.0		
131	Ⅱ-3 SK1	弥生土器 甕	11.4	14.6		2.5	内外面共ににぶい黄褐色。胎土は風化礫の粗粒、小礫を含む。外面は叩き+縦ハケ。内面は右下がりのハケ調整で、下半は指ナデによって消されている。	
132	Ⅱ-3 SK1	弥生土器 鉢	11.3	5.0		1.8	内外面共に橙色。胎土は石英、チャート、風化礫の粗粒砂を含む。内面は横ハケ、外面は部分的に縦ハケ。外面に大きな黒斑あり。	
133	Ⅱ-3 SK1	弥生土器 鉢	13.6	6.1		1.8	内面はにぶい橙色。外面は浅黄褐色。胎土は風化礫の粗粒砂を含む。外面は縦ハケ、内面は横ハケ。小さな底部。	
134	Ⅱ-1	弥生土器 壺	19.7	(3.0)			内面はオリーブ黒色。外面は橙色。胎土は頁岩、チャート、長石の細粗粒砂を含む。口唇は1条の凹線文。内外面共横ナデ。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
135	Ⅱ-1	弥生土器 器台		(4.0)			内面は橙色。外面は明褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。外面に凹線文。	
136	Ⅱ-1	弥生土器 甕	14.4	(12.0)			内面はにぶい橙色。外面はにぶい褐色。胎土はチャート他の小礫、粗粒砂を含む。口唇に刻み。調整は不明。	
137	Ⅱ-1	弥生土器 甕	20.8	(5.3)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒を多く含む。口唇は横ナデ。器表面の荒れが激しい。	
138	Ⅱ-1	弥生土器 甕	15.2	(5.2)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。内面は下→上のヘラ削り。口唇は丸くおさめる。胴部外面に赤色顔料付着。	
139	Ⅱ-1	弥生土器 甕	13.2	(4.2)			内面はオリーブ黒色。外面はにぶい褐色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。	
140	Ⅱ-1	弥生土器 甕	22.4	(5.2)			内外面共に橙色。胎土は石英、長石の粗・細粒砂を含む。口唇は強い横ナデ。内面は横ハケ、外面は縦ハケ。	
141	Ⅱ-1	弥生土器 甕	15.8	(5.8)			内外面共に赤褐色。胎土はチャート他の粗粒砂、長石の細粒砂を多く含む。口縁外面に幅1cmの粘土帯を貼付。口唇は強いナデにより下方に拡張。調整は不明である。	
142	Ⅱ-1	弥生土器 甕	13.5	(2.4)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の細粗粒砂を含む。口唇は面取り、ナデ調整。	
143	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(2.4)		7.0	内面は黒色。外面は明赤褐色。胎土は石英、長石の粗・細粒砂を含む。内面は下→上のヘラ削り。外面は縦ハケ。外面が煤ける。	
144	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(2.0)		4.9	内面は黒色。外面はにぶい橙色。胎土は長石の細粒、チャートの粗粒を含む。内外面共ナデ調整か。	
145	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(4.0)		5.8	内外面共ににぶい黄橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。外面は縦ハケ。内面はナデ。	
146	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(3.7)		5.5	内外面共ににぶい黄褐色。胎土は石英、長石を含む。外面は縦ハケ。底部外縁は横ハケ。内面はナデ。	
147	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(2.9)		7.2	内外面共に明赤褐色。胎土はチャートの粗粒砂、長石の細粒砂を含む。内面はヘラ削り。	
148	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(3.5)		6.2	内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。内外面共ナデか。	
149	Ⅱ-1	弥生土器 甕		(6.4)		5.7	内外面共に橙色。胎土は長石、チャートの粗粒砂を多く含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
150	Ⅱ-1	块状耳飾 り	全長 3.3	全幅 1.0	全厚 0.4	重量(g) 3.4	結晶片岩	
151	Ⅱ-1	石鏃	全長 2.6	全幅 2.0	全厚 0.6	重量(g) 2.5		
152	Ⅱ-1	石鏃	全長 2.2	全幅 1.4	全厚 0.3	重量(g) 1.2		
153	Ⅱ-1	石鏃	全長 2.2	全幅 1.2	全厚 0.4	重量(g) 1.1	サヌカイト	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
154	Ⅱ-1	石鏃	全長 2.0	全幅 0.9	全厚 0.3	重量(g) 0.5	サヌカイト	
155	Ⅱ-1	石器	全長 4.1	全幅 1.6	全厚 1.1	重量(g) 7.3		
156	Ⅱ-1	石器	全長 8.0	全幅 6.8	全厚 2.5	重量(g) 177		
157	Ⅱ-1	石器	全長 8.2	全幅 5.3	全厚 1.2	重量(g) 70.6		
158	Ⅱ-2	弥生土器 甕	15.0	(26.7)	23.0		内面はにぶい褐色。外面はにぶい橙色。胎土はチャート他の細粒砂を含む。口縁端を下方に拡張し口唇に3条の凹線。口縁内外面共強い横ナデ。外面は縦ハケ、下方には縦ヘラ磨き。内面は中位以下が下→上のヘラ削り。	
159	Ⅱ-4	弥生土器 甕	13.3	19.6		3.0	内面は灰黄色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャート、風化礫、その他の粗粒砂を含む。口唇は面取り。外面は縦ハケ。内面はハケ+ナデ。外面はハケの下地に叩きあり。底部には径5mmの小孔を焼成前に穿孔。外面は煤けて、器表の剝離が進んでいる。	
160	Ⅱ-4	弥生土器 甕		(13.9)		2.3	内面は橙色。外面は明黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。外面は叩き+縦ハケ。内面は指ナデ。外底はハケ。	
161	Ⅱ-4	弥生土器 甕		(2.7)		1.8	内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。外面はナデ。内面はハケ、ナデ。	
162	Ⅱ-4	弥生土器 甕	9.9	(5.7)	8.9		内面はにぶい黄橙色。外面は橙色。胎土は風化礫の粗、細粒砂を含む。口唇は面取り。外面は縦ハケ。内面は横ハケ。	
163	Ⅱ-4	弥生土器 甕		(9.5)	10.1	24.0	内面はにぶい黄橙色。外面は橙色。胎土はチャート、頁岩の粗粒を含む。外面はハケ。内面はナデ。底部に黒斑。	
164	Ⅱ-3	弥生土器 壺	11.1	11.9		6.0	内外面共に明赤褐色。胎土は石英、チャート、長石の細・粗粒砂を含む。口縁端を上下に拡張し横ナデ。胴部外面は縦ハケ、内面はナデ。	
165	Ⅱ-3	弥生土器 壺	16.6	(3.4)			内面は橙色。外面はにぶい褐色。胎土は長石の細粒、石英の粗粒砂を含む。口唇は横ナデ。内面は横方向、外面は縦方向のハケ。搬入品か。	
166	Ⅱ-4	弥生土器 壺		(4.4)		8.3	内面は黒色。外面は明褐色。胎土はチャートの粗粒を含む。調整は不明。	
167	Ⅱ-3	石器	全長 2.6	全幅 1.9	全厚 0.5	重量(g) 3.6		
168	Ⅱ-4	石鏃	全長 3.2	全幅 1.8	全厚 0.4	重量(g) 2.4		
169	Ⅱ-3	石鏃	全長 2.4	全幅 1.6	全厚 0.3	重量(g) 1.3		
170	Ⅱ-4	石鏃	全長 2.2	全幅 1.6	全厚 0.5	重量(g) 1.2		
171	Ⅱ-4	叩石	全長 8.2	全幅 7.2	全厚 2.6	重量(g) 220.0		

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
172	Ⅱ - 3	石器	全長 2.5	全幅 3.7	全厚 0.5	重量(g) 6.7		
173	Ⅱ - 5	弥生土器 甕	20.0	(7.75)			内面はにぶい黄褐色。外面は明褐色。胎土はチャート、結晶片岩他の細粗粒砂を含む。口唇は面取り。口縁外面に三角突帯1条貼付と櫛描直線文1帯。上胴部に三角突帯2条と櫛描文帯2帯。	
174	Ⅱ - 5	弥生土器 甕	14.2	(3.2)			内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。口縁が肥厚、内外面横ナデ。口唇は強い横ナデ。上胴部は外面は横ナデ、内面は下→上のヘラ削り+ナデ。	
175	Ⅱ - 5	弥生土器 甕		(3.9)		8.6	内面は明赤褐色。外面はオリーブ黒色。胎土は風化礫、チャートの粗粒砂を含む。内外面共ナデ調整。	
176	Ⅱ - 5	弥生土器 甕		(4.0)		6.0	内面はにぶい橙色。外面は褐灰色。胎土はチャート、赤色風化礫の粗粒砂と、長石の細粒砂を含む。上底。外面はヘラ磨き。	
177	Ⅱ	弥生土器 甕		(3.1)		3.5	内面は橙色。外面はにぶい黄橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。外面はハケ、内面はナデ。下胴部外面に黒斑。	
178	Ⅱ - 6	青磁碗		(2.3)		2.4	内外面共に灰オリーブ色。灰色でやや荒い胎土。濁りのある薄緑の釉。高台内面まで施釉。外底・高台内面は掻き取り。	
179	Ⅱ - 6	石器	全長 2.8	全幅 1.9	全厚 0.5	重量(g) 2.7		
180	Ⅱ - 5	石鏃	全長 2.2	全幅 1.5	全厚 0.3	重量(g) 1.3		
181	Ⅱ - 5	石鏃	全長 2.3	全幅 1.5	全厚 0.3	重量(g) 1.3		
182	Ⅱ - 5	叩石	全長 13.0	全幅 10.3	全厚 3.9	重量(g) 800.0		
183	Ⅱ - 5	叩石	全長 13.4	全幅 8.5	全厚 4.3	重量(g) 660.0		
184	Ⅱ - 5	叩石	全長 6.4	全幅 7.3	全厚 3.8	重量(g) 250.0		
185	Ⅱ - 6	石斧	全長 11.3	全幅 4.8	全厚 1.3	重量(g) 92.5	超塩基性岩、アルカリ性岩。	
186	Ⅲ - 5	須恵器杯	14.8	(3.3)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。	
187	Ⅲ - 7	須恵器杯	11.4	(3.6)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデで、丁寧な作り。	
188	Ⅲ - 5	須恵器杯	13.1	(3.2)		8.6	内面は灰白色。外面は灰色。精選された胎土。高台は付け根から剥離。外底に貼付の際の沈線がある。内外面共丁寧な横ナデ。外面に自然釉。器高指数24.6。	
189	Ⅲ - 5	須恵器杯	13.6	(3.5)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。底部円盤と体部との接合部で剥離。	
190	Ⅲ - 7	須恵器杯	14.0	(3.3)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデで、丁寧な作り。底部が剥離。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
191	Ⅲ－2	須恵器杯	13.6	4.0		8.2	内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。外底は削り+ナデ。器高指数29.4。	
192	Ⅲ－5	須恵器杯	15.8	(3.3)			内外面共に灰白色。精選された胎土。丁寧な作り。内外面共横ナデ。外面はロクロ目痕が段状を呈す。	
193	Ⅲ－7	須恵器杯	13.2	3.2			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。県内他地域の須恵器とは違って作りが丁寧。外底は貼付け高台が剥離、丁寧な横ナデ仕上げ。	
194	Ⅲ－7	須恵器杯		(1.9)		8.0	内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。外底は削り+ナデ。内定に窯壁体が付着。	
195	Ⅲ－2	須恵器杯	14.4	(4.4)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
196	Ⅲ－2	須恵器杯	13.0	(3.2)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。	
197	Ⅲ	須恵器杯		(3.0)		8.6	内外面共に灰白色。精選された胎土。内外共丁寧な横ナデ。外面に自然釉。	
198	Ⅲ－7	須恵器杯	11.0	4.4		7.2	内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。器高指数40。	
199	Ⅲ－2	須恵器杯	13.4	4.3		7.2	内外面共に灰白色。精選された胎土。外底に粘土紐の単位を認める。ヘラ切り後ナデ。体部内外面、内底は丁寧な横ナデ。	
200	Ⅲ	須恵器杯	15.4	(4.8)			内外面共に灰色。精選された胎土。内外共丁寧な横ナデ。口縁は外反。外面にロクロ目。外面に自然釉。	
201	Ⅲ－5	須恵器杯	13.6	(5.0)			内外面共に灰白色。精選された胎土。丁寧な作り。横ナデ。内面にカキ目状の弱い沈線が走る。	
202	Ⅲ－7	須恵器杯	15.0	(5.1)			内外面共に灰白色。丁寧な作り。内外面共横ナデ。器高指数33.3。	
203	Ⅲ－5	須恵器甕	17.0	(2.8)			内面は灰白色。外面は灰色。精選された胎土。口縁端をつまんで横方向のナデ。頸部内外面横ナデ。内面に自然釉。	
204	Ⅲ－4	須恵器杯	18.0	(4.5)			内外面共に灰白色。胎土はチャート他の細粒砂を含む。内外面共横ナデ。丁寧な作り。	
205	Ⅲ	須恵器杯	13.8	(3.3)			内外面共に灰白色。精選された胎土。丁寧な作り。内外面とも横ナデ。	
206	Ⅲ－7	須恵器杯	13.2	(3.5)			内面は灰色。外面は灰白色。精選された胎土。丁寧な作り。内外面共横ナデ。	
207	Ⅲ－5	須恵器杯		(3.0)		8.2	内外面共に灰白色。精選された胎土。外底端部に沈線を施し、それに高台を埋めるように貼付。高台は外方に張り出し、畳付は凹状を呈す。外底中央に爪状圧痕が環状にめぐる。体部外面、外底は丁寧な横ナデ。内定はハケ状工具で横ナデ。外底に窯壁が付着。	
208	Ⅲ－5	須恵器杯		(2.2)		9.8	内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。畳付が凹状をなす。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
209	Ⅲ－5	須恵器杯		(2.1)		9.4	内外面共に灰白色。精選された胎土。丁寧な作り。高台の付け根に沈線あり。外底に径4.5cmの爪圧痕のリングが巡る。	
210	Ⅲ－5	須恵器杯		(1.5)		8.6	内外面共に灰白色。精選された胎土。高台は外方にしっかり踏ん張る。畳付は凹状。端部を外方につまみ出し横方向に強いナデ。外底は削り+ナデ。体部は内外面共丁寧な横ナデ。内面に自然釉。	
211	Ⅲ－5	須恵器杯		(2.0)		8.2	内外面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が付く。下端を外側につまみ出し、強く横ナデ。内外面共丁寧な横ナデ。内面に自然釉。	
212	Ⅲ－7	須恵器杯		(3.0)		8.8	内外面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が、八字状に付く。高台は、下端をつまみ出して、外方に強く横ナデ。畳付は凹状。体部内外面は丁寧な横ナデ。	
213	Ⅲ－2	須恵器杯		(2.1)		12.0	内外面共に灰白色。精選された胎土。内外共丁寧な横ナデ。畳付は内傾する凹面。	
214	Ⅲ－2	須恵器杯		(3.3)		8.4	内外面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が外方に踏ん張る。畳付は凹状。内外面共丁寧な横ナデ。外底は左→右の削り。	
215	Ⅲ－7	須恵器壺		(2.2)		9.0	内面は灰白色。外面は灰色。精選された胎土。しっかりした高台が外方に踏ん張って付く。端部を外方につまみ強く横方向にナデ。外底は削り+ナデ。畳付は面をなす。	
216	Ⅲ－7	須恵器杯		(1.8)		12.8	内外面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が外方に踏ん張って付く。端部を外方につまみ出して、強く横ナデ。外底はヘラ削り+丁寧なナデ。畳付は凹状をなす。	
217	Ⅲ－2	須恵器杯		(1.5)		12.1	内面は灰色。外面は灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が外方に踏ん張る。端部は外方につまみ出し、強く横ナデ。体部は、底部円盤との接合部から剥離。高台付根外面には沈線が巡る。外底はヘラ削り+丁寧なナデ。	
218	Ⅲ－2	須恵器蓋	14.4	(1.4)			内外面共に灰白色。丁寧な作りで、外面には自然釉が見られる。外面は横ナデ。内面は横ナデ+一定方向の丁寧なナデが見られる。	
219	Ⅲ－7	須恵器蓋	15.4	(2.1)			内外面共に灰色。ロクロ右回り。外面に自然釉と窯体の一部の付着が見られる。外面の中心部側半分は削り+ナデ、円周側半分は横ナデ。内側は横ナデ+一定方向の丁寧なナデ。	
220	Ⅲ－7	須恵器蓋	14.4	(2.1)			内面は灰色。外面は灰白色。丁寧な作り。内外面共横ナデ。	
221	Ⅲ－5	須恵器蓋	15.7	(1.5)			内面は灰色。外面は灰白色。精選された胎土。全面丁寧な横ナデ。	
222	Ⅲ－2	須恵器蓋	16.6	(2.0)			内面は灰白色。外面は灰色。丁寧な作り。内外面共横ナデ。外面に窯体の一部が付着。	
223	Ⅲ－2	須恵器蓋	15.2	(2.2)			内面は灰色。外面は灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。	
224	Ⅲ－5	須恵器蓋	8.3	(1.7)			内外面共に灰白色。精選された胎土。天蓋部外面ヘラ削り(左→右)。内外面共横ナデ。口縁はつまみ出してやや強くナデる。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
225	Ⅲ-2	須恵器蓋	14.0	(2.0)			内外面共に灰白色。外面は丁寧な横ナデ。内面は丁寧な横ナデ+一定方向の丁寧なナデ。端部は凹状をなす。	
226	Ⅲ-4	須恵器蓋	17.9	(3.0)			内面は灰白色。外面は灰色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。天井部外面は、削り(左←右)+横ナデ。	
227	Ⅲ-2	須恵器蓋	20.0	(2.7)			内面は灰白色。外面は灰色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。外面には自然釉。	
228	Ⅲ-7	須恵器蓋		(1.9)			内外面共に灰白色。胎土は長石粒を多く含む。内外面共横ナデ。	
229	Ⅲ-7	須恵器蓋		(2.0)			内外面共に灰白色。精選された胎土。外面は横ナデ。内面は横ナデ+一定方向のナデ。	
230	Ⅲ	須恵器蓋	12.2	(1.8)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。天井部外面は削り(左←右)+横ナデ。	
231	Ⅲ-2	須恵器皿	17.4	2.3		15.4	内外面共に灰白色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。立ち上がりは内外面共横ナデ。内面はナデ。外底は削り(右→左)。	
232	Ⅲ-7	須恵器壺		(6.9)			内面は灰白色。外面は灰色。精選された胎土。内面は横ナデ。外面は右→左の弱い削り+横ナデ。肩ににぶい凹線が1条。	
233	Ⅲ-7	須恵器壺		(7.5)			内外面共に灰白色。胎土は石英、チャート他の細粒砂を含む。頸下端に胴部との接合部を認める。	
234	Ⅲ-5	須恵器壺		(7.2)			内外面共に灰白色。精選された胎土。外面は横ナデ。	
235	Ⅲ-7	須恵器壺		(3.2)		11.0	内外面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が八字状につく。端部を外方につまみ出し強い横ナデ。	
236	Ⅲ-4	須恵器壺		(3.4)		10.0	内外面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台が八字状に張り出す。体部外面はヘラ削り(左←右)。	
237	Ⅲ-5	須恵器壺		(3.6)			内外面共に灰色。精選された胎土。内外面共丁寧な横ナデ。外面に自然釉。胴部外面に3条の沈線。	
238	Ⅲ-7	須恵器甕	21.8	(4.5)			内外面共に灰白色。精選された胎土。口縁端をつまみ出して強く横ナデ。内外面共丁寧な横ナデ。外面に自然釉。	
239	Ⅲ-2	須恵器甕	20.0	(5.9)			内面は明青灰色。外面は灰白色。精選された胎土。口縁部外面は丁寧な横ナデ。口縁部から頸部内面は丁寧な横ナデ。肩部外面は右上がりの叩き+横ハケ。内面は青海波文。	
240	Ⅲ-5	須恵器甕	48.6	(4.2)			内外面共に灰白色。胎土は石英、長石の細・粗粒砂を含む。口唇を上下に拡張し2条の凹線が巡る。口縁内外面共横ナデ。	
241	Ⅲ-7	須恵器甕	51.8	(6.3)			内外面共に灰白色。口唇を上下に拡張、2条の凹線が巡る。外面は縦ハケ+横ナデ。内面は横ナデ。	
242	Ⅲ-2	須恵器甕		(11.1)			内外面共に灰白色。胎土は長石粒を多く含む。口縁部内面は横ハケ。外面上半は横方向のナデ。下半は縦ハケ。胴部内面は青海波文。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
243	Ⅲ-7	須恵器鉢	12.0	(4.3)			内外面共に灰色。精選された胎土。口唇は丸くおさめる。内外面共横ナデ。	
244	Ⅲ-7	須恵器鉢	15.6	(3.8)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。丁寧な作り。	
245	Ⅲ-2	須恵器鉄鉢	38.0	(5.5)			内外面共に灰白色。精選された胎土。口唇は面取り。内外面共横ナデ。外面は自然釉で窯壁の一部が付着。	
246	Ⅲ-5	弥生土器甕	21.0	(5.1)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。内外面とも調整不明。	
247	Ⅲ-5	弥生土器高杯		(6.3)			内外面共ににぶい黄褐色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。内面は指ナデ。外面は器表の荒れが激しい。	
248	Ⅲ-7	弥生土器ミニチュア		(2.5)		2.5	内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒を含む。器表の荒れが激しく調整不明。	
249	Ⅲ-7	カマド		(7.1)			内外面共に橙色。胎土は石英、長石の粗粒を多く含む。炊き口部は面取り。内面はハケ調整。	
250	Ⅲ-1	石包丁	全長 7.2	全幅 4.7	全厚 0.6	重量(g) 30.0		
251	Ⅳ-1	土師器杯	10.8	3.0		5.8	内外面共ににぶい黄褐色。精選された胎土。内外面共横ナデ。底部糸切り。	
252	Ⅳ-2	弥生土器甕	18.4	(4.3)			内面は橙色。外面は浅黄褐色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口唇は強い横ナデ。口縁内外面は横ナデ。胴部外面は縦ハケ。	
253	Ⅳ-2	弥生土器高杯		(4.4)			内面はにぶい黄褐色。外面は浅黄褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
254	Ⅳ-2	弥生土器壺	24.0	(3.5)			内面は明赤褐色。外面は橙色。胎土は頁岩他の風化礫を含む。口唇は面取り。内面は稜をなして外反。	
255	Ⅳ-2	弥生土器壺	14.3	(12.8)			内面は灰黄色。外面は橙色。胎土は頁岩、チャート他の粗粒砂を多く含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
256	Ⅳ-3	弥生土器高杯	30.8	(3.0)			内外面共に橙色。胎土は石英、チャートの粗粒砂を多く含む。	
257	Ⅳ-3	弥生土器高杯		(8.0)		8.2	内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。脚端部は丁寧な横ナデ。	
258	Ⅳ-3	弥生土器高杯		(5.8)		17.6	内外面共ににぶい黄褐色。胎土は石英、チャートの粗粒を多く含む。端部付近横ナデ。脚外面は縦ハケ、内面はナデ。	
259	Ⅳ-3	弥生土器鉢		(4.7)		4.6	内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。胎土は長石、石英の粗粒砂を含む。内外面共ナデ。脚部外面に指頭圧痕あり。	
260	Ⅳ-3	弥生土器蓋	摘み部径 4.2	(2.5)			内面は褐灰色。外面は灰黄褐色。胎土はチャート、角閃石他の細・粗粒砂を含む。内外面は煤ける。	
261	Ⅳ-3	弥生土器甕	16.0	29.6	(19.4)	7.0	内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫他の粗粒砂を多く含む。口縁内外面は強い横ナデ。口唇は横ナデで凹状をなす。胴部外面は縦ハケ、内面には指頭圧痕が顕著である。外面が煤ける。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
262	IV-3	弥生土器 甕	(19.0)	(10.4)			内外面共に明赤褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口縁内外面共横ナデ。口唇は面取り。胴部内面は左上がりのヘラ削り。外面は縦ハケ。外面が煤けている。	
263	IV-3	弥生土器 甕	20.3	(6.9)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫を多く含む。口唇は面取り。内外面共器表の荒れが激しい。	
264	IV-3	弥生土器 甕	18.9	(6.0)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。頸部下に列点文を配す。内外面共調整不明。	
265	IV-3	弥生土器 甕	14.6	(6.8)			内外面共に橙色。胎土はチャート、長石他の粗粒砂を含む。口唇を丸くおさめる。内外面共器表の荒れが激しい。	
266	IV-3	弥生土器 甕	16.6	(6.0)			内外面共に褐色。胎土はチャートの粗粒を多く含む。口縁内外面共横ナデ。口唇面取り。外面及び口縁内面が煤ける。	
267	IV-3	弥生土器 甕	14.0	(6.5)			内外面共に橙色。胎土は風化礫、長石の細粗粒砂を含む。口縁内外面共横ナデ。口唇は面取り。内外面共器表の荒れが激しい。	
268	IV-3	弥生土器 甕	14.6	(3.4)			内外面共に褐灰色。胎土はチャートの粗粒を多く含む。外面は叩き、内面は横ハケ。	
269	IV-3	弥生土器 甕	13.4	(6.4)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒を多く含む。口唇は横ナデ。下端に刻目。上胴部～頸部に櫛描文、その下に列点文を配す。外面は煤ける。	
270	IV-3	弥生土器 甕	13.2	(4.6)			内面は灰オリーブ色。外面は褐色。胎土は石英、チャート他の粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。口縁外面は列点文。	
271	IV-3	弥生土器 甕	11.6	(5.9)			内外面共に橙色。胎土は風化礫を多く含む。調整は不明。	
272	IV-3	弥生土器 甕	14.4	(3.4)			内面はにぶい橙色。外面は浅黄橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁内外面共横ナデ。口唇は面取り。	
273	IV-3	弥生土器 甕	12.8	(5.0)			内面は橙色。外面は明赤褐色。胎土は石英、他の砂粒を含む。口縁内外面共横ナデ。胴部外面はハケ。	
274	IV-3	弥生土器 甕	15.3	(6.7)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口縁端を上下に拡張、口唇は面取り。胴部内面はヘラ削り。外面の調整は	
275	IV-3	弥生土器 甕	13.7	(4.1)			内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒を多く含む。口縁を上方に拡張し、強い横ナデ。	
276	IV-3	弥生土器 甕	14.4	(2.3)			内外面共に黒褐色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口縁を上下に拡張。外面は縦ハケ、内面は右下がりハケ。口唇もハケ調整。外面が煤けている。	
277	IV-3	弥生土器 甕	13.9	(2.2)			内外面共ににぶい黄橙色。胎土はチャートその他の粗粒砂を含む。口縁を上方に拡張。口唇に弱い2条の凹線文。口縁内外面共強い横ナデ。	
278	IV-3	弥生土器 甕	10.2	(2.4)			内外面共に明赤褐色。胎土は石英砂粒を多く含む。口縁を上方に拡張し強い横ナデ。外面が煤けている。搬入品。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
279	IV-3	弥生土器 甕		(9.0)		11.2	内面は黒褐色。外面は橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。内面はナデ、外面は縦ハケ。	
280	IV-3	弥生土器 甕		(11.0)		6.4	内面は黄褐色。外面は明褐色。胎土は石英、チャート他の粗粒を多く含む。内面は指ナデ、外面は縦ハケ。	
281	IV-3	弥生土器 甕		(13.0)		6.4	内外面共に橙色。胎土は石英、風化礫の粗粒砂を多く含む。内面は指ナデ。外面は調整不明。	
282	IV-3	弥生土器 甕		(10.3)		6.0	内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。内面は指ナデ。外面は器表の荒れが激しい。	
283	IV-3	弥生土器 甕		(10.7)		4.0	内外面共ににぶい黄褐色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。内外面共ナデ。	
284	IV-3	弥生土器 甕		(10.7)		4.7	内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。外面は縦ハケ+ナデ。内面は指ナデ。	
285	IV-3	弥生土器 甕		(5.4)		5.0	内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。内外面共ナデ調整。	
286	IV-3	弥生土器 甕		(4.9)		9.6	内面は灰褐色。外面はにぶい黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。内面はナデ、外面は調整不明。	
287	IV-3	弥生土器 甕		(6.1)		6.6	内外面共に橙色。胎土は石英、チャート他の粗粒砂を含む。内面はナデ、外面は調整不明。底部がわずかに上底状をなす。	
288	IV-3	弥生土器 甕		(5.2)		6.0	内面はにぶい黄褐色。外面はにぶい橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。外面はハケ+ナデ、内面はナデ。わずかに上底状。	
289	IV-3	弥生土器 甕		(4.1)		4.8	内面は橙色。外面は明褐色。胎土は石英、チャート、風化礫の粗粒砂を含む。内面はナデ、外面は調整不明。	
290	IV-3	弥生土器 甕		(2.8)		6.6	内面はにぶい褐色。外面は橙色。胎土は石英、チャートの粗粒砂、長石の細粒砂を多く含む。	
291	IV-3	弥生土器 甕		(2.2)		7.9	内面はにぶい黄褐色。外面は黒褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。被熱赤変が見られる。	
292	IV-3	弥生土器 甕		(4.2)		4.4	内外面共ににぶい褐色。胎土は角閃石、チャートの粗粒砂を含む。外面は縦ハケ。外底もハケ。内面はヘラ削り。	
293	IV-3	弥生土器 壺	28.8	(12.7)			内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。口唇は幅広く凹状をなす。頸部外面は縦ハケ、内面は横ハケ。	
294	IV-3	弥生土器 壺	17.4	(11.0)			内外面共に橙色。胎土は石英、チャートの粗粒砂を含む。口縁端を上下に拡張、口唇に列点文。肩部にも列点文を配す。口縁内外面共横ナデ。胴部は内外面共ナデ。	
295	IV-3	弥生土器 壺	15.6	(10.5)			内面は灰白色。外面は灰黄色。胎土は赤色の風化礫を多く含む。口縁端は下方にわずかに肥厚させ、口唇は強い横ナデにより凹状をなす。頸胴部外面縦ハケ、胴部内面中位は左右のヘラ削り。上胴部内面は指頭圧痕が顕著。頸部内面は横ハケ。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
296	IV-3	弥生土器 壺	13.4	(7.4)			内面は黄橙色。外面は橙色。胎土はチャート他の細・粗粒砂を含む。口唇は面取り。内外面共ナデ調整。	
297	IV-3	弥生土器 壺	14.0	(6.4)			内外面共に橙色。胎土はチャート、風化礫を多く含む。外面は縦ハケ。内面は調整不明。	
298	IV-3	弥生土器 壺	24.2	(4.7)			内外面共に明赤褐色。胎土は石英の粗粒砂を多く含む。口縁を上下に拡張し、口唇に3条の凹線文。内外面共器表の荒れが激しい。	
299	IV-3	弥生土器 壺	20.9	(5.4)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒を多く含む。口縁に1.5cm幅の粘土帯を貼付。口唇は面取り。頸部外面は縦ハケ、内面は横ハケ。	
300	IV-3	弥生土器 壺	10.4	(3.7)			内外面共に橙色。胎土はチャートの粗粒砂を含む。端部は丸くおさめ、内外面共横ナデ。外面は縦ハケ+ヘラ磨き。	
301	IV-3	弥生土器 壺	20.4	(2.5)			内面は明赤褐色。外面はにぶい褐色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。口縁外面に1.2cm幅の粘土帯を貼付し、列点文を配す。口唇は強い横ナデ。	
302	IV-3	弥生土器 壺	18.7	(3.1)			内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。口縁外面に幅2cmの粘土帯を貼付。指頭で押圧した痕がある。	
303	IV-3	弥生土器 壺	12.6	(6.4)			内面は黄橙色。外面は橙色。胎土は石英、風化礫、長石の粗粒砂を含む。口唇は丸くおさめる。外面は縦ハケ。	
304	IV-3	弥生土器 壺	12.6	(4.2)			内面は明褐色。外面は橙色。胎土は長石の細片、石英、チャートの粗粒砂を含む。口縁は内外面共弱い横ナデ。頸部外面は縦ハケ。	
305	IV-3	弥生土器 壺	16.0	(6.0)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁端を上下に拡張、口唇に沈線化した凹線文を3条、更に竹管文を配す。内外面共器表の荒れが激しい。	
306	IV-3	弥生土器 壺	15.4	(5.7)			内外面共に明赤褐色。胎土は風化礫を多く含む。口唇に沈線化した凹線文2条。頸部外面は縦ハケ。頸部下端に隆帯を貼付し、細い刺突を施す。	
307	IV-3	弥生土器 壺	13.5	(4.3)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁を下方に拡張し、口唇に列点文。内外面共横ナデ。	
308	IV-3	弥生土器 壺	15.7	(4.5)			内面は褐灰色。外面はにぶい橙色。胎土は長石、チャート他の粗粒砂を含む。口縁外面に1.5cm幅の粘土帯を貼付し、指頭で押圧。口唇は横ナデ。内面は横ハケ。頸部外面は縦ハケ。	
309	IV-3	弥生土器 壺	18.8	(12.5)			内面はにぶい褐色。外面は灰黄褐色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口縁外面に幅1.5cmの粘土帯を貼付。口唇を強く横ナデし、下方に拡張。頸部外面は縦ハケ、内面は横ハケ。上胴部に1条のヘラ沈線と列点文。	
310	IV-3	弥生土器 壺	13.6	(9.9)			内外面共に橙色。胎土は風化礫を多く含む。口縁を上下に拡張し、口唇は凹状をなす。内外面共に器表の荒れが激しい。	

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
311	IV-3	弥生土器 壺	14.8	(10.0)			内外面共に明黄褐色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁外面は縦ハケ、内面は横ハケ。器表の剥離が激しい。	
312	IV-3	弥生土器 壺	12.0	(7.4)			内面は浅黄橙色。外面は橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口縁外面は横ナデ。口唇は幅広い面。外面はへら磨き。内面は指ナデ。	
313	IV-3	弥生土器 壺	18.5	(9.0)			内外面共ににぶい橙色。胎土はチャート、風化礫の粗粒砂を含む。口縁をわずかに上方に拡大。口唇は面取り。内外面共器表の荒れが激しい。	
314	IV-3	弥生土器 壺	13.0	(5.9)			内面はにぶい黄橙色。外面は橙色。胎土はチャートの粗粒砂を多く含む。口唇は面取り。段状口縁の外面に列点文。	
315	IV-3	弥生土器 直口壺	10.4	(14.8)			内外面共に橙色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。胴部外面は縦ハケ。上胴部内面には指頭圧痕が顕著である。頸部内面には絞り目あり。胴部外面は中頃より下は煤けている。	
316	IV-3	弥生土器 壺		(15.0)				
317	IV-3	弥生土器 壺		(7.9)			内面は橙色、外面は明黄褐色。胎土はチャートの粗・細粒砂を多く含む。外面は櫛描文。内面に粘土の接合痕が認められる。	
318	IV-3	弥生土器 直口壺	8.3	(7.9)			内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を含む。口縁部は横ナデ。口唇は面取り。頸部外面は上半は縦、下半は横方向のハケ。	
319	IV-3	弥生土器 壺		(7.1)			内外面共に明褐色。胎土は石英、長石他の細粒砂を多く含む。外面は3条単位の櫛描直線を施し、櫛描文帯の間に1条の付加条沈線を配す。	
320	IV-3	弥生土器 壺		(12.4)	8.1		内外面共に明褐色。胎土は石英、長石他の細粒砂を多く含む。外面は3条単位の櫛描直線を施し、櫛描文帯の間に1条の付加条沈線を配す。	
321	IV-3	弥生土器 壺		(3.5)	5.1		内外面共に橙色。胎土はチャート他の粗粒砂を多く含む。内面はナデ。外面は調整不明。	
322	IV-3	弥生土器 壺		(5.0)	5.6		内面はにぶい黄褐色。外面は明赤褐色。胎土は風化礫の粗粒砂を多く含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
323	IV-3	弥生土器 壺		(5.4)	6.5		内面はにぶい黄褐色。外面は明黄褐色。胎土はチャートの粗粒砂、小礫を多く含む。内面はへら削り、外面はナデ。外底に小さな黒斑あり。	
324	IV-3	石鏃	全長 2.2	全幅 1.4	全厚 0.5	重量(g) 1.7	サヌカイト	
325	IV-3	石鏃	全長 2.2	全幅 1.8	全厚 0.4	重量(g) 1.3	サヌカイト	
326	IV-3	石鏃	全長 3.0	全幅 2.0	全厚 0.3	重量(g) 1.6	サヌカイト	
327	IV-3	叩石	全長 11.2	全幅 8.0	全厚 3.3	重量(g) 425		
328	IV-3	叩石	全長 9.4	全幅 8.3	全厚 3.5	重量(g) 420.0		

図版 番号	出土場	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
329	IV-3	叩石	全長 8.9	全幅 6.9	全厚 2.7	重量(g) 250.0		
330	IV-3	石器	全長 5.1	全幅 4.2	全厚 1.1	重量(g) 29.3		
331	IV-3	叩石	全長 10.3	全幅 8.5	全厚 4.5	重量(g) 480.0		
332	IV-3	石包丁	全長 8.0	全幅 5.0	全厚 0.9	重量(g) 46.4		

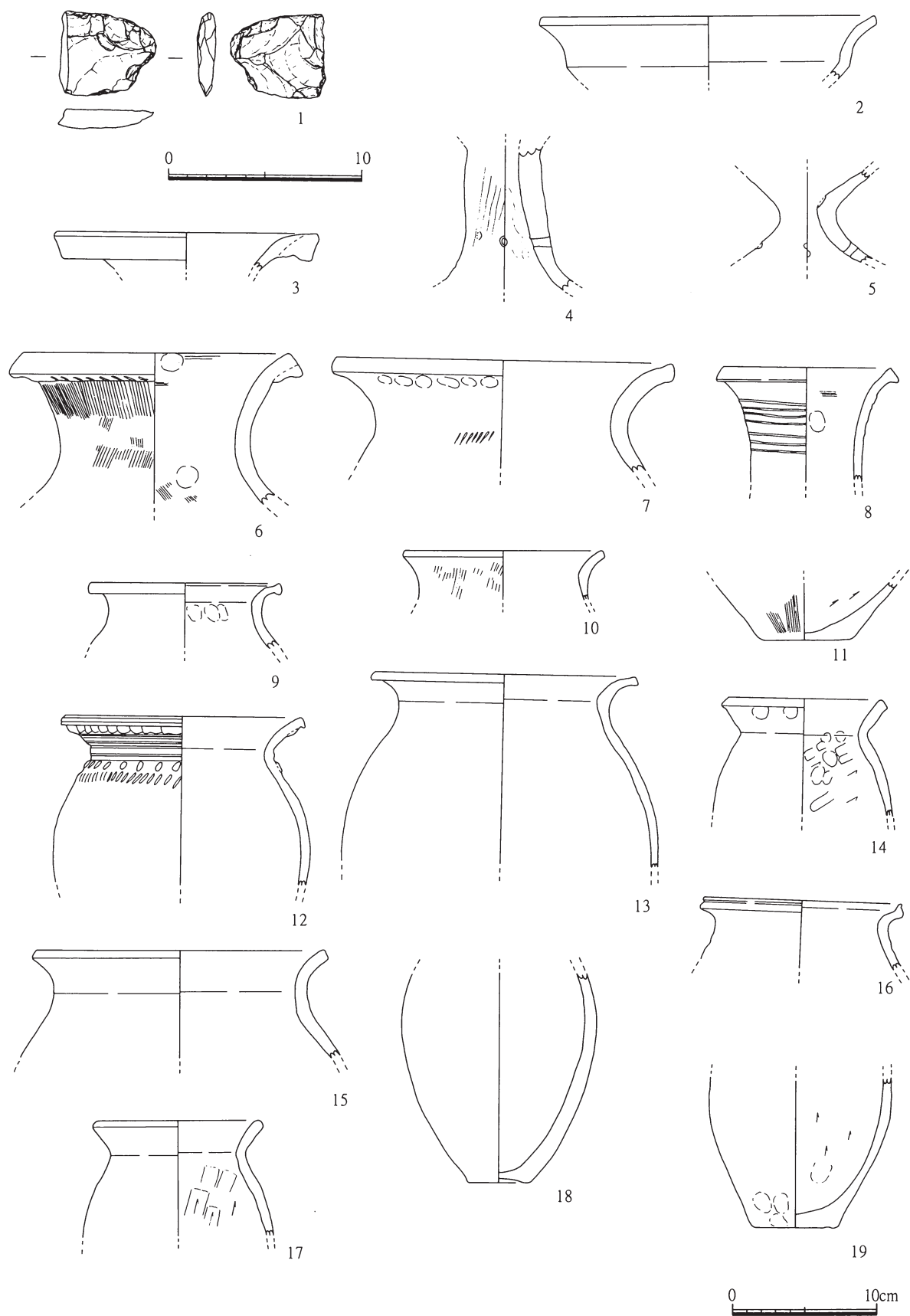


图20 I-1、I-2区出土遺物実測図

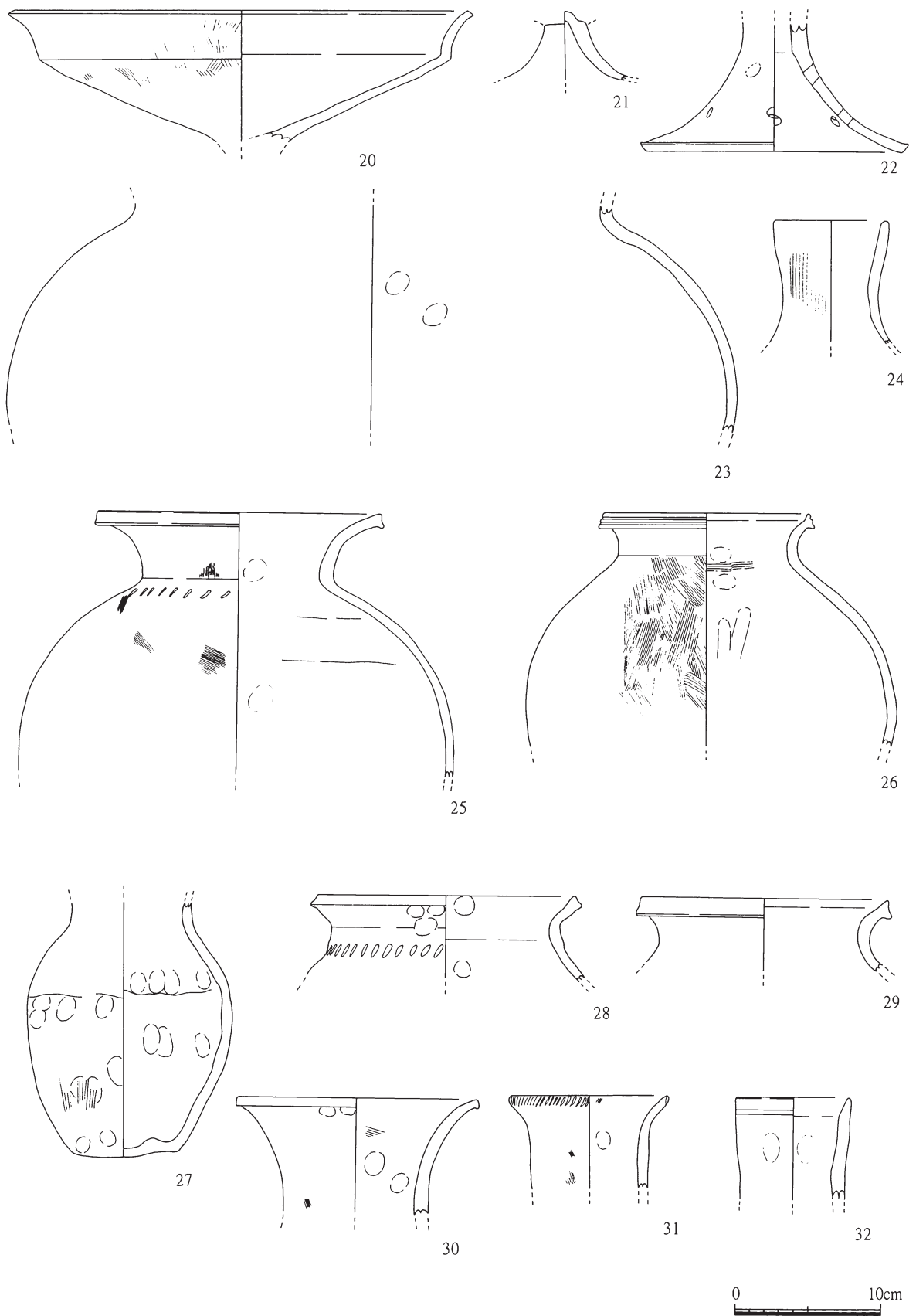


图21 I-4区出土遗物实测图

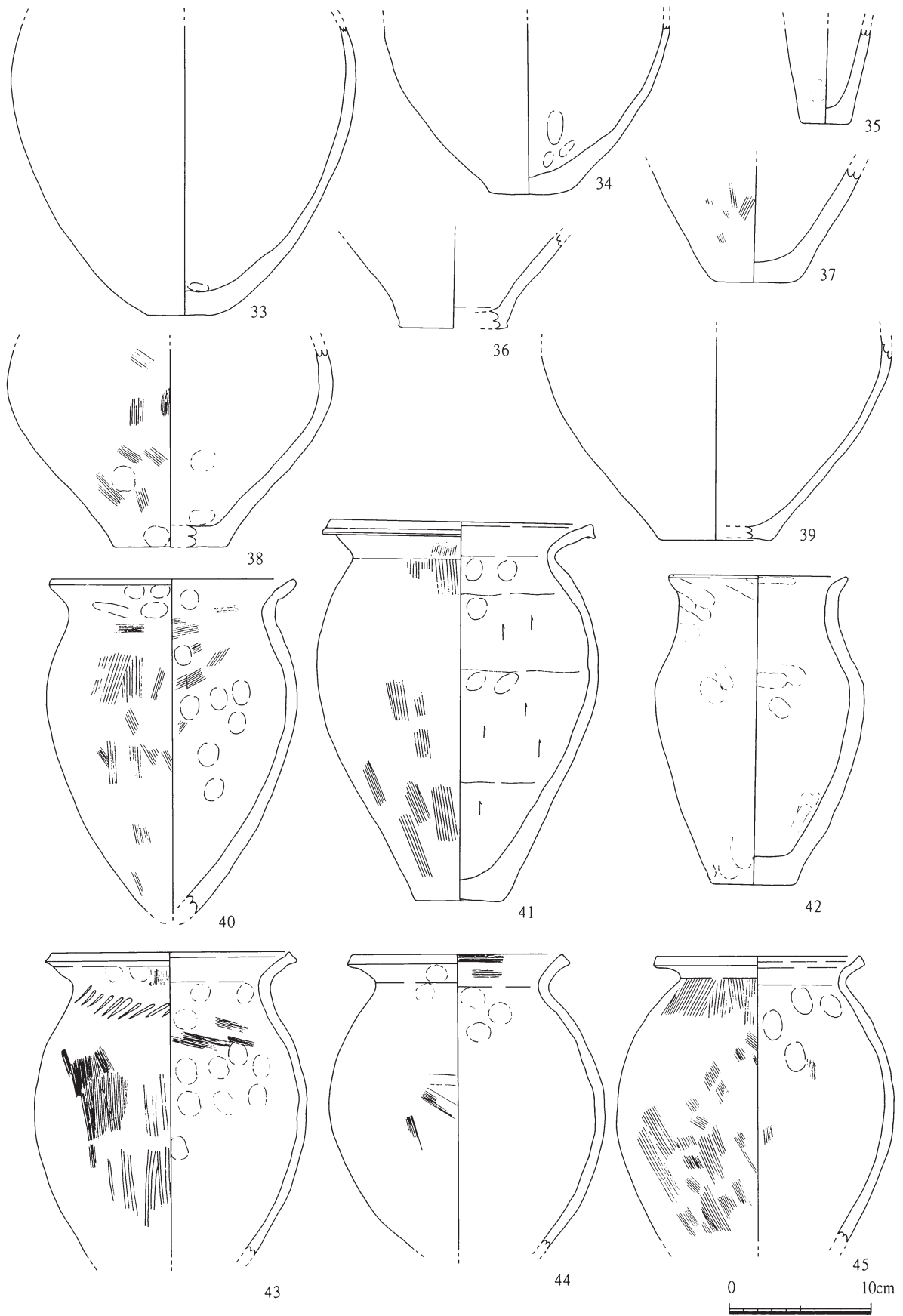


図22 I-4区出土遺物実測図

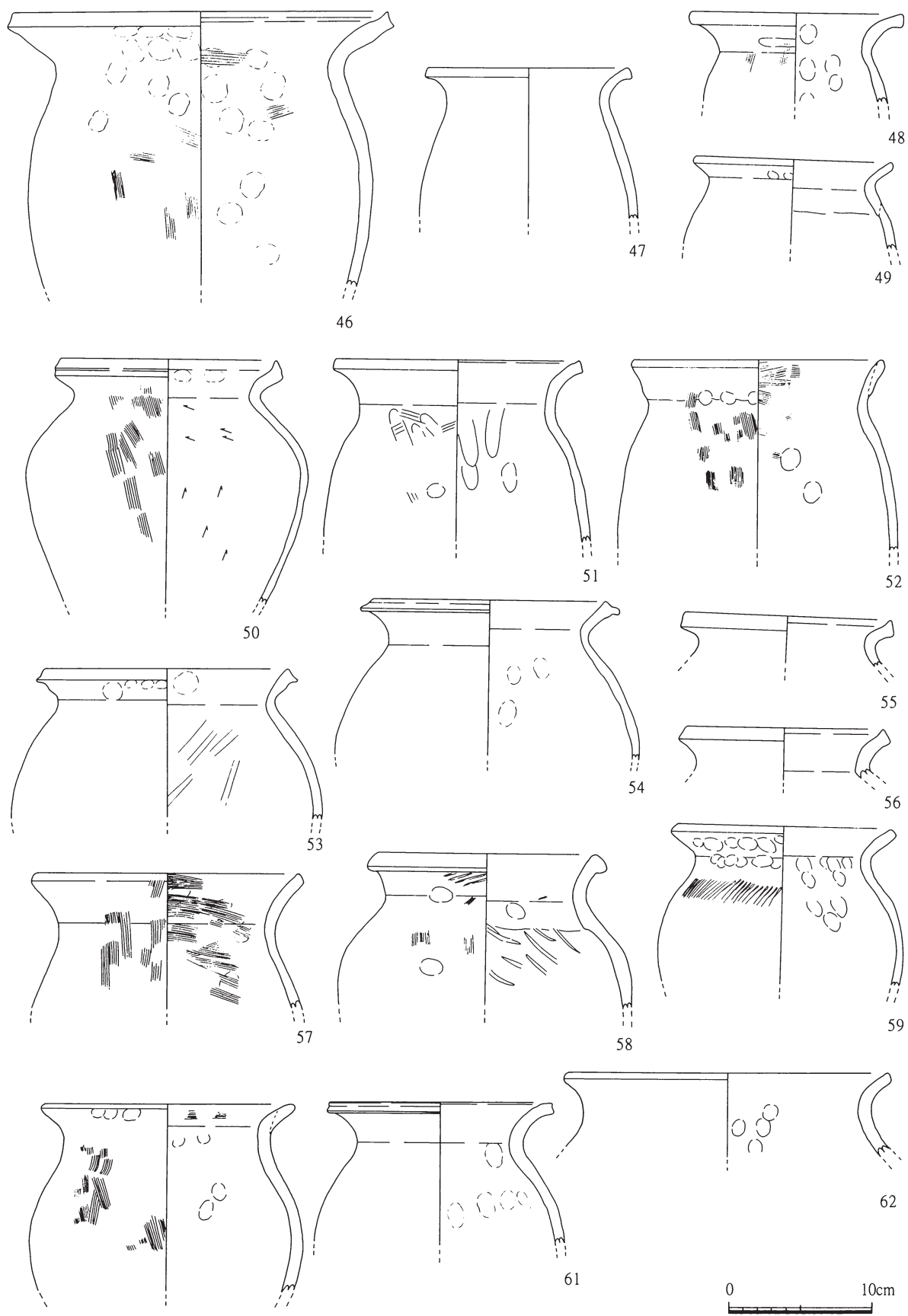


图23 I-4区出土遗物实测图

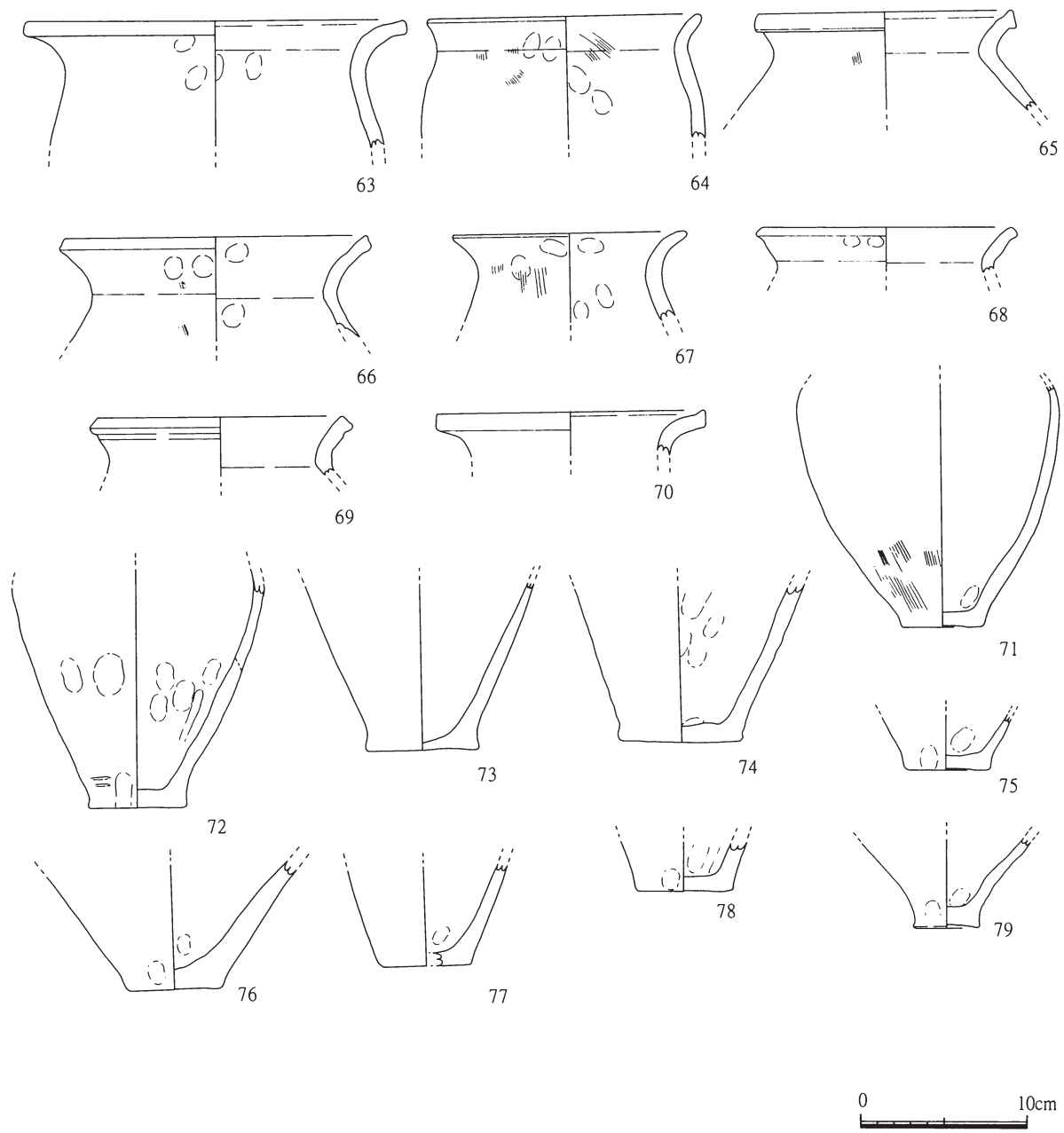


图24 I-4区出土遺物実測図

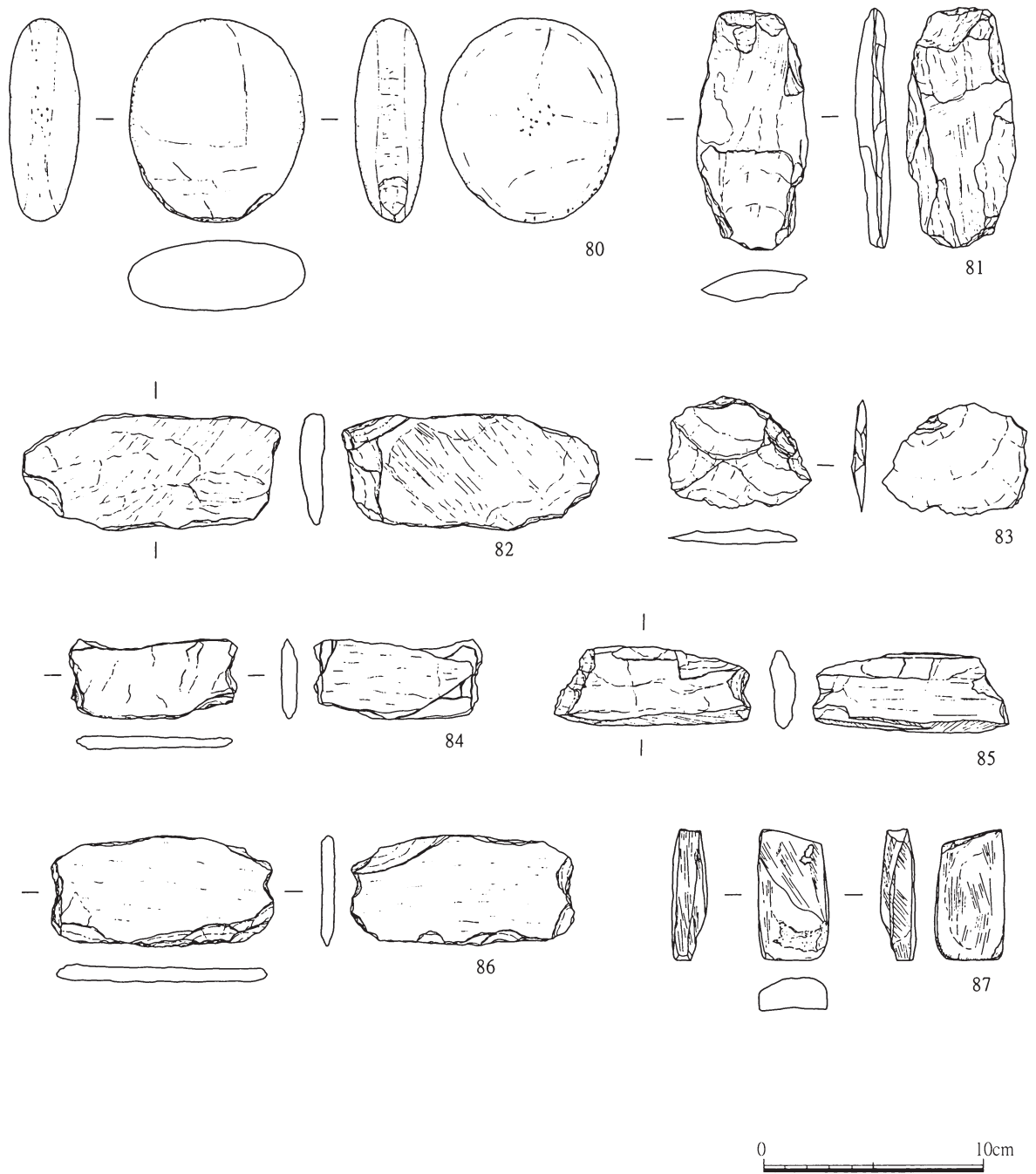


图25 I-4区出土遗物实测图

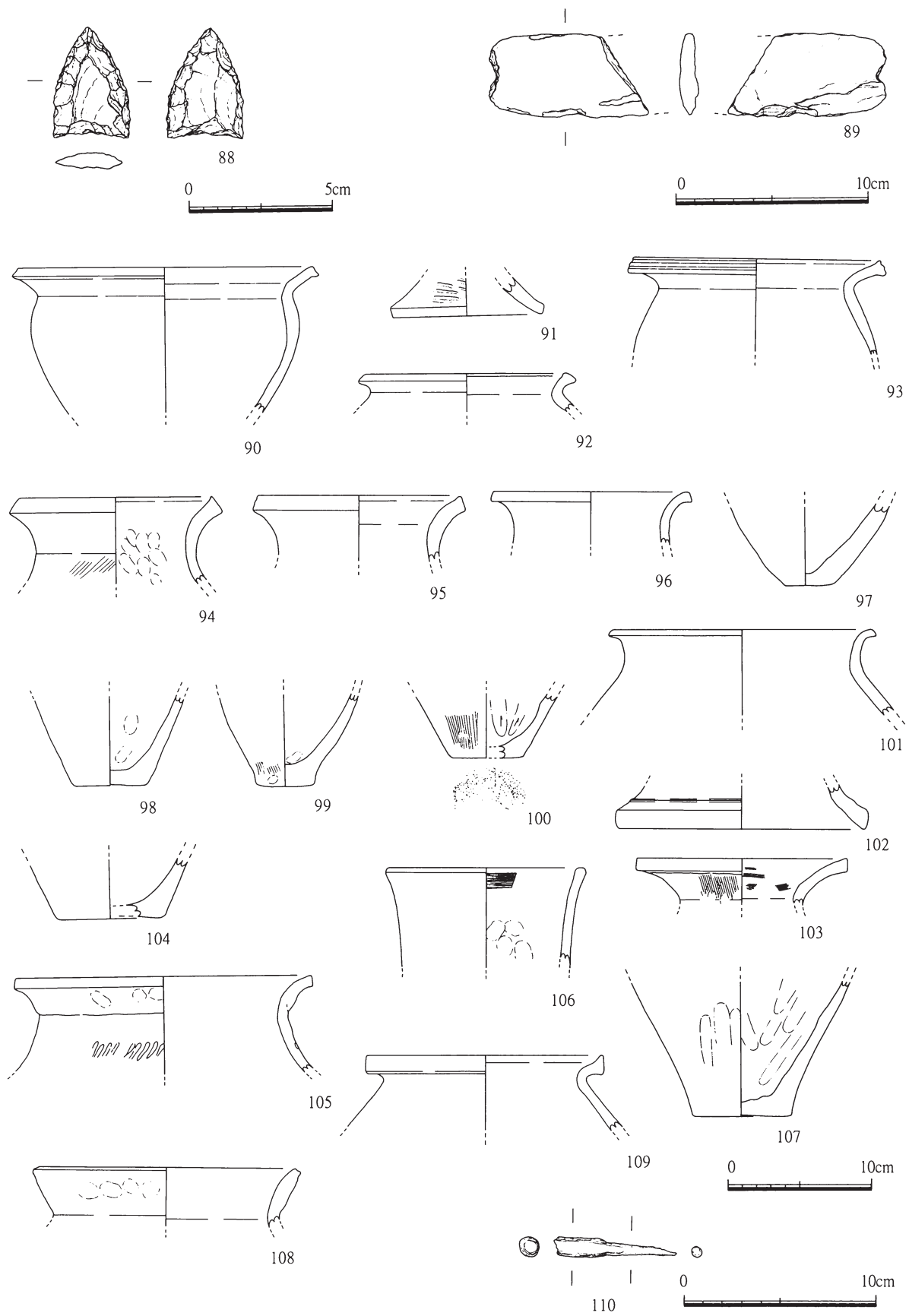


图26 I-5、I-6区出土遺物実測図

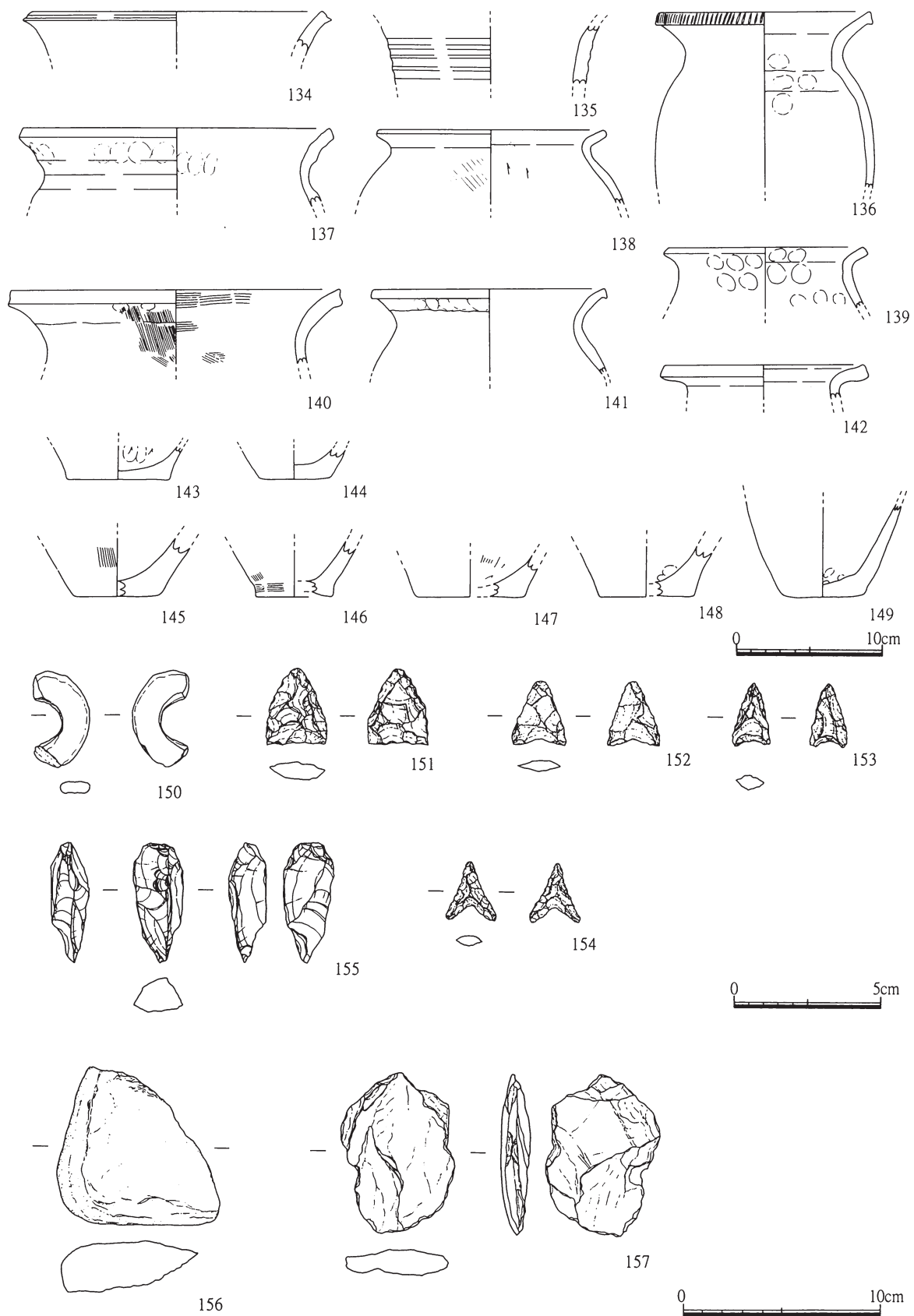


图30 II-1区出土遗物实测图

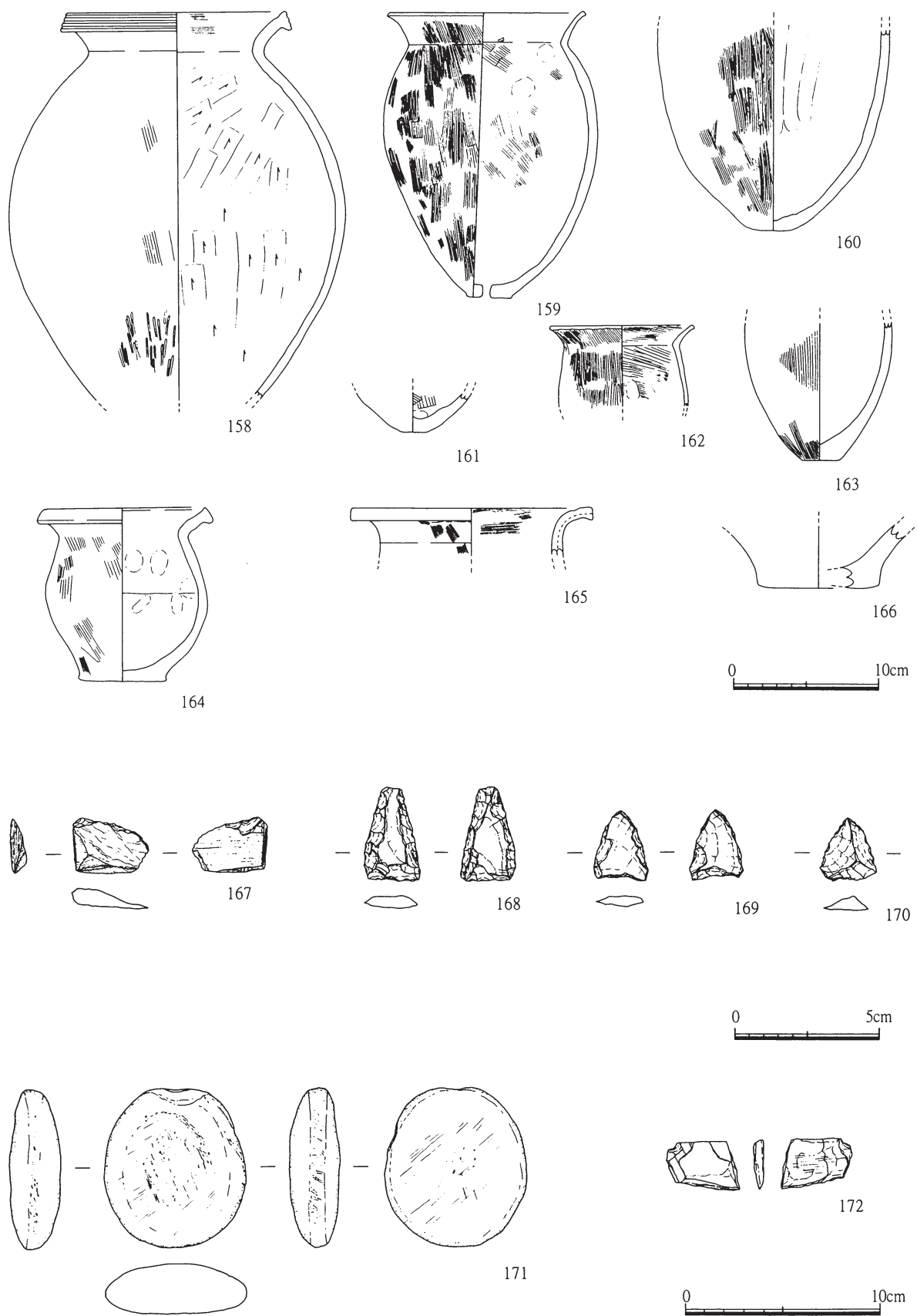


図31 II-2、II-3、II-4区出土遺物実測図

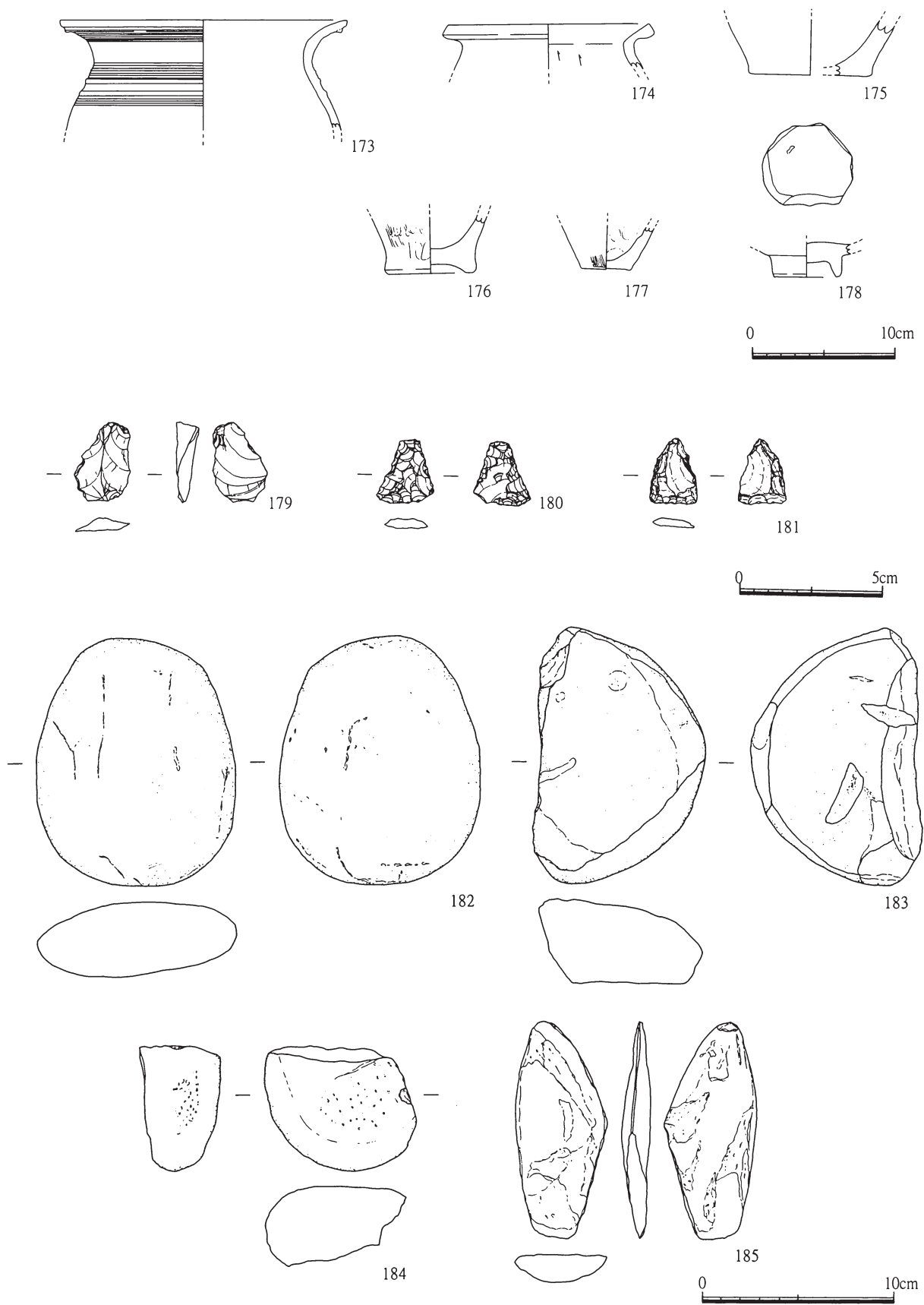


图32 II-5、II-6区出土遺物実測図

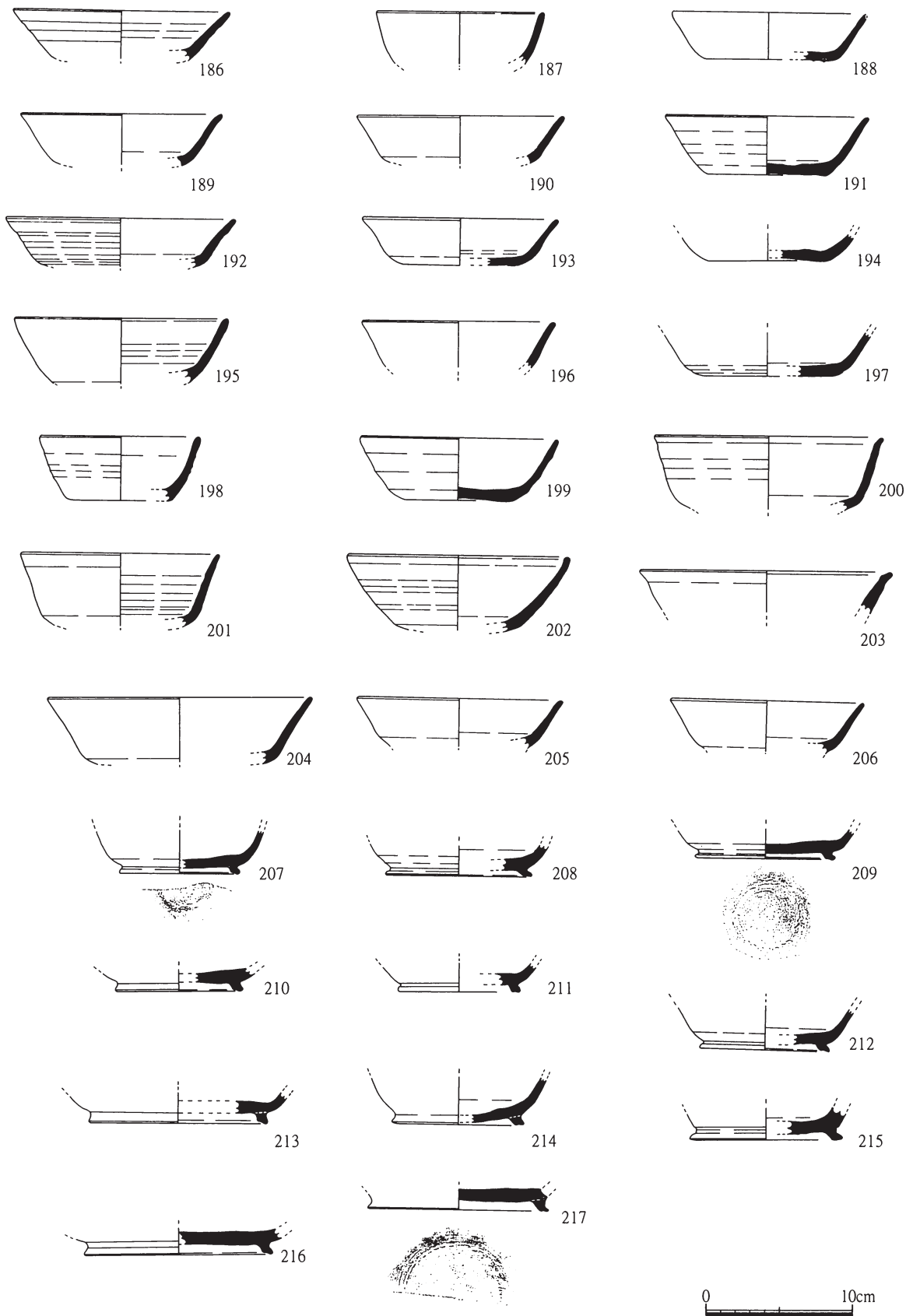


图33 III区出土遺物実測図

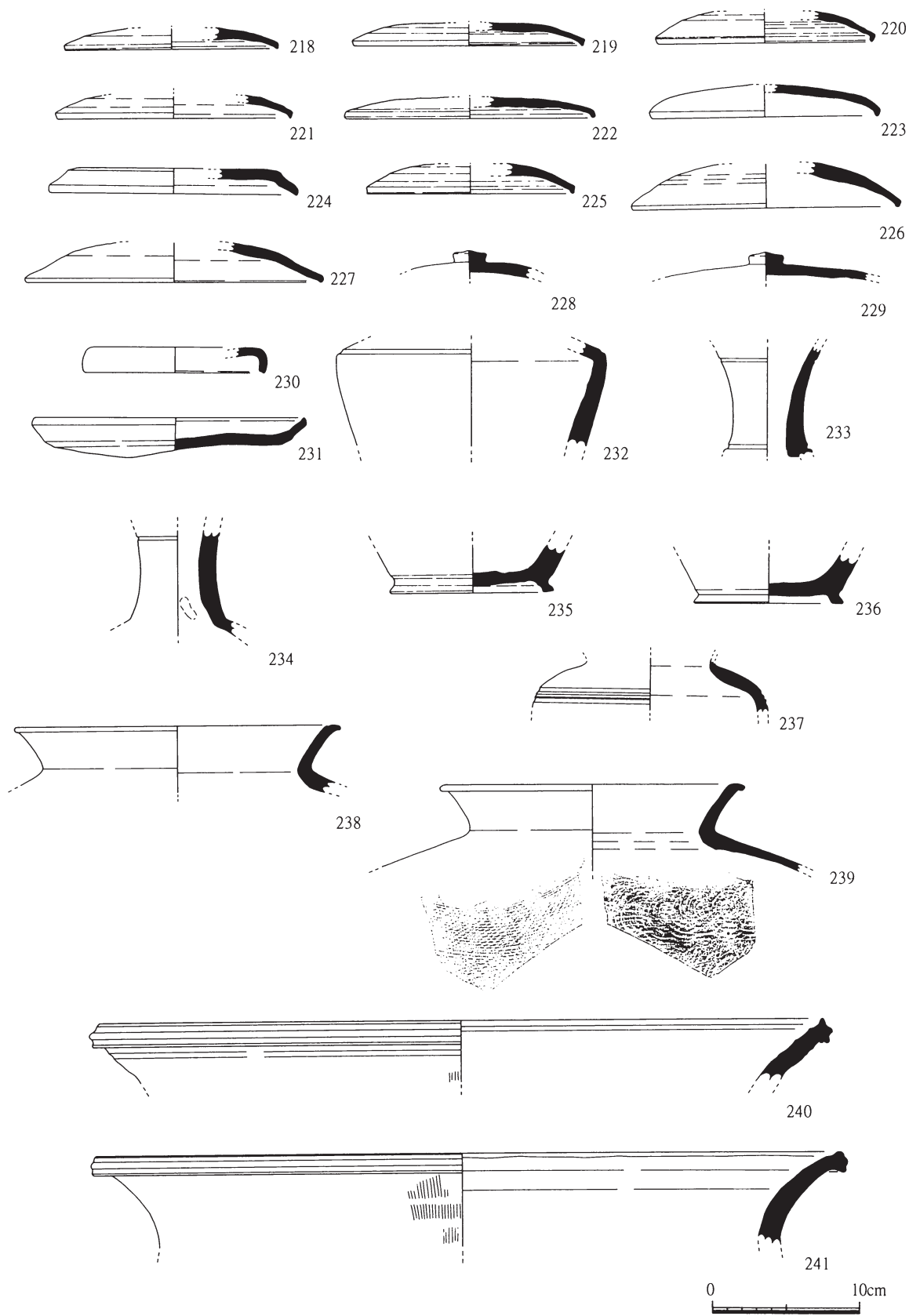


图34 III区出土遺物実測図

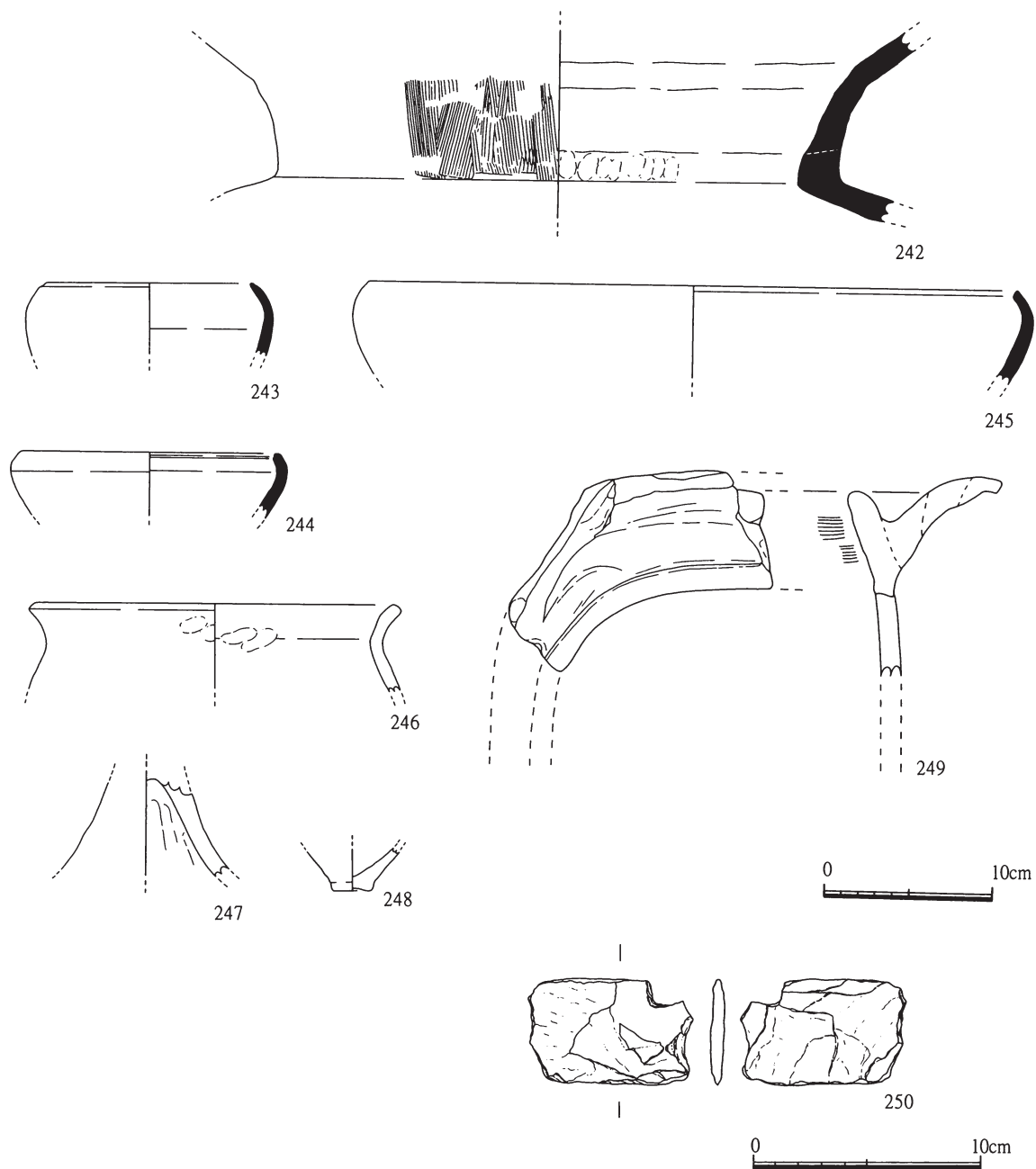


图35 Ⅲ区出土遺物実測図

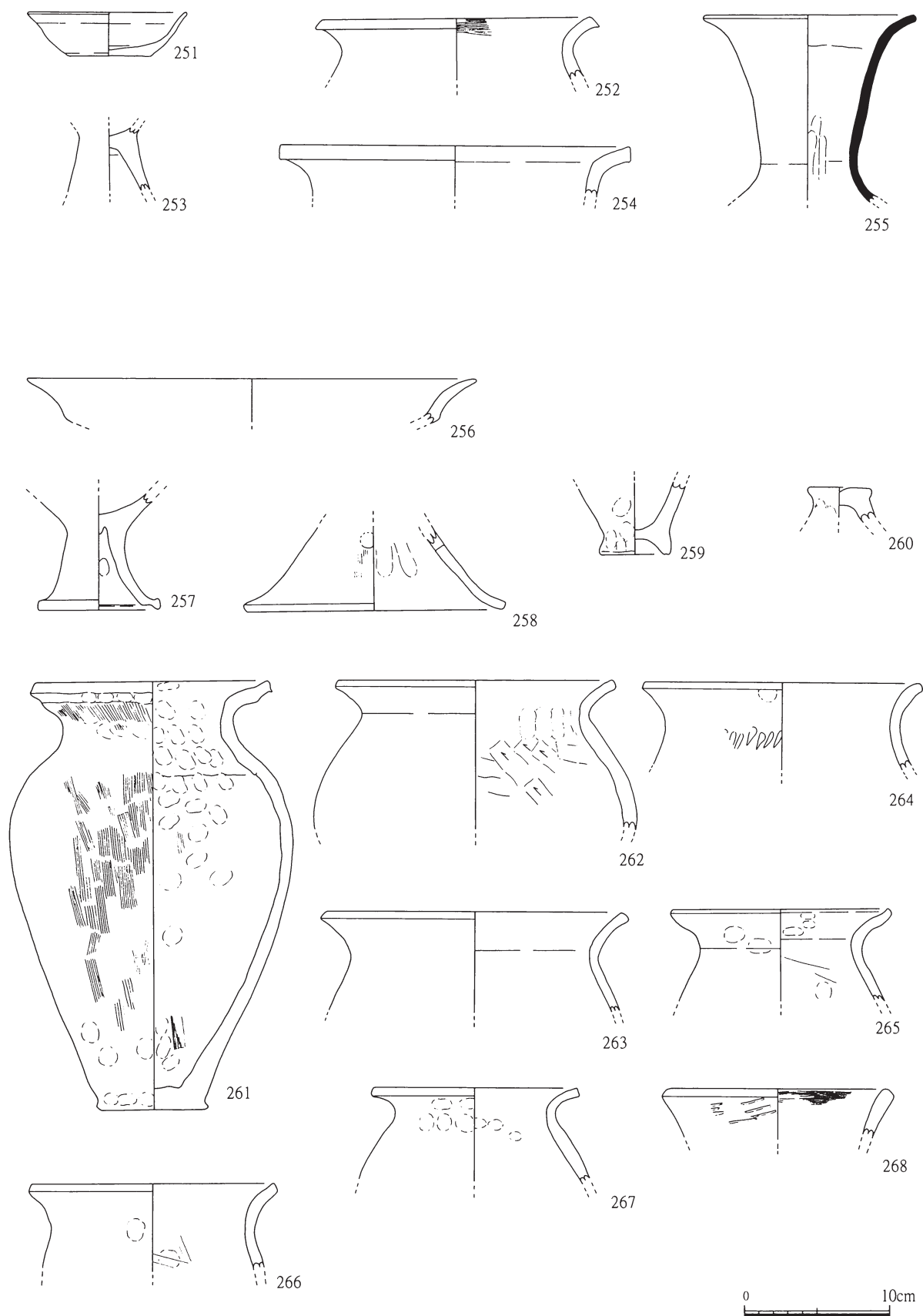


图36 IV-1、IV-2、IV-3区出土文物实测图

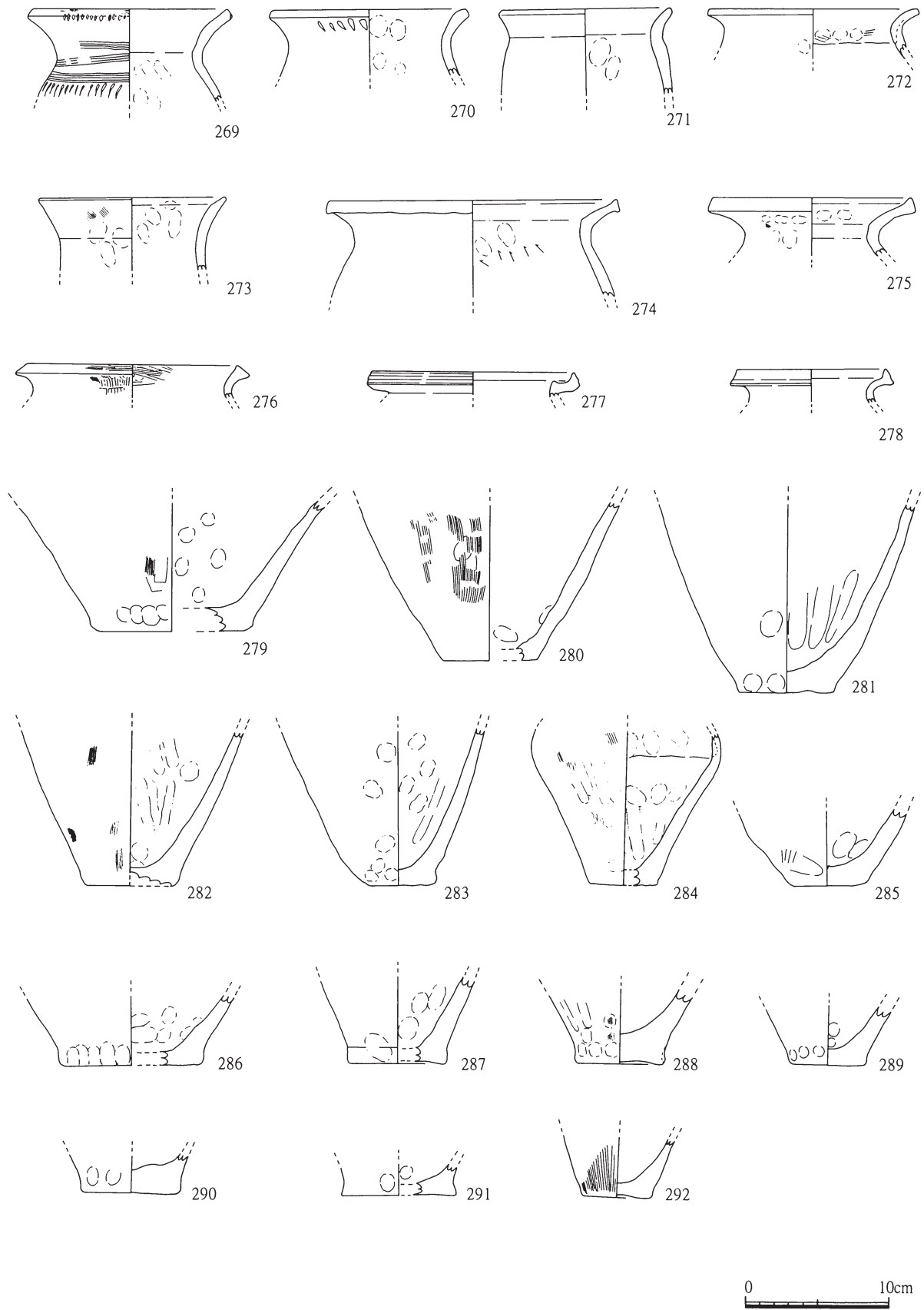


图37 IV-3区出土遺物実測図

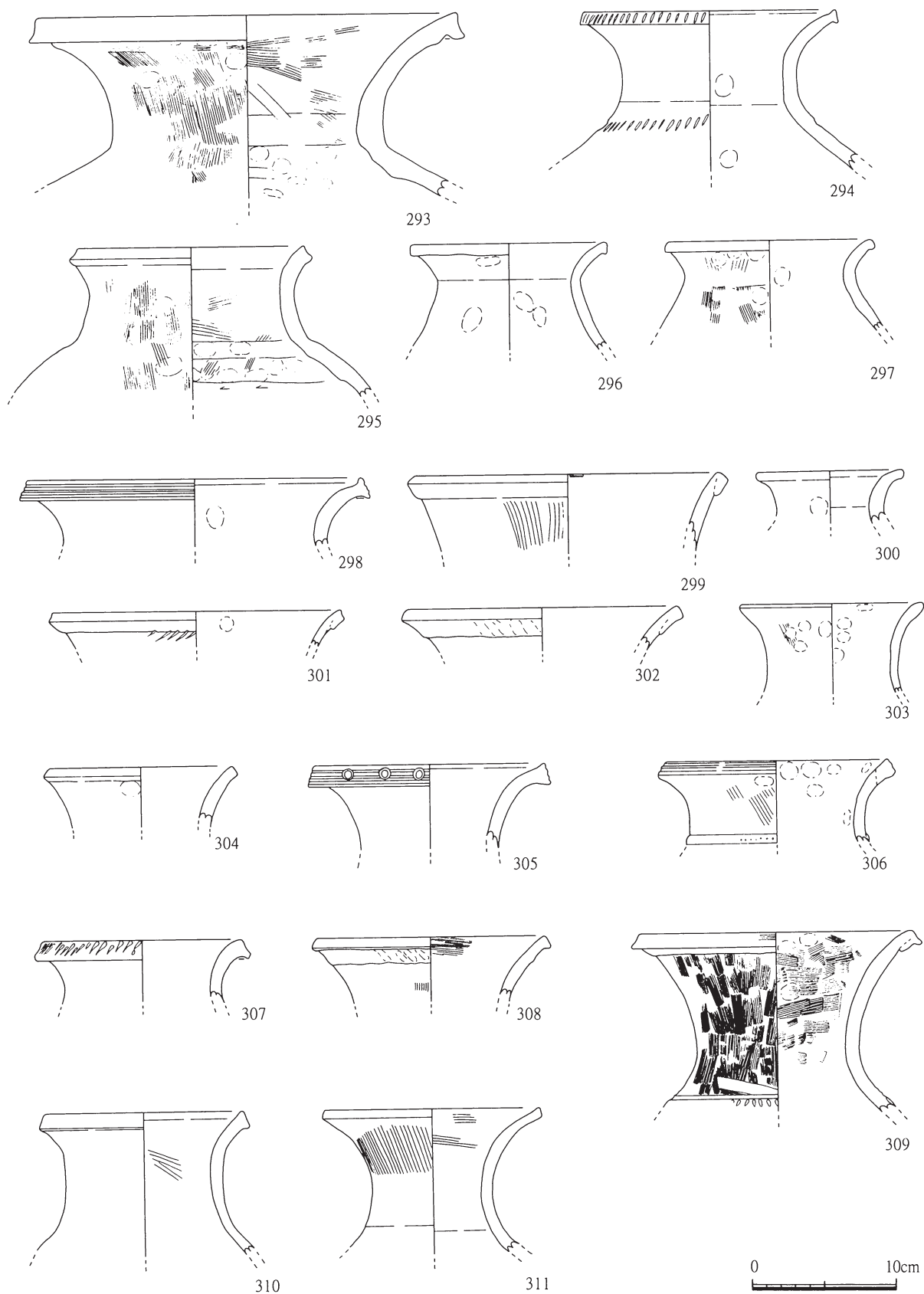


图38 IV-3区出土遗物实测图

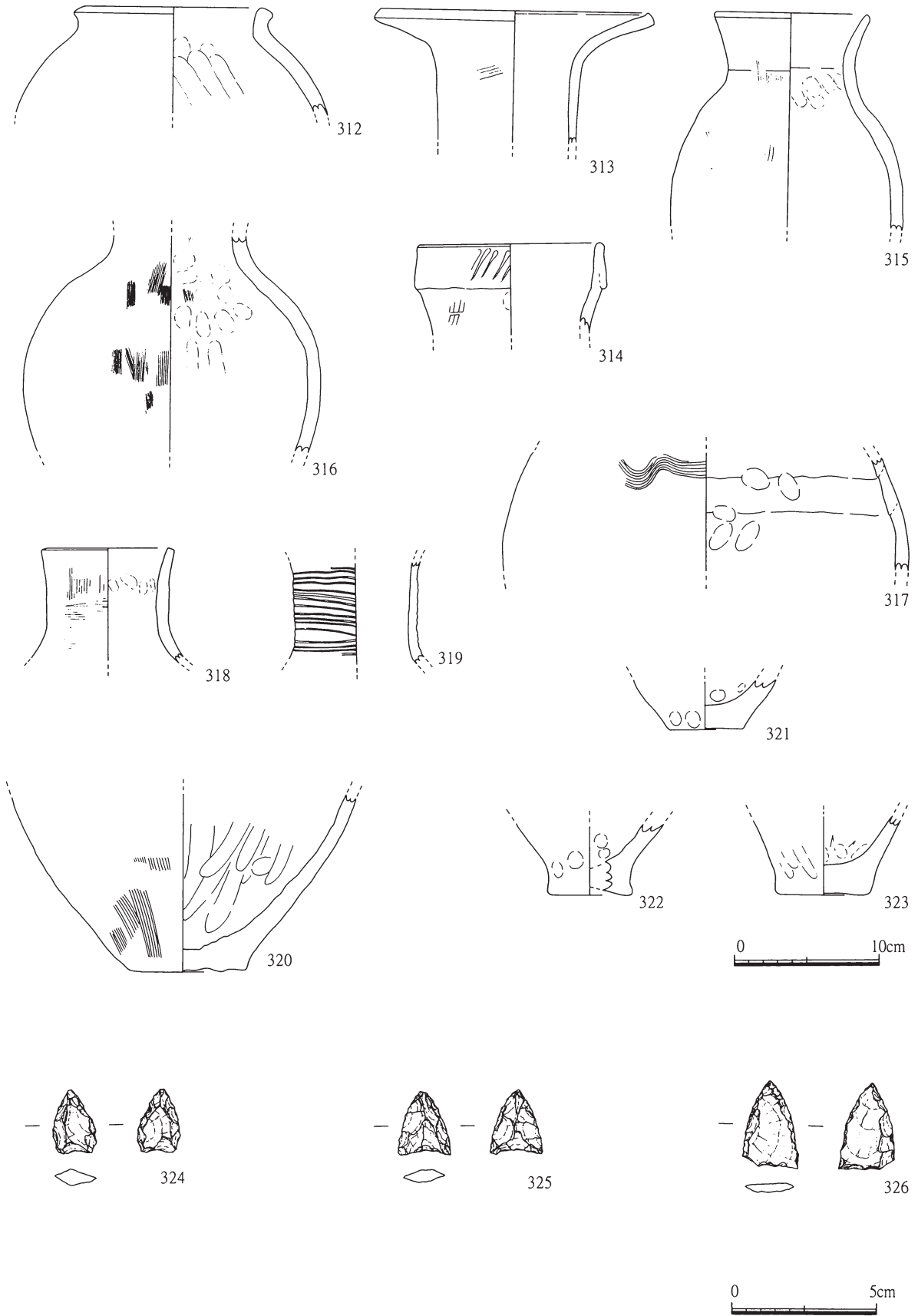


图39 IV-3区出土遺物実測図

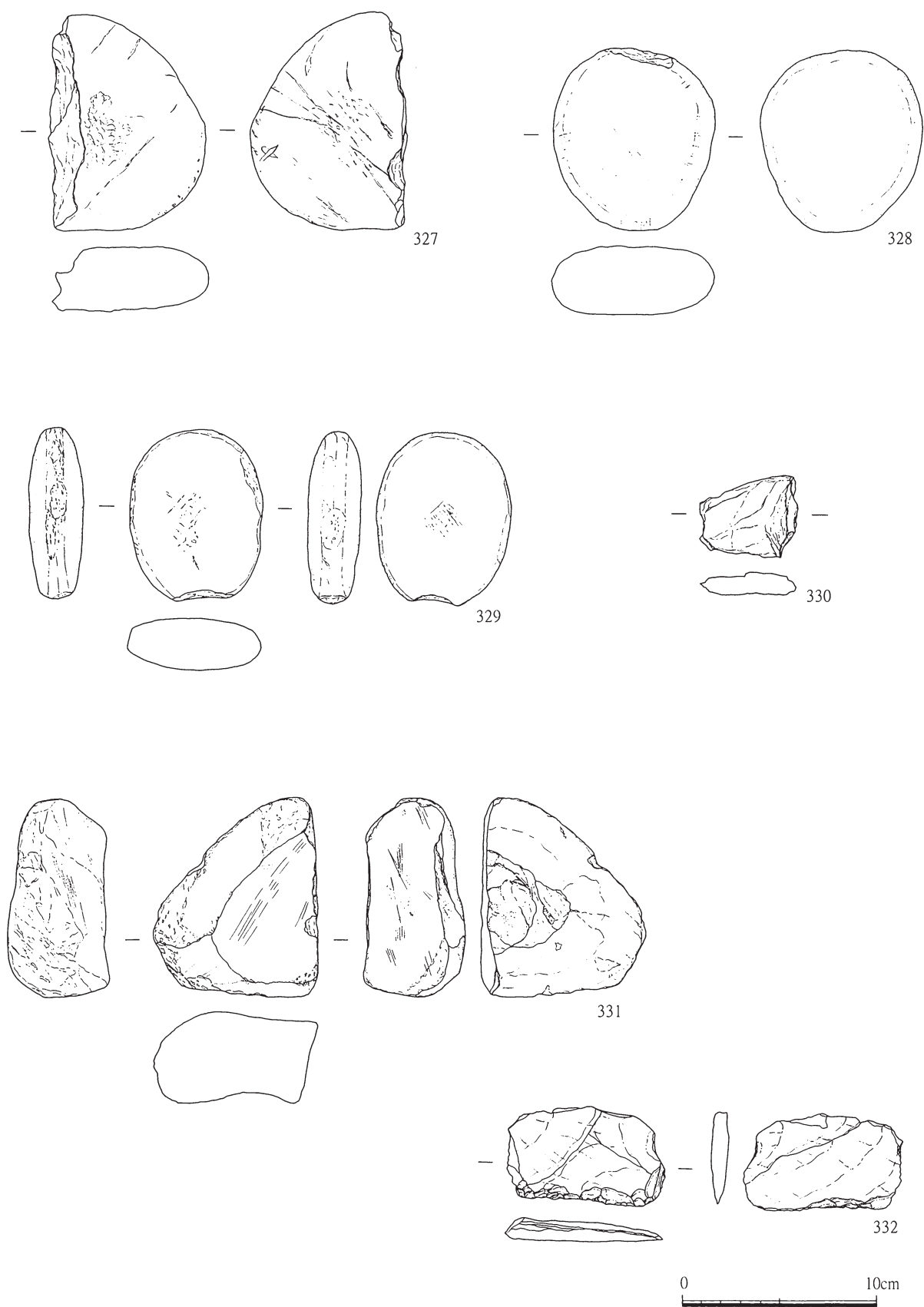


图40 IV-3区出土遗物实测图

第IV章 考 察

今回の調査では得られた成果として幾つかの点が挙げられる。まず一つは、現在までこういった発掘調査で住居跡が確認されていなかった高知市で初めて住居跡を確認したことである。弥生時代後期前半のものと考えられる住居跡をはじめ、他の検出された遺構の時期である弥生時代中期後半～後期前半と後期後半等の時期は一般的に集落が丘陵等の標高の高い場所に営まれる時期であり、この福井遺跡もこのような時代の流れを背景に成立した遺跡ではないだろうかと考えられる。この事から沖積地が多く調査例が少なく遺跡も少ないと考えられてきた高知市においても洪積台地や、丘陵の周辺にはこの時期の多くの遺跡が存在している可能性が高くなり、弥生時代にはすでに塚の原古墳群や秦泉寺廃寺等につながる社会基盤のものが存在していたことが確認できた。

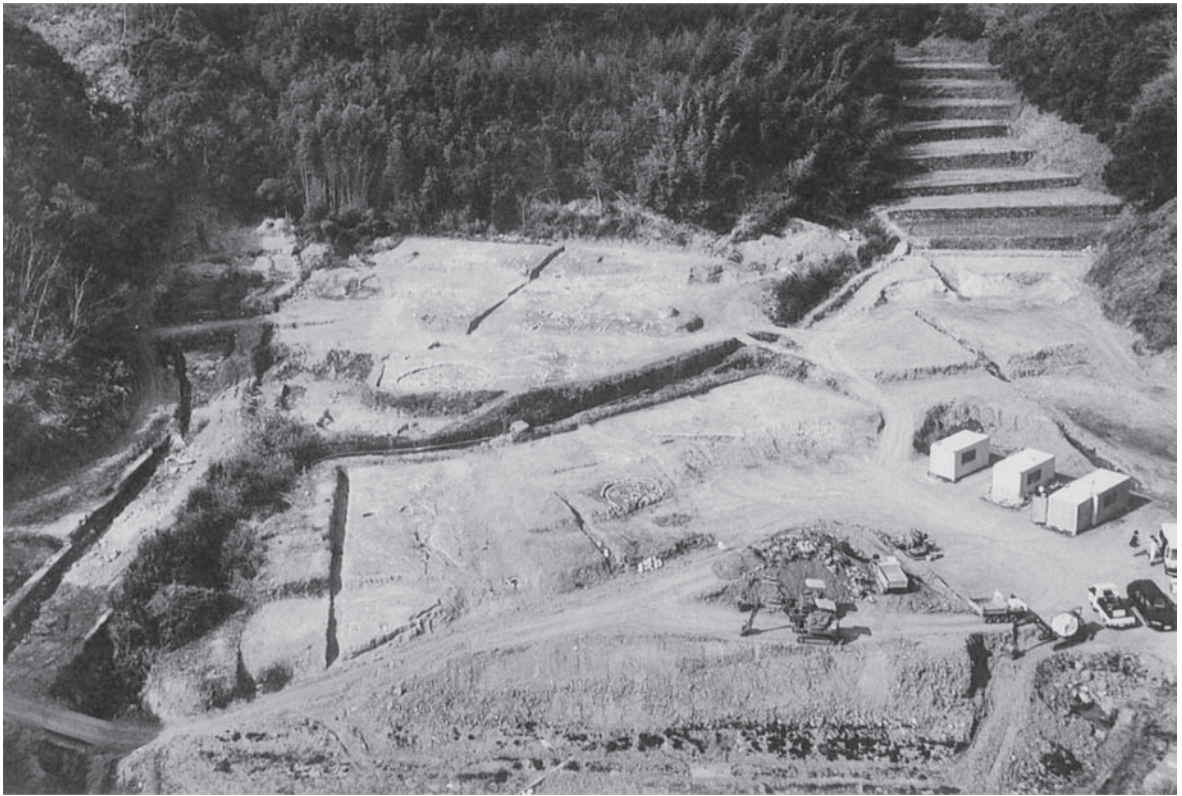
次に、今回の調査で出土した玦状耳飾りだが、同時に遺構、土器は確認できなかったが、縄文時代の比較的古い時代の遺跡が高知市の山間部に存在することが明らかになった。周辺でも第I章で挙げたような縄文時代、弥生時代の遺跡も存在している。また、この玦状耳飾りは、石材の面からも注目でき、この石材と同じ物で作られた玦状耳飾りが本山町の松ノ木遺跡から出土しており吉野川水系の石であると考えられる。それと玦状耳飾りの出土は県内では5例目であった。また、吉野川水系の石材は弥生時代の遺物にも使われており、これらより可能性として縄文時代から工石山等の北部の山地を経て本山に至る道の存在も考えることができるのではないだろうか。当時の交流という点を考えていく必要性を感じられる。

そして、今回の調査で検出した土坑について見てみると一つは弥生時代の埋納土坑で、甕に鉢を二つ用いて蓋をし埋納した物であったが、予想はできるが内容物の分析等を行っていないので断定することはできないが、当時の生活様式の一つを推測する材料にはなるのではないだろうか。そしてもう一つが中世の土坑で、この土坑の底からは完形あるいは完形に近い形の杯が幾つか並べられて出土しており、これもまた地鎮あるいは副葬といった生活の中の一様式が考えられる。

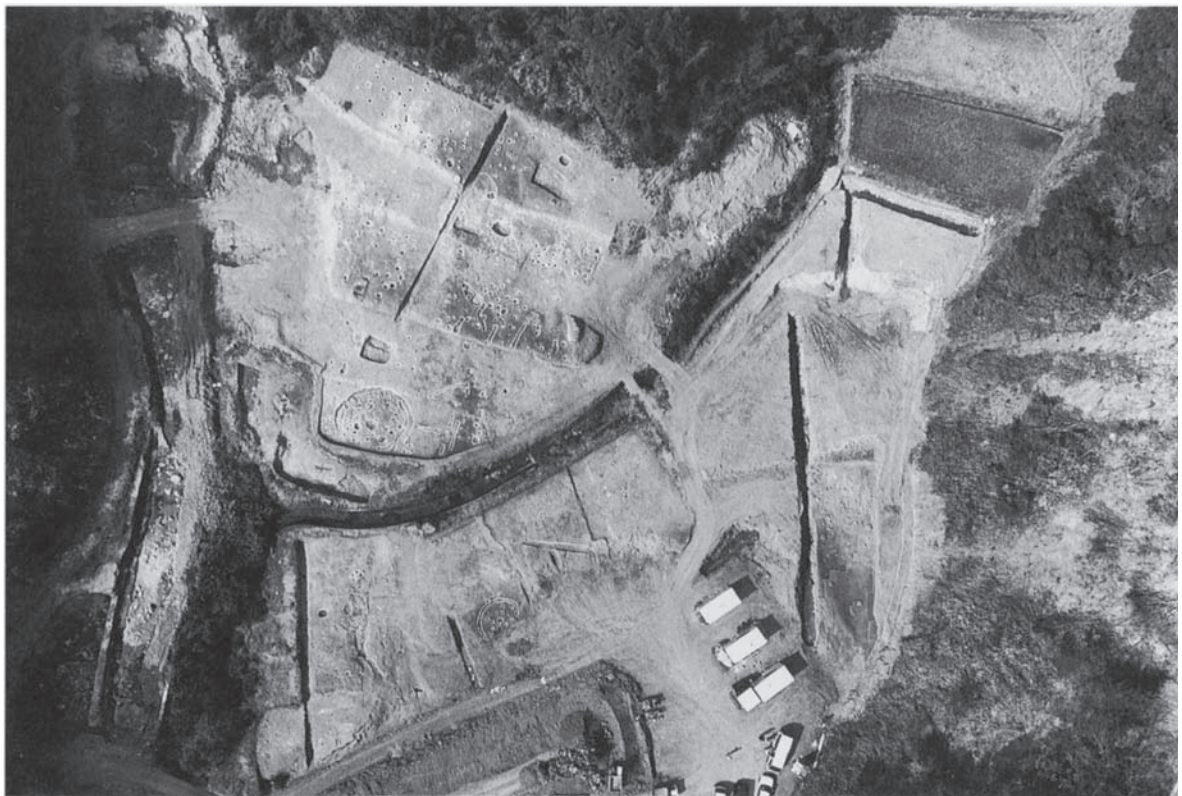
もう一つの点がⅢ区からの須恵器の出土である。成果のところ述べているように時期的にまとまりのある物として捉えることができ、現状では南四国の律令的土器様式の中では最も古相を示す一群として位置付けることができ、作りが丁寧であることや、窯壁が付着しているものが存在するなどの特徴があった。付近に窯址が存在するものと考えられるが調査では確認できなかった。

他にも多くの成果を得たが、主なものは以上のような点であり、今後のこの地域における研究課題を提示してくれるものと考えられるのではないだろうか。

写 真 图 版



完掘状況遠景



完掘状況全景

PL. 6



I 区完掘状况



I-3区ST1完掘状况



II 区完掘状况



II-5区ST2完掘状况

PL. 8



I 区 溝 状 遺 構



II-3区SK1



Ⅱ区検出状況



Ⅱ区検出状況



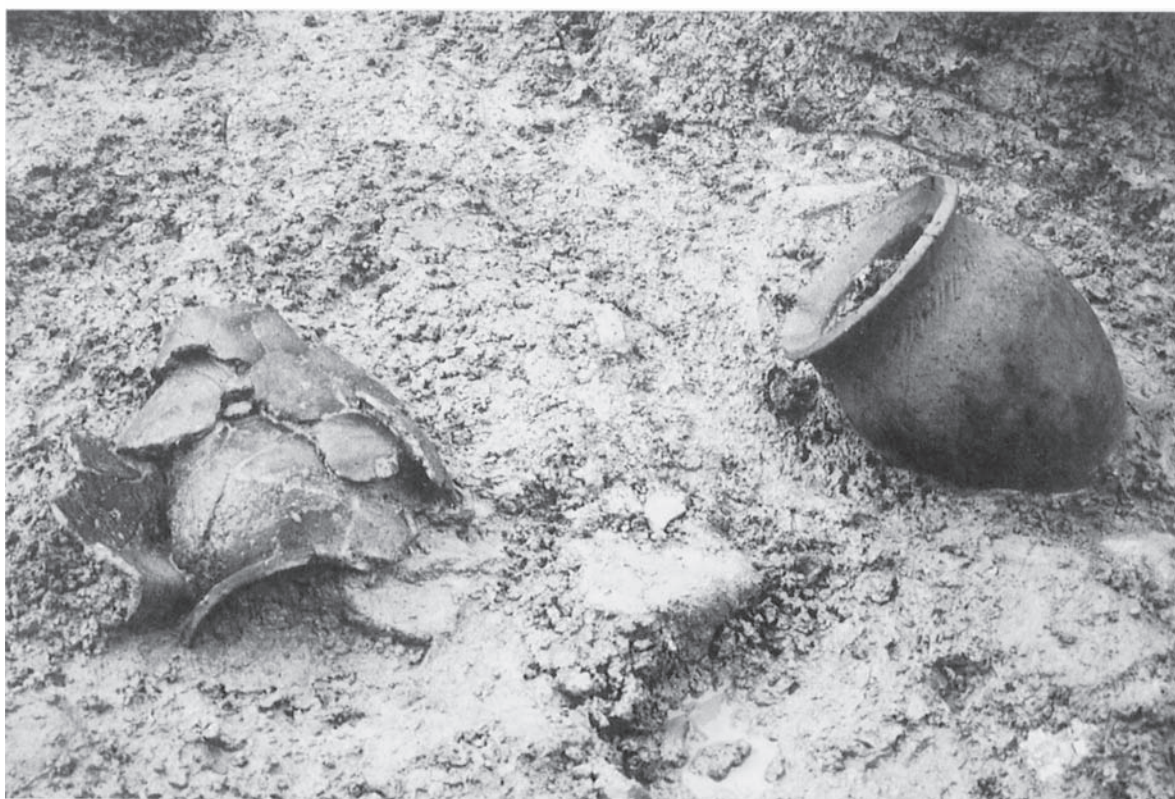
Ⅲ区検出状況



Ⅳ区検出状況



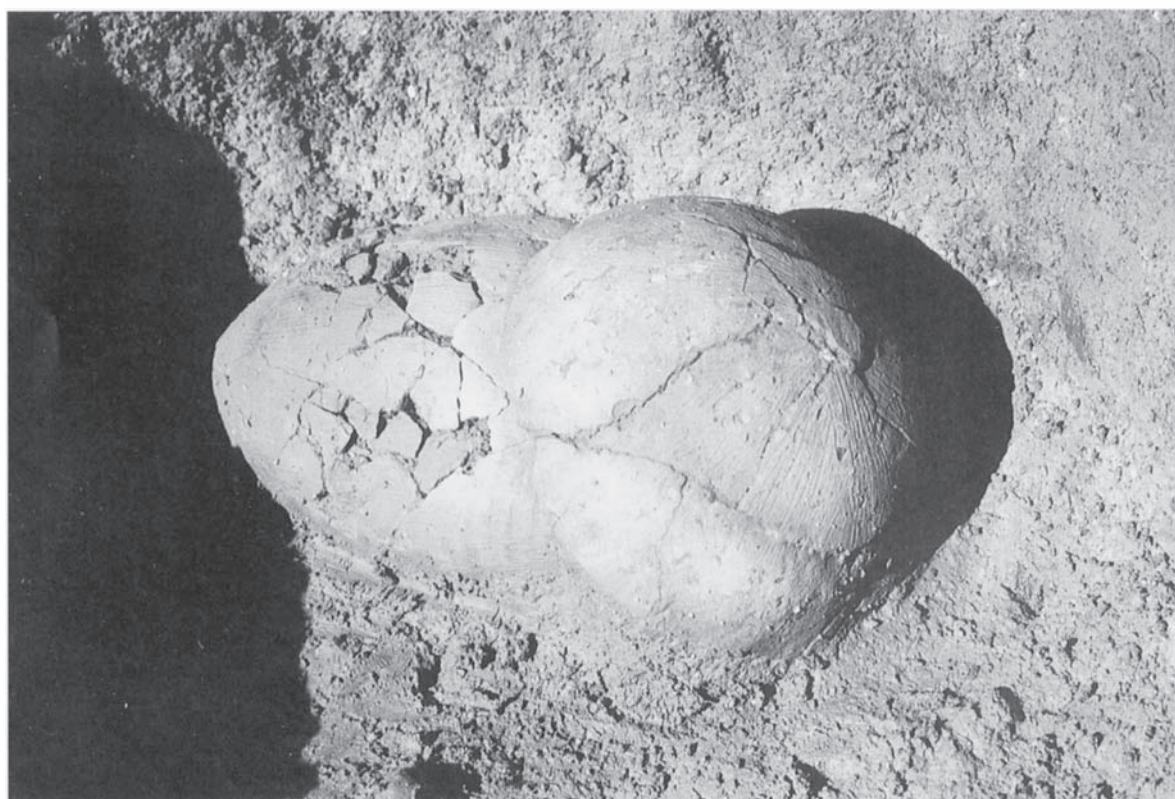
I 区 遺 物 出 土 状 況



I 区 遺 物 出 土 状 況



Ⅱ 区 遺 物 出 土 状 況



Ⅱ 区 遺 物 出 土 状 況



Ⅲ区遺物出土狀況



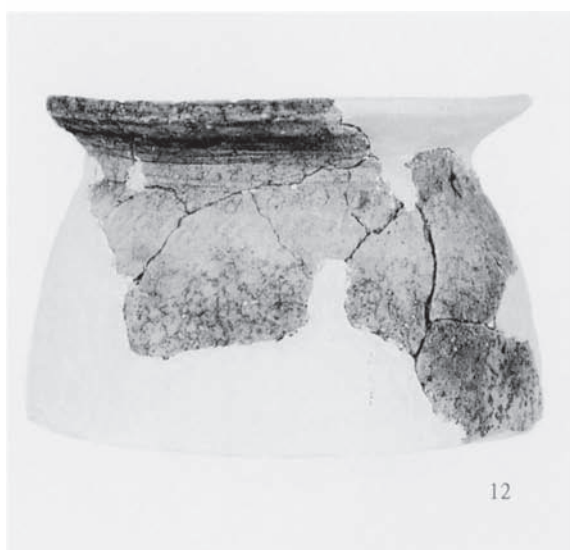
Ⅲ区遺物出土狀況



IV 区 遺 物 出 土 状 況

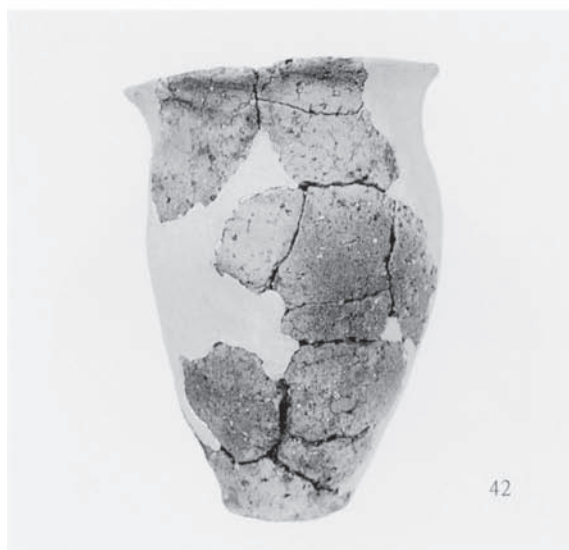
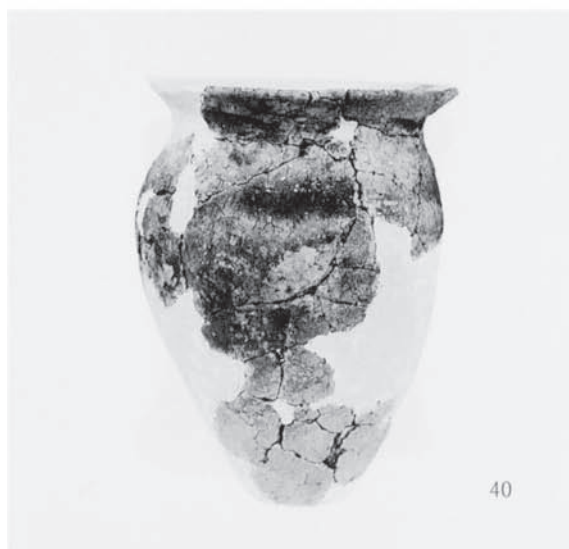


IV 区 遺 物 出 土 状 況

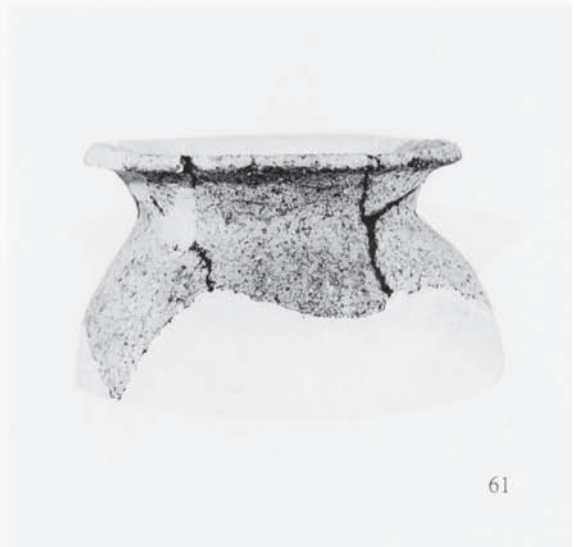
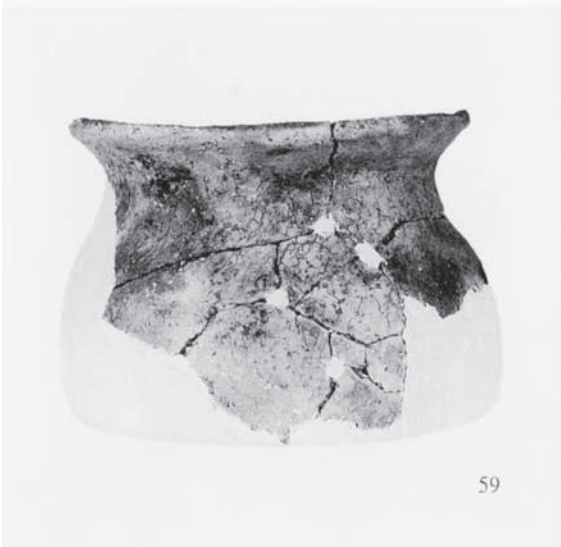
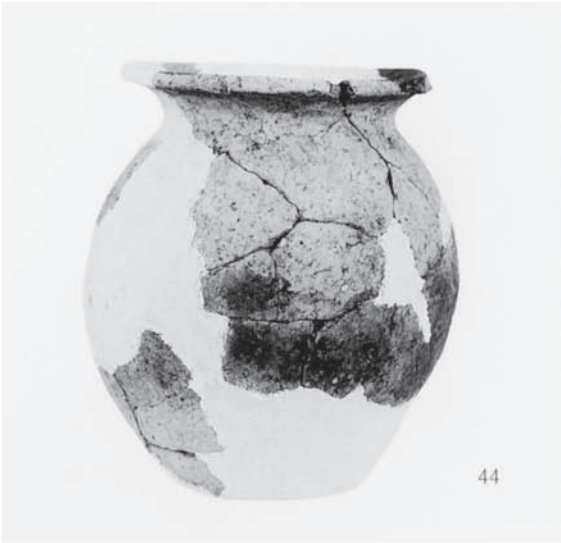


出土遺物(1)

PL. 16

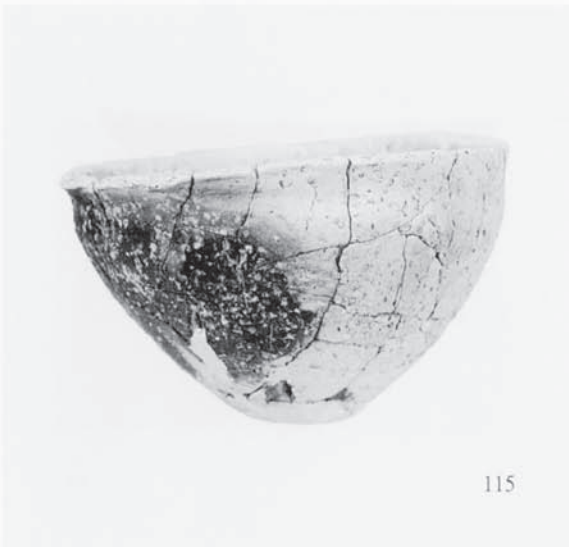


出土遺物(2)

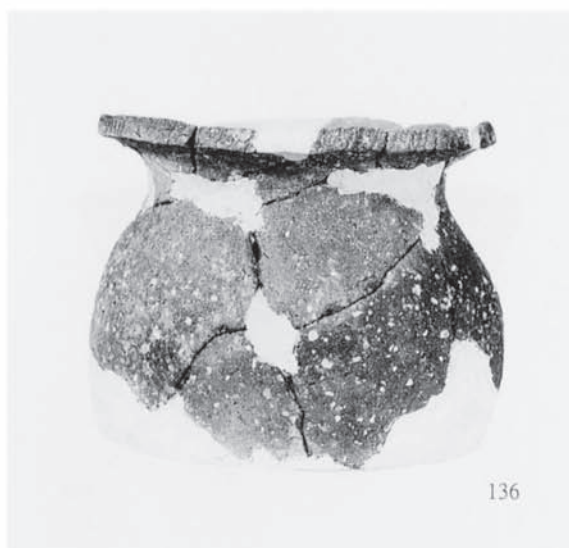
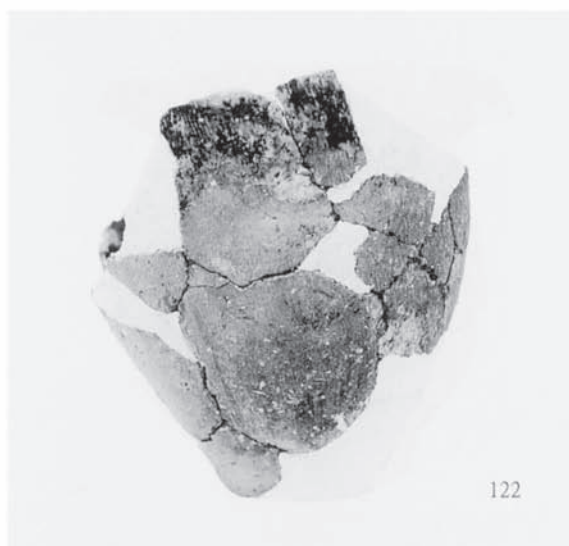
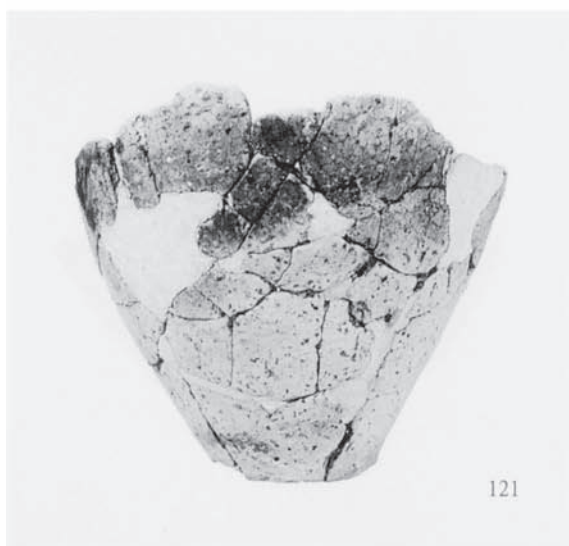


出土遺物(3)

PL. 18



出土遺物(4)



出土遺物(5)

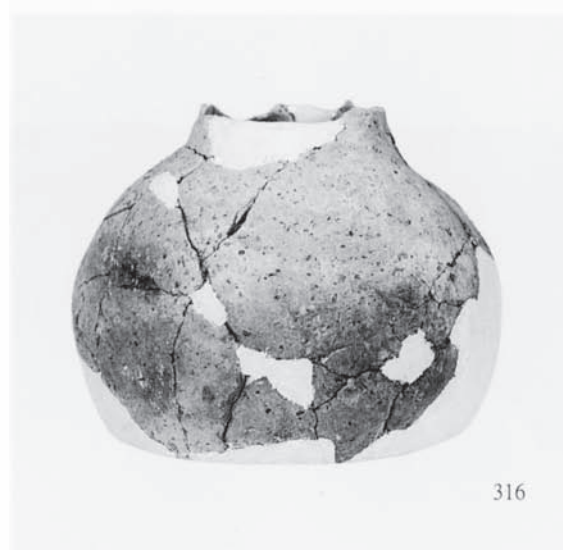
PL. 20



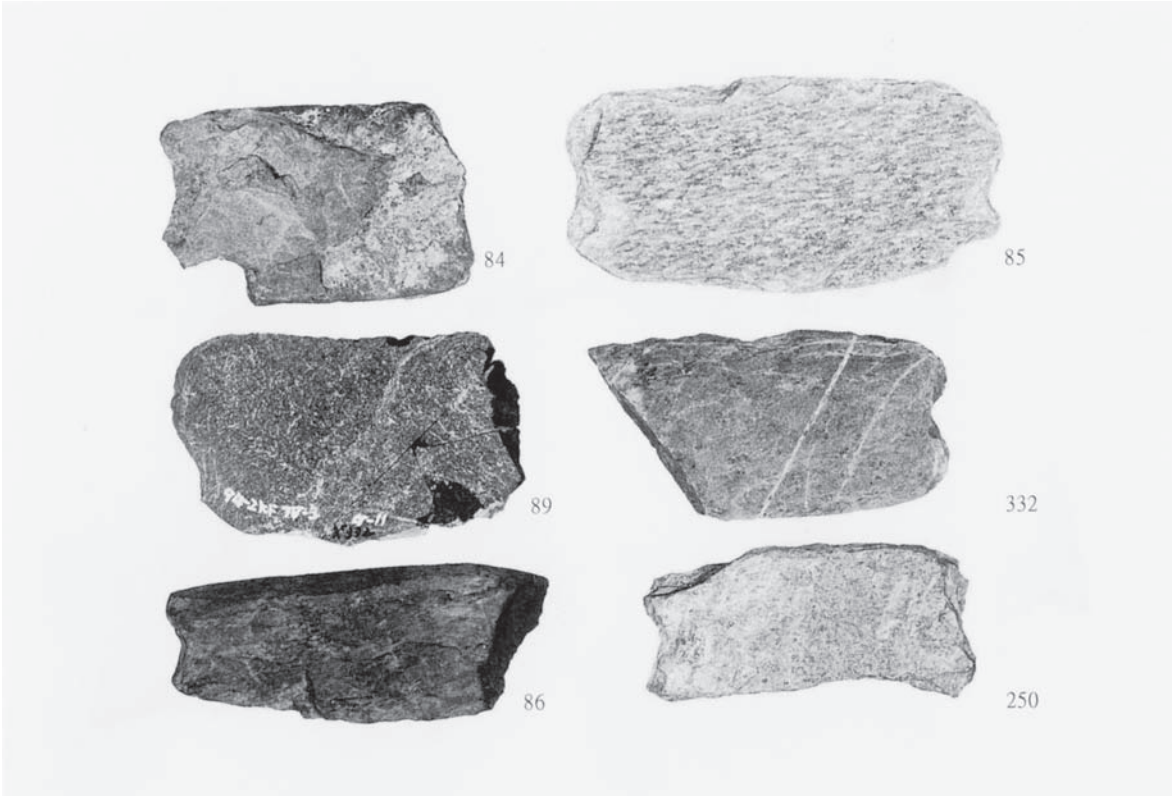
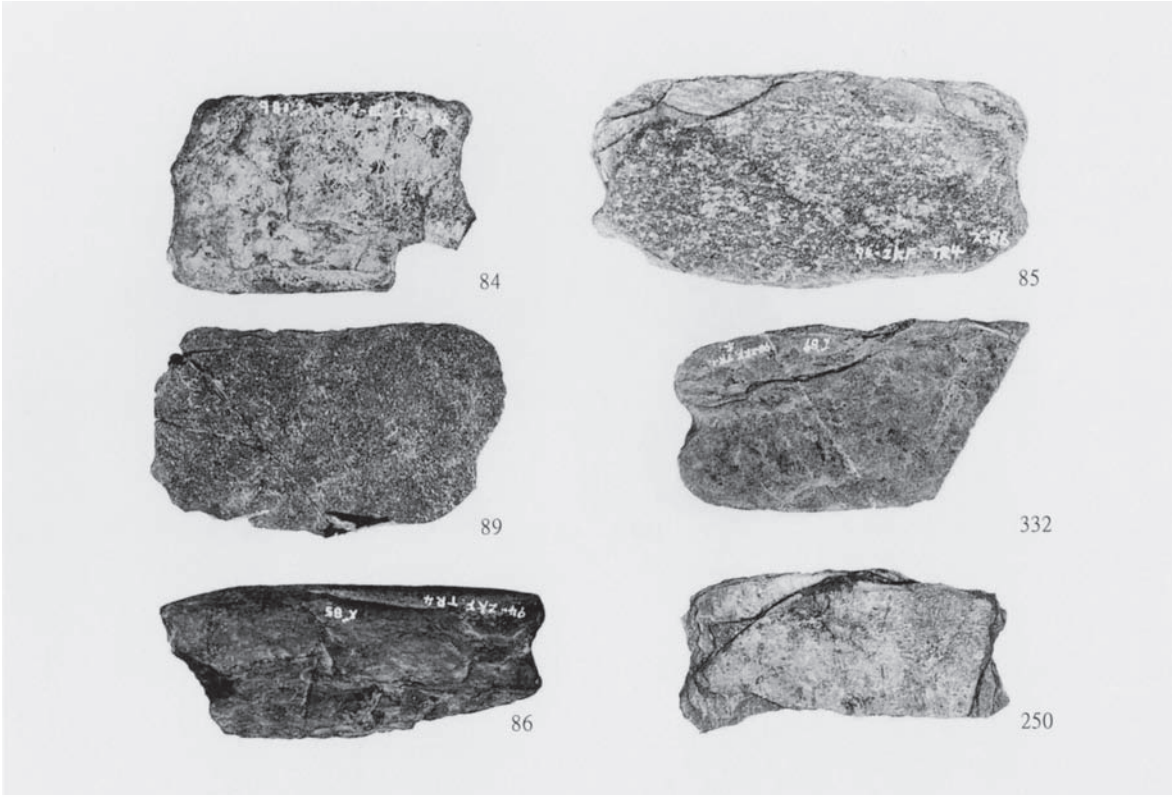
出土遺物(6)



出土遺物(7)



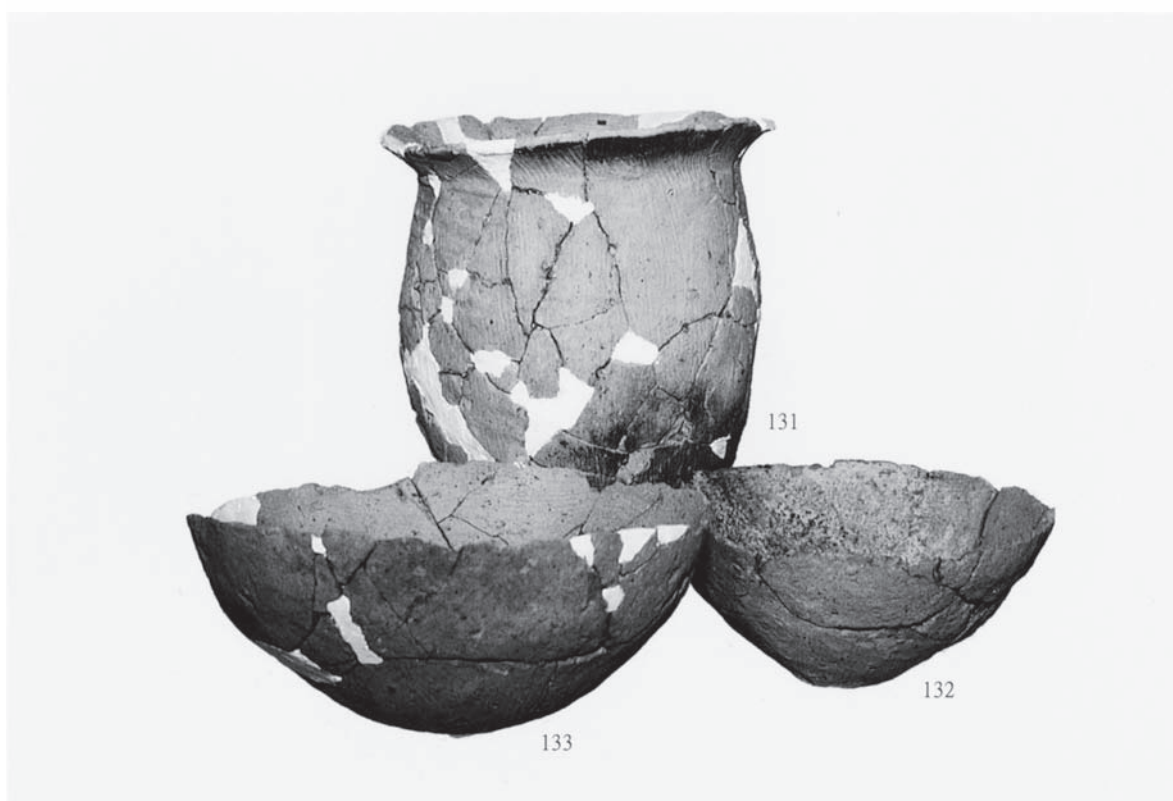
出土遺物(8)



出土遺物(9)



出土遺物(10)



出土遺物(11)

報告書抄録

ふりがな	ふくいせき							
書名	福井遺跡							
副書名	四国横断自動車道（南国～伊野）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第41集							
編著者名	江戸秀輝・坂本憲昭							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原南泉1437-1 (TEL0888-64-0671)							
発行年月日	1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ふくいせき 福井遺跡	こうちけんこうちし 高知県高知市 ふくいあざおおたに 福井字大谷 やしき 屋敷1525他	39201	010160	33° 34′ 18″	133° 30′ 32″	(本調査) 平成6年 4月18日 ～ 平成7年 2月28日	6,000m ²	四国横断自動車道（南国～伊野）建設工事に伴う事前の発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
福井遺跡	集落	弥生時代 古代 中世	弥生時代の竪穴住居跡・柱穴・土坑・溝状遺構 その他 中世の土坑	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縄文時代 石器 玦状耳飾等 ・ 弥生時代 石器 弥生土器（壺・甕鉢・高杯等） ・ 古代 須恵器 （杯・皿・壺・甕等） ・ 中世 土師器（杯） 				

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第41集

福 井 遺 跡

四国横断自動車道（南国～伊野）建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1999年3月

発行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原南泉1437-1
TEL. 0888-64-0671

印刷 (有)西村謄写堂
高知県高知市上町1丁目6-4
TEL. 0888-22-0492